

カンボジア国 ジェンダー主流化プロジェクトフェーズ2 中間レビュー <実績・実施プロセスの確認>

	評価設問		必要なデータ・	情報源	データ収集方法	
	大項目	小項目				
プロジェクトの実績	アウトプットの産出度	アウトプット1(女性省(中央および州レベル)の女性の経済的エンパワーメントに関するジェンダー主流化を促進するための連絡調整機能強化を図る)は、どのくらい達成されているか	1)PGM手法の9ステップを含むジェンダー視点に立ったプロジェクトサイクルが、ワークショップやミーティングを通じて女性省によってファシリテートされているか?	プロジェクト報告書、女性省の報告書、PPCCの報告書 関係者の認識	プロジェクトの報告書類 女性省の報告書類 関連省庁の資料 関係者への質問	資料レビュー 質問票 インタビュー
			2)これまでに、パイロットプロジェクトを通じて抽出された女性の経済的エンパワーメントに関する課題について、TWGGの小グループで論じられた回数は何回か?	プロジェクト報告書 関係者の認識		
			3)PGM手法を活用したパイロットプロジェクトの経験は、TWGGで年に一度以上共有されているか?	TWGGの年間レポート 関係者の認識		
			4)計画省との協力により、女性省によりジェンダー統計のリーフレットが更新されているか?	更新されたリーフレット 関係者の認識		
			5)女性省、州女性局、計画省、州計画局により、パイロットプロジェクトの対象州の、女性の経済的エンパワーメントに関するジェンダー統計本が作成されているか?	プロジェクトで作成された統計本 関係者の認識		
			6)これまでに、各連携局により、女性の経済的エンパワーメントの分野のジェンダー統計を活用し、州レベルの政策や開発計画が、何回作成もしくは改訂されたか?	プロジェクト報告書 関係者の認識		
			7)PGM手法ガイドライン/マニュアル(計画、モニタリング、評価のフォーマットを含む)は、改訂されているか?	改訂されたガイドライン/マニュアル 関係者の認識		
			8)これまでに、女性省と州女性局のファシリテーションにより、各局によって、州レベルにおける女性の経済的エンパワーメントに関する統計やニーズに基づく、ジェンダー視点に立った政策/開発計画やプロジェクトが、いくつ提案されたか?	作成された政策/プログラム やプロジェクトの提案書 関係者の認識		
			9)これまでに、女性省のファシリテーションにより、各連携省庁により、州レベルの女性の経済的エンパワーメントに関する統計やニーズを反映した、ジェンダー視点に立った政策/プログラムやGMAP改訂のための提案書は、いくつ作成されたか?	作成された政策/プログラム や提案書 関係者の認識		
			10)女性省と州女性局が、女性の経済的エンパワーメントの分野においてジェンダー主流化を促進するための調整やアドバイスを行う能力は強化されているか?	プロフィールサーベイの結果 関係者の認識		
		アウトプット2(女性の経済的エンパワ	1)GMAGワークショップやミーティングを通じて、9段階のPGM手法は、実施されているか?	プロジェクト報告書、女性省の報告書 関係者の認識	プロジェクト報告書類	資料レビュー 質問票

		評価設問		必要なデータ	情報源	データ収集方法
大項目		小項目				
	一メントを促進するために、中央レベルの連携省庁のジェンダー主流化のための能力と機能強化を図る)は、どのくらい達成されているか	2) これまでに、PGM 手法の習得のために全 GMAG メンバーを対象として、女性省および女性局により実施されたセミナーへ、GMAG メンバーは何人参加したか？	プロジェクト報告書、女性省の報告書 関係者の認識	女性省の報告書類 関係者への質問	インタビュー	
		3) 2012年から2014年の間に、女性の経済的エンパワメントの分野において各連携省庁(ラインの5個)の GMAP/年間計画書はいくつ改訂されたか？	修正された GMAP/年間計画 関係者の認識			
		4) これまでに、パイロットプロジェクトを通じて抽出された州レベルにおける女性の経済的エンパワメントの統計やニーズを反映させて、中央レベルの各連携省庁の GMAG メンバーは、いくつジェンダー視点に立った政策/プログラムを作成したか？	作成された政策/プログラム 関係者の認識			
		5) 中央レベルの GMAG メンバーが、女性の経済的エンパワメントの分野において、州レベルのニーズを理解し、それを政策/プログラムに反映する能力は、強化されているか？	プロフィールサーベイの結果 関係者の認識			
アウトプット3(パイロット事業の実施を通じて、州レベルの女性の経済的エンパワメントを促進するジェンダー視点に立った事業実施の能力と機能が強化される)は、どのくらい達成されているか	1) これまでに、中央と州レベルの GMAG およびジェンダーフォーカルポイントが参加した、パイロットプロジェクト調整委員会(PPCC)は、女性省および州女性局により何回開催されたか？	PPCC の報告書・ミニッツ 関係者の認識	プロジェクト報告書類 女性省の報告書類 関係者(専門家、C/P、連携省庁/コンボンチャム州の連携局)への質問	資料レビュー 質問票 インタビュー		
	2) 女性の経済的エンパワメントのためのパイロットプロジェクトの受益者(男女別)は、何人か？(また、今後の予定は？)	パイロットプロジェクト計画書、 モニタリング評価報告書 関係者の認識				
	3) パイロットプロジェクトの実施構造は確立されているか？	作成されたガイドライン、マニュアル、女性省の報告書 関係者の認識				
	4) パイロットプロジェクトのモニタリング評価のためのジェンダー視点に立った指標が、確立されているか？	プロジェクト報告書、女性省の報告書 関係者の認識				
	5) パイロットプロジェクトのモニタリング評価が、実施されているか？	モニタリング評価報告書 関係者の認識				
	6) これまでに、州レベルの統計やニーズを反映して、女性たちの経済的エンパワメントの分野における州の政策が、各連携局によっていくつ作成もしくは修正されているか？	作成/修正された政策 関係者の認識				
	7) これまでに、女性の経済的エンパワメントに関する州レベルの統計やニーズを反映するために、中央へむけて作成された、ジェンダー視点に立った施策/提言や、プロジェクトの提案は、いくつか？	作成された施策/提言、提案書 関係者の認識				
	8) パイロットプロジェクトのケース集は作成されているか？	作成されたケース集 関係者の認識				
	9) 州レベルの GMAG メンバーやジェンダーフォーカルポイントが、女性の経済的エンパワメントの分野においてフィールドのニーズを反映させた活動を行う能力が、強化されているか？	プロフィールサーベイの結果 関係者の認識				

		評価設問		必要なデータ	情報源	データ収集方法	
大項目	小項目						
活動の実績	活動の進捗状況	プロジェクトの進捗状況は全体的に良好か		プロジェクトの実績 関係者の認識	プロジェクト報告書 関係者(専門家、 C/P、連携省庁/ 局)への質問	資料レビュー 質問票 インタビュー	
	活動にあたっての 問題点	進捗に影響を与えている問題はないか？					
	問題発現時にとら れた対策	その問題を解決するためにどのような手段がとられているか？					
投入の実績	日本側の投入の実 績	専門家は計画通りに派遣されているか？		プロジェクトの実績	プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー 質問票	
		研修員は計画通りに受け入れられているか？					
		機材は計画通りに供与されているか？					
		現地コストは計画どおりに負担されているか？					
	カンボジア側の投 入実績	C/P は計画どおりに配置されているか？		プロジェクトの実績	プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー 質問票	
		経費と資材が計画通りに投入されているか？					
		土地、建物、施設は計画通りに提供されているか？					
実施 プロセスの 検証	技術移転の 方法	専門家とカウンタ ーパートとの関係	専門家の技術移転の方法、コミュニケーションの取り方、その状況は問題 がないか？	プロジェクトの実績 関係者の認識	プロジェクト報告書 関係者の認識	資料レビュー インタビュー	
	プロジェクト のマネー ジメント体制	モニタリングの実施 方法	モニタリングの仕組みに問題はないか？		プロジェクトの実績 関係者の認識	プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー 質問票 インタビュー
		PDM はどのように活用されたか？					
		意思決定方法	意思決定プロセスに C/P はどの程度関与しているか？		プロジェクトの実績 関係者の認識	プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー インタビュー
	C/P の関わり方は変化しているか？						
	JICA 本部や JICA 事務所とプロジェクトとの関係性に問題はないか？						
	C/P の認識 度	カンボジア側のオ ナーシップ	C/P のプロジェクトへの認識は高いか？ C/P の意識に変化はあるか？		関係者の認識	関係者への質問	インタビュー
	その他ステ ークホルダ ーのプロジ ェクトへの 参加度およ び関心度	ステークホルダー の事業への関わり 方はどうか	連携省庁／州連携局の関係者プロジェクトへの参加度や認識は高いか？		パイロットプロジェクト活動の 実績 関係者)の認識	プロジェクト報告書 関係者)への質問	資料レビュー インタビュー
			パイロットプロジェクトの地域の関係者や参加者はどのように関与している か				
			その他関連機関や他ドナーは、プロジェクトにどのように関与しているか (JCC、TWGG など)		プロジェクトの実績 関係者の認識	プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー インタビュー
促進要因・ 阻害要因	プロジェクトの効果 発現に影響を与え た要因はなにか	プロジェクトの効果発現を促進している要因は何か？		プロジェクトの実績 の認識	プロジェクト報告書 関係者)への質問	資料レビュー 質問票 インタビュー	
		プロジェクトの効果発現を阻害している要因はみられたか？					

カンボジア ジェンダー主流化プロジェクトフェーズ2 中間レビュー <5項目評価>

		評価設問		必要なデータ・	情報源	データ収集方法	
大項目	小項目						
妥当性	プロジェクトを実施する必要性	対象地域・社会のニーズとの整合性	プロジェクトは対象地域・社会のニーズに合致しているか？	事前評価結果 関係者への認識	事前評価報告書 プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー 質問票 インタビュー	
		ターゲットグループのニーズとの整合性	プロジェクトはターゲットグループのニーズに合致しているか？				
	優先度	相手国開発政策との整合性	カンボジア国政府の政策と合致しているか？	事前評価結果 政策資料 関係者の認識	事前評価報告書 プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー 質問票	
		日本の援助政策との整合性	日本の援助重点課題や JICA 事業実施方針との整合性はあるか？				
	手法としての適切性	プロジェクト目標・アウトプットの選択、ターゲットグループの選定の適正度	プロジェクトのデザインや計画は、対象地域のジェンダー主流化・女性の経済的エンパワーメントの手法として適切か？	事前評価結果 プロジェクトの実績 関係者の認識	事前評価報告書 プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー 質問票 インタビュー	
プロジェクト対象地域の選択は適切か？							
プロジェクトのターゲットグループの規模、男女比は適正か？							
プロジェクトの効果は公平に分配されているか？							
その他	事前評価以降プロジェクトを取り巻く環境の変化	日本が協力する比較優位はあるか？	関係者の認識	プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー インタビュー		
		事前評価以降プロジェクトに影響を及ぼすような環境の変化（政策、経済、社会など）はみられるか？					
有効性	プロジェクト目標の達成度	プロジェクト目標（ジェンダー主流化メカニズムの強化を通じて、女性省の調整により、連携省庁が女性の経済的エンパワーメントを促進する事業を効果的に実施する体制が整う）の達成予測	これまでに、パートナー省庁により実施された女性の経済的エンパワーメントを促進する事業数はいくつか？	プロジェクトの実績 連携省庁の実績 関係者の認識	プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー 質問票 インタビュー	
		プロジェクト目標達成を阻害する要因	（上記の）連携省庁によって実施された事業によって裨益された受益者（男女別）の人数は、これまでに何人か？				
		プロジェクト目標達成を阻害する要因	プロジェクト目標の達成を阻害するような要因はあるか？ある場合どのような対処方法がとられているか？				
	アウトプットとプロジェクト目標との因果関係	プロジェクト目標達成を貢献・阻害する要因の有無	アウトプットの充足度	アウトプットは達成されているか？	(実績表の通り)	(実績表の通り)	資料レビュー
			プロジェクト目標達成を貢献・阻害する要因の有無	アウトプットの達成を通じて、プロジェクト目標が達成されているか？	プロジェクトの実績 関係者の認識	プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー インタビュー
プロジェクト以外に貢献する要因はあるか？							
アウトプット間の相乗効果はみられるか？							
		外部要因の影響はみられるか？（新地方分権体制後も、関係省庁の機能や権限が維持されているか）	プロジェクトの実績 関係者の認識	プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー インタビュー		
		そのほかに阻害要因はみられるか？					

		評価設問		必要なデータ	情報源	データ収集方法
大項目	小項目					
効率性	投入及び活動とアウトプットの因果関係	活動の達成度	プロジェクト活動は計画通り達成されているか？	(実績表の通り)	(実績表の通り)	資料レビュー
		活動の適正度	プロジェクト活動はアウトプットを産出するために十分か？	プロジェクトの実績類似案件との比較関係者の認識	プロジェクト報告書類似案件報告書関係者への質問	資料レビューインタビュー
		投入の適正度	アウトプットを産出するために適切な投入がなされているか？			
			類似プロジェクトと比較して妥当なコストか？			
	阻害要因	アウトプットの充足を阻害する要因の有無	外部条件の影響はみられるか？(女性省・州女性局のスタッフがC/Pとしてプロジェクトとの業務をおこなっているか？)(女性省・州女性局のC/Pの大半が交代していないか？)	プロジェクトの実績関係者の認識	プロジェクト報告書関係者への質問	資料レビューインタビュー
			そのほかにアウトプットの充足を阻害する要因はみられたか？			
		効率性を阻害する要因	効率性を阻害する要因はみられるか？みられる場合、どのような対処がとられているか？			
	投入のタイミング・量・質	投入の適正度	専門家の人数、タイミング、分野は適正か？	プロジェクトの実績関係者の認識	プロジェクト報告書関係者への質問	資料レビュー質問票インタビュー
			供与機材の種類、機種、数、タイミングは適正か？			
			研修員の受け入れのタイミング、人数、研修内容は適正か？			
プロジェクト運営費の量、タイミングは適正か？						
計画通り投入が実施されているか？						
配置されたC/Pの人数、タイミング、分野は適正か？						
供与された施設設備の規模、タイミング、質は適正か？						
インパクト	上位目標の達成の予測	上位目標(カンボジア国において、関係省庁によるジェンダー視点に立った施策や事業を通じて、女性の経済的エンパワーメントが促進される)の達成見込み	関係者の認識	関係者への質問	インタビュー	
		上位目標の達成を阻害する要因の有無				(事前評価以降)社会経済的、社会文化的要因など変化していないか？今後変化しないか？
						他に上位目標の達成を阻害する要因はないか？
	因果関係	プロジェクト目標から上位目標までのロジックの適正度	上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか？	関係者の認識	関係者への質問	インタビュー
			プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件の設定は適切か、外部条件が満たされる可能性は高いか			
	波及効果	想定外のプラスの要因の有無	他の機関への波及効果の事例はみられるか？	他の機関の実績政策などの政府報告書類プロジェクトの実績関係者の認識	他機関の報告書政府報告書プロジェクト報告書関係者への質問	資料レビュー質問票インタビュー
政策・法律・制度への影響、ジェンダー・人権への影響、貧富の差など社会・文化的側面への影響、技術面での変革はみられるか？						

		評価設問		必要なデータ・	情報源	データ収集方法	
大項目	小項目						
持続性	想定外のマイナスの要因の有無	対象社会・プロジェクト関係者・受益者などへの経済的影響はあるか？		政府の政策(国家計画、地域開発計画、女性省の事業計画)関係者の認識	政府報告書 プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー 質問票 インタビュー	
		他の機関へのマイナスの影響はみられるか？					
		政策・法律・制度への影響、ジェンダー・人権への影響、貧富の差など社会・文化的側面への影響、技術面でのマイナスの影響はみられるか？					
		対象社会・プロジェクト関係者・受益者などへのマイナスの経済的影響はあるか？					
		負の影響が生じている場合、何か対策がとられているか？					
	政策・制度面	制度的支援は協力終了後も継続するか	プロジェクト終了後も、ジェンダー主流化にする政策的支援は継続する見込みはあるか？		プロジェクトの実績 関係者の認識	プロジェクト報告書 関係者への質問	質問票 インタビュー
	組織面	女性省の組織能力	プロジェクト終了後の、女性省に事業を継続する組織能力が備わっているか？				
		連携省庁(特に GMAG)の組織能力	プロジェクト終了後の、連携省庁に活動を継続する組織能力が備わっているか？				
	財政面	女性省の予算の安定度	プロジェクト終了後の、女性省に事業を継続する財政力が備わっているか？		政府事業計画 関係者の認識	政府事業計画 関係者への質問	資料レビュー インタビュー
	技術面	移転した技術の定着と普及の可能性	C/P は定着しているか？		プロジェクトの実績 関係者の認識	プロジェクト報告書 関係者への質問	資料レビュー 質問票 インタビュー
移転された技術を、プロジェクト終了後も C/P や普及員は継続して普及していく見込みはあるか？							
連携省庁(特に GMAG)は、プロジェクトを通じて実施した各種活動を継続することができるか？							
施設・機材はプロジェクト終了後も適切に維持管理される見込みはあるか？							
社会・文化環境面	社会、文化、環境への影響の可能性	女性、貧困層、社会的弱者への配慮不足により持続的効果を妨げる可能性はないか？		関係者の認識	関係者への質問	質問票 インタビュー	
		環境への配慮不足により持続的効果を妨げる可能性はないか？					
促進・阻害要因	効果を持続させるための促進要因と阻害要因	プロジェクトで得られた効果が引き続き発現していくために必要な要因(促進要因)は何か		関係者の認識	関係者の認識	質問票 インタビュー	
		プロジェクトで得られた効果が引き続き発現してゆく際に阻害要因となるものは何か					

カンボジア国 ジェンダー主流化プロジェクトフェーズ2

2012年12月31日現在(未実施の活動は、斜線で標記)

指標 (PDM)		指標の達成度		関連報告書(*)
Number (more than XXX in each line ministry) of the activities for women's economic empowerment implemented by the line ministries		3つの成果(女性省の機能強化、連携省庁の能力とメカニズムの強化、連携州局の能力とメカニズムの強化)が達成されたとしても、連携省庁の予算制約が大きく達成は難しいと思われる。		-
Number (XXX) of the beneficiaries (women and men) targeted by the activities of the line ministries.		連携省庁の予算制約が大きく上記指標の達成が難しいと思われる中、この指標の達成も難しいと思われる。		-

  

指標 (PDM)	活動タイトル	日付	主な目的	参加者、対象者	指標の達成度	関連活動 (PDM)	関連報告書(*)
1-1. Gender responsive project cycle, including nine steps of PGM Methods, is facilitated by MOWA through workshops and meetings.	第1回PGMワークショップの開催	2011年 1月31日-2月1日	PGM2についての理解促進、パイロットプロジェクト策定のための問題分析の実施。	女性省CP/連携省庁GMAGメンバー(計23名)、KPC州副知事/女性局/連携州局(計19名)	女性省は、連携省庁GMAGメンバーおよびコンボンチャム連携州局関係者に対して、PGM手法に基づいた問題分析、ジェンダー統計、調査、モニタリング・評価に関するワークショップを開催した。女性省CPはプログラム内容の検討を含めた準備を行い、実施の際にはグループワークのファシリテーターを務め、ワークショップの成功に貢献した。	1-1、1-2、2-1、3-5	A
	第2回PGMワークショップの開催	2011年 5月11-12日	ジェンダー統計への理解促進、パイロットプロジェクト実施に向けて必要な情報の明確化、パイロットプロジェクト案の議論。	女性省CP/連携省庁GMAGメンバー(計27名)、KPC州副知事/女性局/連携州局(計19名)		1-2、2-1、3-5	B
	第3回PGMワークショップの開催	2011年 7月7-8日	マーケット調査結果概要の共有、ベースライン調査についての議論、パイロットプロジェクト案の議論。	女性省CP/連携省庁GMAGメンバー(計23名)、KPC州副知事/女性局/連携州局(計18名)		1-2、2-1、3-4、3-5	B
	第4回PGMワークショップの開催	2011年 9月15-16日	ベースライン調査結果の共有、パイロットプロジェクト指標についての議論、モニタリング・評価についての理解促進。	女性省CP/連携省庁GMAGメンバー(計22名)、KPC州副知事/女性局/連携州局(計15名)		1-2、2-1、3-5	B
	連携州局を対象にした政策提言のためのワークショップの開催	2013年7月および2015年2月予定	コンボンチャム州パイロットの経験を踏まえ、女性省および州女性局のファシリテーションのもと、州連携局が州開発計画改訂および省GMAGメンバーへの政策提言を策定する。	女性省、KPC州女性局、KPC連携州局	2013年7月および2015年2月にワークショップ開催を通じて達成予定。	1-6、2-3、2-4、3-7、3-8、3-11、3-12	-
	連携省庁を対象にした政策やGMAG改訂のための提言策定ワークショップの開催	2013年8月および2015年3月予定	コンボンチャム州パイロットの経験やコンボンチャム州局からの提言を踏まえ、女性省のファシリテーションのもと、連携省庁がGMAG改訂や政策提言を策定する。	女性省、連携省庁	2013年8月および2015年3月にワークショップを通じて達成予定。	1-6、1-7、2-3、2-4、3-7、3-8、3-12	-

		PGM手法改訂のためのワークショップ開催	2013年1月-5月および2015年1月-3月予定	女性省のファシリテーションのもと、コンボンチュナン州女性局および関係州局がPGM手法を学ぶとともに、コンボンチャム州およびコンボンチュナン州のワークショップをつうじて女性省がPGM手法を改訂する。	女性省、連携省庁、コンボンチャム州およびコンボンチュナン州連携・関係州局	2013年1月-5月および2015年1月-3月にワークショップを通じて達成予定。	1-2、1-5、1-10、2-2	-
1-2.	Number(XXX times a year) of small working group meetings of TWGG to discuss issues on women's economic empowerment identified through the Pilot Project(s)	TWGGサブグループの設置	2013年第1四半期目途	TORについては女性省PBA委員会女性の経済的エンパワメントワーキンググループ(設置予定)と議論する。	女性省	女性省PBA委員会女性の経済的エンパワメントワーキンググループ設置時期とあわせ設置(2013年第1四半期目途)。	1-3-2	-
		TWGGサブグループの開催	2013年第1四半期目途	PDM活動(1-3-2):「コンボンチャム州パイロットプロジェクトも含め、女性の経済的エンパワメントを目指した事業の経験や教訓などを共有する」	女性省	開催頻度については女性省PBA委員会女性の経済的エンパワメントワーキンググループと協議して決定する(2013年第1四半期目途)。	1-3-2、3-7、3-8	-
1-3.	Number (at least once a year) of TWGG meetings to share the experiences of the Pilot Project(s) with the use of PGM Methods.	TWGGの開催	第32回:2010年12月21日 第33回:2011年5月3日 第34回:2011年8月11日 第35回:2011年12月19日 第36回:2012年4月19日 第37回:2012年9月4日	女性省TWGG事務局がJICAとUNDPの協力でTWGGを開催する。	女性省	プロジェクト開始後6回のTWGG会議が開催されたが、このうちプロジェクトがTWGG事務局に対し開催支援を行ったのが2回(第33・37回)、アサインの関係で日本人が参加できなかったのが2回(第32・36回)。	1-3-1	A, B, C, E, F
		TWGGでのパイロットプロジェクトの経験の共有	未実施(今年度から開始予定)	TWGGで女性省と連携省庁がパイロットプロジェクトの経験をTWGG参加者と共有する。	女性省、連携省庁	農業パイロットプロジェクトについては2012年10月までの経験や成果の取り纏めを始めており、それを待って今年度中に一度行う。	1-3-1、1-3-3、3-7、3-8	-
1-4.	Updated gender statistics leaflet by MOWA in cooperation with MOP.	ジェンダー統計リーフレットの作成・配布	2012年3月から毎年	毎年の「国際女性の日」にあわせ、ジェンダー統計リーフレットをアップデートし、広く配布する。	女性省、計画省	女性省が毎年、計画省からのジェンダー統計情報の収集、分析および取りまとめを行い、ジェンダー統計リーフレットのアップデートを行う。	1-4-1	C, G
1-5.	Developed provincial gender statistics booklets in the area of women's economic empowerment in the Pilot Project provinces by MOWA, PDWA, MOP and PDOP	女性の経済的エンパワメント分野の州ジェンダー統計冊子の作成	2011年11月および2013年8月	政策策定時などに活用されるために、州の女性の経済的エンパワメントに関連するジェンダー統計を冊子に取り纏める。	(2011年11月)女性省、KPC州女性局、計画省、KPC州計画局	コンボンチャム州については、2011年11月、女性省および州女性局と計画省および計画局が協力し、情報収集、分析および取り纏めを行い、冊子としてコンボンチャム州政府および全省の州出先局に配布した。コンボンチュナン州については、2013年8月に冊子として取り纏める予定。	1-2、1-4-2、3-11、3-12	C, H
1-6.	Number (more than XXX in each partner provincial department) of developed / revised provincial policies and plans utilizing the provincial gender statistics in the area of economic women's empowerment	州政策・計画の策定・修正	2013年7月および2015年2月予定	女性の経済的エンパワメント関係の統計情報を活用し、連携州局が州政策・計画を策定・修正する。	女性省、KPC州女性局、KPC連携州局	2013年7月および2015年2月に女性省および州女性局開催のワークショップを通じて達成予定。	1-4-2、1-6、3-7、3-8、3-11	-
1-7.	Revised PGM Methods guidelines/manuals which include planning, monitoring and evaluation formats.	PGM手法の改訂	2013年1月-5月および2015年1月-3月予定	コンボンチャム州およびコンボンチュナン州のPGMワークショップの経験をととして女性省がPGM手法を改訂する。	女性省、連携省庁、コンボンチャム州およびコンボンチュナン州連携・関係州局	2013年1月-5月および2015年1月-3月に女性省開催のワークショップを通じて達成予定。	1-2、1-5、1-10、2-2	-



1-8.	Number (more than XXX from each provincial department) of recommendations for gender-responsive (national and sub-national) policies/programs and projects based on the statistics and needs for women's economic empowerment at the sub-national level through facilitation of MOWA and PDWA.	省や州の政策などをジェンダー視点に立ったものにするための提言策定	2013年7月および2015年2月予定	統計や女性の経済的エンパワーメントのニーズを踏まえ、女性省および州女性局のファシリテーションのもと、連携州局が各省・州へのジェンダー視点に立った政策提言を策定する。	女性省、KPC州女性局、KPC連携州局	2013年7月および2015年2月に女性省および州女性局開催のワークショップを通じて達成予定。	1-6, 2-3, 2-4, 3-7, 3-8, 3-11, 3-12	-
1-9.	Number (more than XXX from each partner ministry) of Gender responsive policy/programs and recommendations to revise GMAP are developed to integrate statistics and needs for women's economic empowerment at the sub-national level through facilitation of MOWA	ジェンダー視点に立った政策等やGMAP改訂のための提言策定	2013年8月および2015年3月予定	統計や女性の経済的エンパワーメントを踏まえ、女性省のファシリテーションのもと、連携省庁がジェンダー視点に立った政策等やGMAP改訂のための提言を策定する。	女性省、連携省庁	2013年8月および2015年3月に女性省開催のワークショップを通じて達成予定。	1-6, 1-7, 1-8, 2-3, 2-4, 3-7, 3-8, 3-12	-
1-10.	Capacity of MOWA and PDWA to coordinate and advice for promotion of gender mainstreaming is strengthened in the area of women's economic empowerment.	女性省及び州女性局の能力強化	プロジェクト期間をとおして	成果1のすべての活動をとおして、女性省および州女性局の女性の経済的エンパワーメント分野のジェンダー主流化を促進するための調整・助言能力を強化する。	女性省CPおよびKPC州女性局	プロジェクト開始後および終了時のプロフィール調査結果を比較して検証する。プロジェクト開始後のプロフィール調査は、2011年6月に実施。	成果1の全活動	B

成果2: Capacity and mechanism to promote women's economic empowerment through gender mainstreaming are strengthened in partner line ministries at the national level.

指標 (PDM)	活動タイトル	日付	主な目的	参加者、対象者	指標の達成度	関連活動 (PDM)	関連報告書(*)	
2-1.	All the nine steps of PGM Methods are exercised by GMAG members of the partner line ministries at the national level through workshops and meetings	第1回PGMワークショップへの参加	2011年 1月31日-2月1日	PGM2についての理解促進、パイロットプロジェクト策定のための問題分析の実施。	女性省CP/連携省庁GMAGメンバー(計23名)、KPC州副知事/女性局/連携州局(計19名)	連携省庁GMAGメンバーは、女性省が開催するPGMワークショップ参加を通じて、PGM手法に基づいた問題分析、ジェンダー統計、調査、モニタリング・評価に学んだ。	1-1, 1-2, 2-1, 3-5	A
		第2回PGMワークショップへの参加	2011年 5月11-12日	ジェンダー統計への理解促進、パイロットプロジェクト実施に向けて必要な情報の明確化、パイロットプロジェクト案の議論。	女性省CP/連携省庁GMAGメンバー(計27名)、KPC州副知事/女性局/連携州局(計19名)		1-2, 2-1, 3-5	B
		第3回PGMワークショップへの参加	2011年 7月7-8日	マーケット調査結果概要の共有、ベースライン調査についての議論、パイロットプロジェクト案の議論。	女性省CP/連携省庁GMAGメンバー(計23名)、KPC州副知事/女性局/連携州局(計18名)		1-2, 2-1, 3-4, 3-5	B
		第4回PGMワークショップへの参加	2011年 9月15-16日	ベースライン調査結果の共有、パイロットプロジェクト指標についての議論、モニタリング・評価についての理解促進。	女性省CP/連携省庁GMAGメンバー(計22名)、KPC州副知事/女性局/連携州局(計15名)		1-2, 2-1, 3-5	B

		政策やGMAP改訂のための提言策定ワークショップへの参加	2013年8月および2015年3月予定	コンボンチャム州パイロットの経験やコンボンチャム州局からの提言を踏まえ、女性省のファンリテーションのもと、連携省庁がGMAP改訂や政策提言を策定する。	女性省、連携省庁	2013年8月および2015年3月にワークショップを通じて達成予定。	1-6, 1-7, 2-3, 2-4, 3-7, 3-8, 3-12	-
2-2.	Number (XXX) of GMAG members participated in the seminars organized by MOWA and PDWA for all the GMAG members to learn the PGM Methods.	第1回PGMワークショップへの参加	2011年 1月31日-2月1日	PGM2についての理解促進、パイロットプロジェクト策定のための問題分析の実施。	女性省CP/連携省庁 GMAGメンバー(計23名)、KPC州副知事/女性局/連携州局(計19名)	13名 (MOC2名、MAFF4名、MOP1名、MRD1名、MLVT1名、MIME4名)	1-1, 1-2, 2-1, 3-5	A
		第2回PGMワークショップへの参加	2011年 5月11-12日	ジェンダー統計への理解促進、パイロットプロジェクト実施に向けて必要な情報の明確化、パイロットプロジェクト案の議論。	女性省CP/連携省庁 GMAGメンバー(計27名)、KPC州副知事/女性局/連携州局(計19名)	12名 (MOC2名、MAFF3名、MOP1名、MRD0名、MLVT2名、MIME4名)	1-2, 2-1, 3-5	B
		第3回PGMワークショップへの参加	2011年 7月7-8日	マーケット調査結果概要の共有、ベースライン調査についての議論、パイロットプロジェクト案の議論。	女性省CP/連携省庁 GMAGメンバー(計23名)、KPC州副知事/女性局/連携州局(計18名)	10名 (MOC1名、MAFF4名、MOP1名、MRD1名、MLVT0名、MIME3名)	1-2, 2-1, 3-4, 3-5	B
		第4回PGMワークショップへの参加	2011年 9月15-16日	ベースライン調査結果の共有、パイロットプロジェクト指標についての議論、モニタリング・評価についての理解促進。	女性省CP/連携省庁 GMAGメンバー(計22名)、KPC州副知事/女性局/連携州局(計15名)	9名 (MOC0名、MAFF3名、MOP0名、MRD1名、MLVT2名、MIME3名)	1-2, 2-1, 3-5	B
		政策やGMAP改訂のための提言策定ワークショップへの参加	2013年8月および2015年3月予定	コンボンチャム州パイロットの経験やコンボンチャム州局からの提言を踏まえ、女性省のファンリテーションのもと、連携省庁がGMAP改訂や政策提言を策定する。	女性省、連携省庁	2013年8月および2015年3月のワークショップを通じて達成予定。	1-6, 1-7, 2-3, 2-4, 3-7, 3-8, 3-12	-
		PGM手法紹介のセミナーへの参加	2015年8月予定	女性省と州女性局がPGM手法を広めるために開催するセミナーに参加する。	女性省、全州女性局、PGM2に関わらない連携省庁GMAGメンバー	2015年8月のセミナーを通じて達成予定。	1-5, 1-10, 2-2	-
2-3.	Number (each five partner line ministry) of revised GMAP/annual plans of partner line ministries in the area of economic women's empowerment in 2012 and 2014.	GMAPの改訂	2012年2-3月および2014年	コンボンチャム州パイロットプロジェクトの経験や教訓等を踏まえ、女性省のファンリテーションのもと、連携省庁がGMAP改訂を行う。	女性省、連携省庁	パイロットプロジェクトの経験はまだ抽出されていなかったが、農村開発省(2012年-2016年)及び商業省(2012年-2017年)の強い要望により2012年にこの2省のGMAP改訂を支援した。	1-6, 1-7, 1-8, 2-3, 3-7, 3-8, 3-12	C, I, J
2-4.	Number (more than XXX in each partner line ministry) of gender responsive policies/ programs developed by GMAG members of the partner line ministries at the national level reflecting the statistics and needs for women's economic empowerment in the sub-national level based on the experiences of the Pilot Project(s).	ジェンダー視点に立った政策等の策定	2013年8月および2015年3月予定	コンボンチャム州パイロットの経験などを踏まえ、女性省のファンリテーションのもと、連携省庁がジェンダー視点に立った政策等を策定する。	女性省、連携省庁	2013年8月および2015年3月にワークショップを通じて達成予定。	1-6, 2-4, 3-7, 3-8, 3-12	-

2-5.	Capacity of GMAG members at the national level is strengthened to understand needs in the sub-national level in the area of women's economic empowerment and reflect them to policies/programs	連携省庁GMAGメンバーの能力強化	プロジェクト期間をとおして	成果2のすべての活動をとおして、連携省庁GMAGメンバーの、州レベルの女性の経済的エンパワーメント分野のニーズを理解しそれらを政策等に反映させる能力を強化する。	連携省庁GMAGメンバー	プロジェクト開始後および終了時のプロファイル調査結果を比較して検証する。プロジェクト開始後のプロファイル調査は、2011年6月に実施。	成果2の全活動	B
------	--	-------------------	---------------	--	--------------	---	---------	---

成果3: Capacity and mechanisms to implement gender responsive activities for enhancing women's economic empowerment are strengthened at the sub-national level through implementation of the Pilot Project(s).

指標 (PDM)		活動タイトル	日付	主な目的	参加者、対象者	指標の達成度	関連活動 (PDM)	関連報告書(*)
3-1.	Number (XXX times a year) of Pilot Project Coordination Committee (PPCC) meetings of the Pilot Project(s) coordinated by MOWA and PDWA and participated by GMAG and Gender Focal Points (both at the national and sub-national level).	PPCC設置	第一年次	パイロットプロジェクトの全体管理やモニタリングを行う。	KPC州副知事 (PPCC議長)/女性局 (PPCCメンバー)/連携州局 (PPCCメンバー)	KPC州副知事を議長に、州女性局および連携州局の局長レベルをメンバーに、PPCCが設置された。	3-2	A
		PPCC会議開催	第1回: 2011年4月11日 第2回: 2011年5月26日 第3回: 2011年7月5日 第4回: 2011年8月25-26日 第5回: 2011年11月3日 第6回: 2011年12月7日 第7回: 2012年1月10日 第8回: 2012年2月8日 第9回: 2012年3月6日 第10回: 2012年3月30日 第11回: 2012年7月5日 第12回: 2012年8月9日 第13回: 2012年9月5日 第14回: 2012年10月5日 第15回: 2012年11月14日 第16回: 2012年12月11日	パイロットプロジェクト計画立案、進捗情報や課題の共有、課題解決の議論、意思決定を行うために、基本的にコンボンチャム州で毎月開催。	KPC州副知事 (PPCC議長)/女性局 (PPCCメンバー)/連携州局 (PPCCメンバー)、女性省CP、連携省庁GMAGメンバー (オブザーバー)	当初はパイロットプロジェクト計画立案のための議論を目的に、2011年10月のパイロットプロジェクト開始以降は、パイロットプロジェクトの進捗情報や課題の共有、課題解決の議論、意思決定を行うために、女性省およびKPC州女性局をコーディネーターに、KPC州副知事を議長に、基本的にコンボンチャム州で毎月開催。現時点で計16回開催。	3-2、3-8、3-10	K

3-2.	Number (XXX person) of the beneficiaries (men/women) of the Pilot Project(s) for women's economic empowerment.	農業パイロットプロジェクト実施	2011年10月-2012年10月 (実施のための準備期間も含める。研修実施期間は、第1サイクル:2011年11月-2012年3月、第2サイクル:2012年7月-10月)	養鶏活動を通じた女性の経済的エンパワメントを目指し、州女性局による調整のもと、連携州局がそれぞれの役割を果たしながら一つのパイロットプロジェクトを実施する。	コンボンチャム州ブレイトコール郡6村	1) トレーニング参加世帯数: 354世帯 第1サイクル: 260世帯 第2サイクル: 223世帯(女性代表者 122世帯、男性代表者 94世帯) (第2サイクルのうち192世帯は第1サイクルと重複しているので、全354世帯がトレーニングに参加。参加者登録は村長が担当しており、データの正確性には課題もある。) 2) トレーニング参加延べ人数 第1サイクル(6村8セッション): 女性756人、男性599人 第2サイクル(6村15セッション): 女性1,516人、男性716人 (トレーニングに参加していないが、技術を活用している農家も多く、また、対象村外にも普及しているようである。) 3) 経済効果 第1サイクル終了時の36世帯を対象にした簡易調査では、27世帯が黒字、4世帯が赤字、1世帯が養鶏活動を始めていない、4世帯がデータ無し(不在)だった。赤字は初期投資直後に調査を行ったためと思われるが、長期的な分析が必要。増益になっているか否かは、ベースラインデータが取れていないため不明。 4) 経済効果が女性に及ぼす影響については現在調査中。	3-7	L
			2012年12月-2103年3月まで第3サイクル実施予定	養鶏活動を通じた女性の経済的エンパワメントを目指し、州女性局による調整のもと、連携州局がそれぞれの役割を果たしながら一つのパイロットプロジェクトを他の郡で実施する。	コンボンチャム州オーラオン郡4村	第3サイクル終了後に最終参加者数を確認する予定。	3-7	-
		農産加工パイロットプロジェクト実施	2011年10月-継続中	農産加工活動を通じた女性の経済的エンパワメントを目指し、州女性局による調整のもと、連携州局がそれぞれの役割を果たしながら一つのパイロットプロジェクトを実施する。	コンボンチャム州ブレイトコール郡4村	1) トレーニング参加延べ人数は102人(女性91人、男性11人)。 2) 現時点でうち14人(全員女性)が何らかの形で商業生産、29人(うち男性3名)が自家消費・試験生産を実施。 3) 商業レベルで生産を行っていない者でもこの間の研修で学んだ出納簿の付け方や商品包装の仕方を他のビジネスなどで活かしている者があり、また研修を行った商品以外の商品を開発・販売始めた対象者もいる。 4) 2012年12月にブノンベンで開催されたトレードフェア(商業省主催)には希望する40名(女性35名、男性5名)の対象者が参加し、他商品、ディスプレイ、パッケージについて学ぶとともに、うち8名と2グループが自分たちの商品をトレードフェアで展示・販売を行い、自分たちの商品に対して外部からの評価を受けた。	3-7	M

3-3.	Established pilot project implementation structure.	パイロットプロジェクト実施体制の整備	PGMワークショップ開催からパイロットプロジェクト期間をとおして	連携州局が協力して一つのパイロットプロジェクトを実施することで相乗効果を生み出す。また、D&Dの進捗に応じて州政府とも協力する。	KPC州女性局/連携州局	PGMワークショップやPPCC会議、パイロットプロジェクト実施をとおして、パイロットプロジェクトにおけるPPCCの役割(全体管理、モニタリング)、州女性局の役割(調整、ジェンダー視点からの助言、ジェンダーモニタリング・評価)、州計画局の役割(技術モニタリング主導)および連携州局(技術研修・助言)が明確になり実施体制が整ったが、今後D&Dの進捗もみながら州政府との協力も模索する。	3-1, 3-6	L, M
3-4.	Established gender-responsive indicators for monitoring and evaluation of the Pilot Project(s)	パイロットプロジェクトのモニタリング・評価のためのジェンダー視点に立った指標の設定	農業パイロットプロジェクト:2013年第1四半期中目途。 農産加工パイロットプロジェクト:2013年第2四半期中目途。	ジェンダー視点からのパイロットプロジェクトのモニタリング・評価の実施のための指標を設定する。	女性省CP/連携省庁GMAGメンバー、KPC州副知事/女性局/連携州局	第4回PGMワークショップを通じて参加者で指標案の設定を行った。 農業パイロットプロジェクトについては、第2サイクル終了評価や第3サイクル対象地ベースライン調査などを通じて最終案を設定予定。 農産加工パイロットプロジェクトについては、ベースライン調査などを通じて最終案を設定予定。	1-2, 3-8	-
3-5.	Monitoring and evaluation of the Pilot Project(s) conducted	パイロットプロジェクトモニタリング・評価の実施	2011年10月からパイロットプロジェクト期間をとおして	パイロットプロジェクトの進捗及び成果を確認する。	KPC州副知事/女性局/連携州局、女性省CP/連携省庁GMAGメンバー	PPCC議長およびメンバーによる月例報告書作成、毎月のPPCC会議開催、フィールドアセスメント/技術モニタリングの実施を通じてモニタリング活動を実施している。 農業パイロットプロジェクトについては、第1サイクルおよび第2サイクル終了後にサイクル終了時評価を実施している(第1サイクル:2012年4月、第2サイクル:2012年12月)。 ジェンダーモニタリング・評価については、上記指標設定後に開始する。	1-9, 3-8, 3-9, 3-10	D, E, K, L, M
3-6.	Number (more than XXX in each partner provincial department) of developed/ revised provincial policies in the area of women's economic empowerment to reflect statistics and needs at the sub-national level.	州政策の策定・修正	2013年7月および2015年2月予定	州の統計や女性のニーズを反映し、連携州局が女性の経済的エンパワーメント分野で州政策を策定・修正する。	女性省、KPC州女性局、KPC連携州局	2013年7月および2015年2月に女性省および州女性局開催のワークショップを通じて達成予定。	1-4-2, 1-6, 3-7, 3-8, 3-11	-
3-7.	Number (more than XXX in each partner provincial department) of recommendations developed for gender-responsive policies/programs and projects to national level based on the statistics and needs for women's economic empowerment at the sub-national level.	ジェンダー視点に立った政策等を立案するための省への提言策定	2013年7月および2015年2月予定	州の統計や女性の経済的エンパワーメントのニーズを踏まえ、連携州局が省へのジェンダー視点に立った政策提言を策定する。	女性省、KPC州女性局、KPC連携州局	2013年7月および2015年2月に女性省および州女性局開催のワークショップを通じて達成予定。	1-6, 2-3, 2-4, 3-7, 3-8, 3-12	-
3-8.	Developed booklet of cases of the Pilot Project(s)	パイロットプロジェクト事例集の作成	2015年3月予定	女性省がPPCCと協力し、パイロットプロジェクトの経験を取り纏めた事例集を作成する。	女性省、PPCC	2015年3月に取り纏め予定。	3-13	-

3-9.	Capacity of GMAG members and/or gender focal points at the sub-national level is strengthened to implement activities reflecting needs at the field level in the area of women's economic empowerment and feedback them to policies/programs both at the national and sub-national levels.	連携州局の能力強化	プロジェクト期間をとおして	成果3のすべての活動をとおして、州連携局の、州レベルの女性の経済的エンパワーメント分野のニーズを反映した活動を実施し、それらを中央と州の政策等に反映させる能力を強化する。	連携州局	プロジェクト開始後および終了時のプロフィール調査結果を比較して検証する。プロジェクト開始後のプロフィール調査は、2011年6月に実施。	成果3の全活動	B
------	--	-----------	---------------	---	------	---	---------	---

関連報告書(\*)

- A: 第一年次業務完了報告書(2010年9月-2011年2月)
- B: 第二年次業務進捗報告書(2011年4月-9月)
- C: 第二年次業務完了報告書(2011年4月-4月)
- D: 第二年次コンボンチャム州パイロットプロジェクトモニタリング報告書
- E: 第三年次業務進捗報告書(2012年5月-9月)
- F: TWGG会議資料・議事録
- G: ジェンダー統計リーフレット(2012年1月)
- H: コンボンチャム州ジェンダー統計冊子
- I: 農村開発省GMAP(2012年-2016年)
- J: 商業省GMAP(2012年-2017年)
- K: PPCC議事録
- L: 農業パイロットプロジェクト関連文書
- M: 農産加工パイロットプロジェクト関連文書

#### 4. 質問票及び回答結果

##### 質問票及び回答結果

###### (1) 質問票調査の対象者

質問票は対象者によってA～C までの6種類を準備した。それぞれの対象者は下記の通り。

対象者		質問票 Type	人数	
A	女性省カウンターパート	プロジェクトダイレクター、プロジェクトマネージャー、ジェンダー平等局長、経済開発局長	Type A-1	4名
		計画統計局長	Type A-3	1名
		その他の中央レベルの職員	Type A-4	8名
B	日本人専門家	総括	Type A-2	1名
		その他の専門家	Type B	8名
C	連携省庁 GMAG メンバー	計画省、農林水産省、商業省、鉱工業エネルギー省、農村開発省、労働職業訓練省	質問票 C	各1通

###### (2) 質問票への回答内容

対象者の語学力を考慮し、日本人専門家以外を対象とした質問票は、のちに実施した面談の参考資料と位置づけ、配布のみで回収しないこととした。そのため、日本人専門家によって回答された質問票の内容のみ、以下にまとめて記載する(質問には、TypeA-2 のみに含まれる質問がある)。回答があったもののみを記載し、類似の回答内容がある場合は一括する。

###### 1. プロジェクトの内容について

- 1.1. プロジェクトの活動はプロジェクト目標の達成に、貢献しているとお考えでしょうか。具体的にどのようなプロジェクト活動が貢献したとお考えでしょうか。

「体制が整う」ということであればパイロットプロジェクト活動が貢献。連携州局が女性の経済的エンパワーメントを目指した活動を実践しており、どのような内容の研修がふさわしいのか、このようにしたらよいのではないかと、関係者が集まる会議などで議論しながら進めている。ただ、「女性省の調整」については、女性省・特に州女性局の能力もあがっていることが前提になるが、そこがまだ弱い。また、ジェンダー分野のバックグラウンドがある者が必ずしも職員になっているわけではなく、対象者のジェンダー課題の把握(感覚的には分かっているようだが)やそれへの具体的な対応というところが弱いと感じる。州女性局の人材不足も課題。
(パイロットプロジェクト)貢献していると思わない。現段階は州局レベルでの実施体制が整いつつあるといった程度と考えます。効果的に実施する体制が整っているかどうかについては、なにをもって効果的とするかの判断基準がなく、且つ、パイロットプロジェクトは、コンサルタント(ナショナルを含む)の相当量の投入によって活動が進んでいる。
連携省のジェンダーフォーカルポイントとの協議やカンポンチャムへのフィールドサーベイの実施、パイロットプロジェクト形成のためのワークショップの実施を通じて、プロ目にご貢献している。経済的エンパワーメントについて、特に市場や能力を客観的に判断するための市場調査やベースラインサーベイを共同で実施したことも貢献度は大きいと考える。
女性省が統計データを収集、分析し、リーフレットとしてとりまとめた「ジェンダー統計リーフレット」は、その作成過程を通じ、女性省の能力強化に貢献しているとともに、関係各局に配布することで、連携省庁との連絡調整機能強化に役立っている。 ジェンダー視点に立った指標の設定:女性省、女性局、計画局を中心とした連携州局とともに指標設定のための予備的な調査、議論を行っており、現在最終化の段階にある。関係各局の事業実施の能力と機能の強化に繋がっていると考えている。
活動は貢献していると考える。州局も農村の女性に対しての活動をあまり実施したことがなく、教育レベルの低い女性にどのように研修をするのが効果的かを考えたこともなかった。また、女性省および局もジェンダーの研修を実施しているので、一般的概念は知っているが、その視点をどのように実生活の中で活用していくのかについての知識が少ない。パイロットプロジェクトの活動を通して、それらについて考えるきっかけができたと思う。また、各局とも女性の経済的エンパワーメントを促進する事業を考えたことがないので、州の役割を考えるきっかけになっていると考える。
(農業プロ)ジェンダー視点を取り入れたプロジェクトが有効であるということを実証したという点で、プロジェクト目標に

大きく貢献していると考ええる。有効であるかどうか証明されていないメカニズムをいくら作ったとしても、それが普及するとは思えないからである。会議や調整だけでなく、住民が直接裨益する活動を成功させるということは女性省全体にとっても非常に大きいインパクトがあると思う。政府の活動はあくまでも住民のための活動であり、できる限りそれを目に見える形にすることが重要だと考えるからである。パイロットの成果をいかにしてプロジェクト目標につなげていくかは今後の課題。
(農産加工プロ)具体的に「連携省庁が女性の経済的エンパワーメントを促進する事業を効果的に実施する体制が整う」ところまではまだまだ到達していないが、CPおよび州局スタッフの農産加工プロジェクトにおける知識レベルはUPしている。今後、どのような活動により中央政府に連携していくのかまだ不明瞭だが、本プロジェクトは目標に貢献するポテンシャルは秘めている。
今回のプロジェクトの中でパイロットプロジェクト自体が女性省の指導を受けた女性局の調整の元で各技術局がそれぞれの活動を行うとなっているが、調整者である筈の女性局及び女性省が技術的背景の無さからパイロットプロジェクトの全体像を把握しておらず、結局はPGMチームが全体の調整を行う状態が続いている。この状況を省レベルに当てはめた場合、各連携省庁が技術的背景・実績の無い女性省の提案をすんなり受け入れて事業を実施していくとは考えづらく、今回のプロジェクトが女性省の調整能力強化につながったとは言い難い。
KPCパイロットプロジェクトプランニングは連携省庁(中央)及び州関係局からの参加の下で進められた。一連のワークショップの経験を通じて女性省 C/Pのファシリテーション能力は向上したとは言える。また、KPCベースライン調査は、女性省 C/P及び連携省庁の職員が実際にフィールド調査員となり実施した。これらの活動は、関係者の、女性の経済的エンパワーメントに係る問題、それを解決するための方策への理解を深めるのに貢献はしたと考える。ただ、女性省もしくは州女性局の調整能力はかなり限定的であり、プロジェクトがかなり肩代わりしていた。

1.2. 本プロジェクトのデザインは本プロジェクト目標を達成するうえで適切であるとお考えですか。活動の過不足や活動計画の改善点などありましたらご指摘ください。

PDM0は活動や成果の焦点が絞られていないと感じ、PDM1である程度整理を行ったが、プロジェクト目標の指標も考えれば、TWGGの開催支援(1-3-1)は必要ないのではないかと考えている。プロジェクト開始当初からそれほどこの活動に労力をつぎ込んできたわけではないが、ジェンダー分野一般の援助協調は、一プロジェクトの活動ではなく事務所の活動としてとらえるほうが適切ではないか。
適切とは考えません。いちパイロットプロジェクトの活動が省庁の政策に反映される、というのは日本で実施した場合を考えましても非常に希有なことだと思う。連携省庁に直接働きかける活動がほぼなく、かつパイロットプロジェクトは州レベルで完結できる内容になっていることから、インプット、活動、アウトプットがプロジェクト目標に必ずしもつながっていないように思う。
当初のプロジェクトデザインが不適切な点は、開始直後からCPと協議しつつ改善してきた。
女性省カウンターパートはもとから各ドナーによる会議、研修、ワークショップ等で多忙のうえに、PGM2のパイロット活動参加のため、コンボンチャム出張が長期に及ぶこともあり、時としてプノンペンにはスタッフが誰もいない状況を生み出している。女性省の調整能力、他省との連携など、プノンペンでの本来業務実施に資する活動がもっとあってもよかったのではと思う。コンボンチャム州でのパイロットプロジェクトは、「各州局の連携」が目的となっており、2年次のPGMワークショップを通じたパイロットプロジェクト形成にも関係者が合意に至るまでに多くの時間を要した。パイロットプロジェクト実施の際、各局の強みを活かすなど連携の良い面はあるものの、全7州局の調整を日常的に行うことは実際には時間も労力も取られる。全7州局のうち、コアとなる局を決める等、強弱をつけてもよいのではないかと思う。上記2点に関連して、本プロジェクトで主力となるべき州女性局の能力・マンパワーの不足が、連携をより難しくしており、女性省のサポートが必要な状況になっている。
(パイロットプロジェクト)関係省庁、局と一緒に活動をして一つの目的を達成することが求められているが、関係者が多すぎ、その調整に手間が取られすぎる。また、省と州局の関係が難しく、どちらがリードを取るべきなのか、特に州局がやりづらそうである。特に、女性局は常に関与しているので、女性局の立場が非常に微妙である。
プロジェクト目標が何を示しているのか明確でないが、もし、女性省ではなく他省庁が女性の経済的エンパワーメント関連活動を予算化して実施することを想定しているのであれば、想定自体が現実的でないように思う。州各局の活動を見ている限り、カ国の女性関連活動は女性省または女性局が実施することが原則である。もしそうでないのなら、女性省や女性局が他局と同じレベルの大きな組織である必要であるかが議論されなくてはならない。日本では女性省が存在しないので、男女共同参画局(省より小さな組織)が各省の女性関連活動を側面支援することがジェンダー州硫化なのかもしれないが、カ国のジェンダー主流化は異なるのではないか。カ国でのジェンダー主流化は、各省庁が実施しているプロジェクトに女性省がマッチングファンドを出し、連携しながら事業を行うというのが現実的ではないか。例えば、農業省が農業開発事業を行っている同じ場所で、女性省が自らの予算を使って女性のための託児サービスを提供するというイメージである。
(農産加工プロ)「連携省庁が女性の経済的エンパワーメントを促進する事業を効果的に実施する体制が整う」ためには、農産加工プロジェクトはハードルが高かったように思います。理由としては、1. 農産加工プロジェクトの性質上パツ



ケージにして広げにくい。(商品選定、商品開発、商品販売までに通常3年間程度は必要であり、一次産業と異なり収益を出せるようになるまでに時間がかかる)、2. もともと農産加工の活動があるわけではないので、中心になる受入れ省庁がない。(現在はPDOGが販売戦略、PDLVTが生産技術、PDIMEが商品クオリティ、CP/州女性局が研修のQuality Controlとそれぞれが役割分担しており、JICAチームが取りまとめている状況)、3. 販売目的の食品を製造するには、村の衛生環境が悪い。(食器洗いは基本的に雨水を使用、キッチンが家畜の隣にあるなどプロジェクトではなんとも難しいインフラ環境であること)

本来PGM手法を試験するためという位置付けだった筈のパイロットプロジェクトの規模が大きくなり過ぎ、さりとてプロジェクトの中での扱いは凄く小さな物という若干いびつにも見える構造の中、プロジェクト・パイロットプロジェクト共にどこを目指し何を達成するかという共通認識がプロジェクト内で取れていなかったように感じる。パイロットプロジェクトはあくまでもトライアルとして規模も小さく、対象者の経済的エンパワーメントよりも女性省や関係省庁のラーニングを明確に目的として位置付けていれば納まりが良かったのではないだろうか。

今更ながらではあるが、本プロジェクトを進めるにつれ、そもそも設定されたプロジェクト目標に違和感を感じている。現在のような形でのパイロットプロジェクトを実施するマニフェスト及びサービス・技術力は女性省にはなく、今後もそれはない。本プロジェクト実施中はパイロットプロジェクトの活動費につき本プロジェクトからの手当がなされているので、女性省の調整機能、実施体制整備云々の議論はできる。実施体制整備されようが、今後プロジェクト活動費の手当が女性省を通じてなされない限りは(女性省の自己資金というの上記マニフェスト上ない)、この体制も活用する場はなく、持続性の観点からも意味がよくわからない。

1.3. プロジェクト目標は、プロジェクトが終了するまでに達成される見込みはあると思いますか？

「女性省の調整により」というところで直接的なCPの女性省が関係してくるが、全体的な主語が「連携省庁が」になっており、また現在の指標を考えれば難しいと考えている。連携省庁の予算に関して、女性省やプロジェクトがどこまで働きかけることができるのか不明。これまではパイロットプロジェクトでの「実質的な成果」を出すことに集中してきたが、プロジェクト目標達成のためには、後半は活動の焦点をパイロットからシフトすべきと考える。フェーズ1で女性省の能力向上を行ったので、プロジェクト目標の主語が連携省庁になったのではないかと考えるが、フェーズ1での女性省対象者は一部であり、また、彼女・彼ら全員がフェーズ2で残っているわけではなく、またフェーズ1終了から時間もあいているので、フェーズ1の成果をそのまま踏まえて、ということは難しい。「調整」という言葉はあいまいであり、何を以て「調整」というのか、「調整」能力とは何か、「調整」能力を上げるために具体的にどのような活動が必要か(ワークショップの開催のみで良いのか?)について考える必要があるのではないかと。

1.4. 本プロジェクトのパイロットプロジェクトの対象地域の選定は、適切だとお考えですか？具体的な理由とあわせてお答えください。

適切。フェーズ1と同じ州であり関係者もほぼ同じであったため、スムーズに活動を開始できた。

1.5. また、プロジェクト実施戦略上、本プロジェクトのターゲットグループの選定は適切だったと考えますか？それぞれ具体的な理由とあわせてお答えください。

1) 実施機関として女性省を選択したことは適切だと思いますか？

活動や成果の焦点をどこに当てるのかにもよるが、女性省のジェンダー主流化にかかる能力向上、という視点であれば適切。

2) カウンターパートとしてプロジェクトに関わった女性省のスタッフたちの選定は適切だと思いますか？特に、3つの局からカウンターパートが選定されている点について、どう思われますか？

活動や成果の焦点をどこに当てるのかにもよるが、フェーズ1のようにジェンダー統計に力を入れたフレームワークにはなっていないので、PGM2での計画統計局の役割が微妙か。女性省の体制が、部局にドナーが付いているような形になっていることがそもそも問題。JICAは長く計画統計局が窓口であったため、「経済的エンパワーメント」が中心課題となってもここが中心的なカウンターパートの位置づけになってしまっている(本来は、経済開発局)。プロジェクトの活動毎にCP局の役割を分けたかったが(計画統計局＝ジェンダー統計、経済開発局＝パイロットプロジェクト、連携省庁への働きかけ・TWGG＝ジェンダー平等局など)、州への出張に出れば日当・宿泊が支給されるということから、基本的にみなコンベンションの活動に参加している。そのため、例えばプノンペンでのジェンダー統計の作業よりもパイロットプロジェクト活動に参加してしまう。「お金」は根本的な問題であるため、プロジェクトとしてもカウンターパートの意識を変えるのは困難。

3) LCC(合同調整委員会)のメンバーの選定は適切だと思いますか？

女性省だけではなく連携省庁もメンバーになっていることは良いと考えるが、ただし書きはあったものの、パイロットプ

プロジェクトでどのような活動を始めるのか(=どの省庁が関係してくるか)を検討する前にR/Dで連携省庁名が決められていたため、それらの関係省庁(州局)が参加できるようなパイロットを作らないといけない、という縛りになってしまった。農業パイロットだけでも良かったが、そうなると鉱工業エネルギー省が関われないため、そのために農産加工パイロットも計画することとした。実際活動を始めてみれば、州鉱工業エネルギー局には「農村女性」の加工活動を支援する分野での適切なスタッフやノウハウがなく、農産加工パイロットでの局の役割は非常に小さい。R/Dでは経済財務省もメンバーに入っているが、JCCメンバー選定の依頼レターを出しても返事はなし。

4)PPCC(パイロットプロジェクトコーディネーション委員会)のメンバーの選定は適切だと思いますか?(なぜそう思うのか?)

副知事を議長に、関係州局全員がメンバーになっているため適切。ただし、関係する局は、すでに、R/Dで決められていた。

5)中央レベルおよび州レベルの連携省庁の関係者のメンバーの選定は、適切だと思いますか?(なぜそう思うのか?)

中央レベルのGMAGメンバーに関しては、女性省から各省に、PGM2のためにGMAGメンバーをアサインしてもらえようレターを出したが、「女性の経済的エンパワーメント」やパイロット活動に関係するような部署にいるGMAGメンバーがアサインされたというわけではなかった。

6)パイロットプロジェクトの参加者の選定は、適切だと思いますか?(なぜそう思うのか?)

両パイロットとも、関心のある人に参加してもらい、ということで参加者登録を行った。その結果、農業パイロットに関しては、養鶏活動中心であり農家の方々が対象になっているので適切。農産加工パイロットに関しては、農家、すでに商売を行っている人など、参加者のレベルがまちまちになってしまい、パイロット参加の目的・期待値も違うため、最初からどのレベルを対象とするのか、きちんと決めておくべきであった。

1.6. プロジェクトの内容は、上記のターゲットグループのニーズに合致していると思いますか?理由とあわせて具体的に記入ください。

女性省: 5カ年戦略の一つの女性の経済的エンパワーメント分野の活動になるので合致している。  
連携省庁: GMAP改訂に関心があるため、合致していると思う。  
連携州局: 各自の業務に何かしら関係する分野でパイロットプロジェクトに参加しているため、合致している。  
パイロット対象者: 基本的に、関心のある人が参加する、というかたちをとっているため、ニーズにあっていれば自然と参加する。ただし、農産加工活動に関しては、参加者の期待もまちまちであり難しい。

1.7. 5つの連携省庁間の連携によるパイロットプロジェクトを通じたプロジェクト活動は、効果的だと思いますか?パイロットプロジェクトの利点と不利点や改善点を教えてください。

1)パイロットプロジェクトの利点(長所)

一つの局だけでは一部の活動しかできないが、連携することで様々な活動を行い、それがまとまって成果となっていると考えられる。

2)パイロットプロジェクトの不利点(弱点)

各局(省)の本来の役割はオーバーラップしている部分も多く、例えば農業局であれば養鶏技術の他に、商業局が行っているようなマーケットに関する活動も行うことができる。また、そもそもすでに決められていた局が連携して何か活動を行う、という枠組みになっていたため、農業パイロットでは役割の考えられなかった鉱工業エネルギー局のために農産加工パイロットも計画したが、実際には州局に適切な人材がないためここでも役割少ない。  
農産加工パイロットに関しては、対象者がそれにより収入向上を目指すのであれば、商品の品質はもちろん、販売価格やマーケットのニーズ、そして本人の商才などによるところが大きく、行政の介入によって解決できる部分は農業に比べて低い。例えば、行政が技術研修を対象者にしたからといって、必ず商品が売れるとは限らない。また、農産加工ビジネス支援については州局の経験も極端に低く、非常に難しい。このため、パイロットプロジェクト参加者数も農業パイロットと比べると非常に少ない。PDMでは「受益者の数」が指標になってしまっているため、関係者の間では「対象地を拡大して人数を増やすべき」という議論もでてきている。この指標のためだけに対象地拡大について安易に議論すべきではないため、指標の検討が必要。

3)提案されるパイロットプロジェクトの改善点

州女性局がジェンダー視点から活動を見て助言できるようにする。農産加工に関しては、今後の方向性について関係者で協議することが必要。

1.8. カ国において他の関連機関、NGO、他ドナーが実施しているプロジェクト活動に類似の事業や活動はどのようなものがありますか？プロジェクトではこれらと連携して取り組んだことはありますか？ある場合、これらの活動とプロジェクトの分担はどのように考えられていますか？

1)類似の事業を行う関連機関、NGO、他ドナーの、その名称と簡単な活動内容をお答えください。

- UNDP/Partnership for Gender Equity (PGE) III (2011年－2015年)：女性の小規模起業家に技術やビジネススキルを提供しビジネスデベロップメントサービスへのアクセスを向上させる
- UNWOMEN/ Enhancing Women's Economic Empowerment through improving bamboo handicraft value chains (2012年－2015年)：女性省を支援し女性の経済的エンパワーメントの新しい政策を策定する。また、コンポンチュナン州の女性開発センターを支援し、対象者の女性にビジネスサポートサービスを提供する。
- UNFPA：女性の経済的エンパワーメント分野のPBA実施について、農林水産省、商業省、鉱工業エネルギー省、農村開発省、労働職業訓練省の5省を支援する。
- IFAD/ Project for Agricultural Development and Economic Empowerment(2007年－2014年)：クラチェ、ラタナキリ、プレアビビアの3州の貧困層の生計向上を目的とする。
- Sahakreas CEDAC：オーガニックの米、野菜、果物、肉、農産加工品(漬物、バナナチップスなど)などを販売する店舗をブノンペンとクラチェ州で展開。安定したマーケットを望む生産者とのパートナーシップもあり(食品加工品の場合はほとんどブノンペンの生産者)。食品加工の部署もあり、地元製品の質の向上とそれらを商品として売り出すことにも取り組んでいる。

2)実際に行った(もしくは行っている)連携にはどのようなものがありますか？

Sahakreas CEDAC：農産加工プロジェクトに関係する連携州局および対象者などに対するスタディツアー(大根漬物産地のカンダール州やブノンペンのSahakreas CEDACショップ)の企画・実施や、農産加工活動に関しての助言の提供。ただし、担当者が続けてSahakreas CEDACを退職し、後任に適任者がいないということ、プロジェクトからの要望と担当者ができる助言とマッチしなかったことなどから、現在は連携を行っていない。

3)プロジェクト活動と他の組織の活動の間にどのような役割分担がなされていますか？

なし。

1.9. プロジェクトで紹介されている日本の技術や経験はカ国で有益であると思いますか？

2012年に、内閣府男女共同参画局職員を招へいし、「ワーク・ライフ・バランス」をテーマに、男女共同参画社会実現のための日本の取り組みや経験を、プロジェクト関係者のみならずカ国行政官(中央および州レベル)と共有するセミナーおよびワークショップを開催した(このテーマは女性省個人からのリクエストによるもの)。出席者からは、「ワーク・ライフ・バランス」は将来カ国でも考えなければいけないテーマであり、今後の参考になったとの感想が聞かれた。カウンターパート研修ではこれまで、男女共同参画社会実現に向けた日本の政策や取り組み、ジェンダー統計の分析・活用法、戦後の生活改善の経験、起業家支援の取り組み、日本の農村女性の生計向上の取り組みと行政の支援などについて学んでいるが、これらはカ国に応用する上で有益である。

1.10. プロジェクトが開始されてから、プロジェクト活動の実施やプロジェクト目標達成に影響を与えるような外部条件は生じましたか？

プロジェクト開始当初からカウンターパートであった女性省職員が休職、他組織への転職、留学などでプロジェクトを去った(交代要員は配置されている)。

1.11. プロジェクト目標を達成する上で、貢献要因と阻害要因はどのようなものがあると思いますか？

1)どのような貢献要因がありますか？

プロジェクト全体をみると、パイロットプロジェクトの実施・成功がほぼすべての活動のもとになっていることから、現時点でパイロットプロジェクトが成功していること。

実際に農業、農産加工といった活動を通じて具体的な女性のエンパワメントを学ぶ機会をひろく、中央政府、地方政府が学ぶといったパイロット事業。事業予算がほとんどないカ国ではプロジェクトの実施がなければ自らイニシアティブをもって事業を実施することはできないから。

JICAが長く女性省を支援しており、JICAプロジェクトの経緯をよく理解した女性省のスタッフが多くいること。また、フェーズ1プロジェクトと同じパイロットプロジェクトサイトということで、コンポンチュナム州の連携州局も同様にJICAプロジェクトを受入れる体制が整っていたこと。

州レベルで実施するパイロットプロジェクトの活動がプロジェクト目標に関係するのはわかりやすいが、そこに女性省が

噛むことで、クッションができ、活動の構造がわかりにくくなる。もしくは、中央レベルの成果を州レベルの活動が左右することになる。中央レベルの活動であれば、中央レベルのみ、州レベルであれば、州レベルでのみのほうが、効果的と考える。

今まで共に活動したことがなかった州局のスタッフたちが本プロジェクトに携わることにより、横繋りのコミュニケーションが増え、他局がどんな仕事をしていてどんな人材がいるのか初めてしっかり認知した。特に「ジェンダーを考慮に入れた農産加工プロジェクト」のワークショップの際には、他局からのコメントなどが非常に参考になったと、参加者からまたこのような活動をしたいと要望があった。

2)どのような阻害要因がありますか？またその対策としてどのような対応がなされていますか？

プロジェクトの成功には女性省とのコミュニケーションを取ることが大事だと考えておるが、特に局長レベルの女性省カウンターパートが多忙であり、まとめて時間をとり何かを協議するということが難しい。そのため、アドバイザーおよび計画統計局長とはなるべく時間を取りプロジェクト全体について議論を行うようにしている。

PDMには明記されていない中間目標や、PDMでは想定していないような中間目標やアウトプット達成までのステップが多い。例)アウトプット3。アウトプット達成の前に、州局のキャパビルが必要となる。必ずしもそれが女性の経済エンパワーメントに直接的にかかわるものではない場合。(そもそも州局の行政能力が十分ではない等)

CPの給与水準が低すぎることで当初プロジェクトの参画に対して積極性がない。しかしこれは本プロジェクト特有のもので阻害要因とは考えない。さまざまなかたちでインセンティブを考えてきた。

(パイロットプロジェクト)連携の核となる州女性局のマンパワー・能力不足。女性省からのインプットや他州局からの支援で力不足を補っている。

ジェンダーに対する知識や考え方をどうやってプロジェクトに反映すれば良いのか、具体的な施策がCPや州女性局から出てこないため、連携している各局はジェンダーに関してあまり注視していない。現状では、あくまでも受身の状態。また、農産加工プロジェクトにおいては、プロジェクト受益者を増やすことや成功者を増やすにはどうすれば良いか？ということが大きな課題になってしまっている。今後の対応および対策については、CPおよび関係者を集めてしっかり協議する必要がある。

プノンペンでの活動についてはC/Pの参加が積極的でない。

## 2. プロジェクトのマネージメントについて

2.1. プロジェクト活動及び指標のモニタリングはどのような体制で行っていますか？

1)モニタリング体制を具体的に教えてください(スタッフミーティングやレポートなどを含む)。

報告書: JICAに提出する月報、JICA・女性省その他プロジェクト関係者に提出するコンポンチャム州パイロットプロジェクトモニタリング報告書・業務進捗報告書および業務完了報告書。

ミーティング: 年1回のJCCミーティング、毎月のカウンターパートミーティングおよびPPCCミーティング(パイロットプロジェクト)、JICA本部およびカ国事務所への帰国時の報告。

モニタリング体制は整っていない。喫緊の課題と認識している。

カウンターパートミーティング(月1回程度実施)や個別のミーティングで事業の進捗を把握。

(農業プロ)ジェンダーモニタリングと技術モニタリングを定期的に行っている。トレーニングは4か月を1サイクルとする構成にしているが、各サイクル終了時により詳しいモニタリングを行っている。

(パイロットプロジェクト)3年次から活動の内容を対象者のニーズに合わせていく過程において、既に提案されていたモニタリングの指標が当てはまらなくなり、現在までモニタリング体制や指標などの改定は進んでいない。

2)モニタリング結果はどのようにフィードバックしていますか？

報告や会議で改善のためのコメントが出された場合には、日本人専門家、女性省カウンターパートおよび連携州局など関係者と共有、議論し、必要であれば改善のための措置をとる。

(農業プロ)モニタリングの結果は、州各局に共有し、プログレスレポートやモニタリングレポートに掲載している。

(パイロットプロジェクト)モニタリング後に州関係各局の担当者と対象者が抱えている問題を共有し、その後に予定している活動内容に反映するよう心掛けている。

2.2. POの活動内容とスケジュールは適切だと思いますか？現時点で考えて不適切である(無理がある)と考える活動やスケジュールがあれば指摘し、その理由を記述してください。

担当業務内容が継続的に介入する類のもののため、特にスケジュールの適切、不適切は無い

当初パイロット事業の形成には時間をかけた。特に不適切と考えられる場合は常に関係者と協議して現実的なスケジュールにしてきた。

(農産加工プロ)加工品ビジネスは行政の仕事ではなく通常民間が行うものであり、行政関係者もビジネスにかかわった経験がないことから、行政主体でビジネスをリードすることがまず難しい。加工品ビジネス自体初心者がすぐに成功するものではないため、数年間のプロジェクトで満足のいく収入向上ができるかという点、かなり限られた対象者のみとならざるを得ない。

現時点で想定される問題は特にないが、今年度終了後に日本人専門家がどの程度インプットされるのか見通しが立たないため、長期的な活動計画が立てにくく、州各局に見通しを説明できない。

- 2.3. 日本側、カ国側それぞれの投入規模およびタイミングは適切であるとお考えですか？成果項目別に、それぞれの投入について投入量と投入のタイミングについて適切であるかA～Dの評価をお書き下さい。(投入規模については、A: 適切である、B: ある程度適切である、C: 過剰である、D: 不足している、の4段階で評価。投入のタイミングについては、A: 適切である、B: ある程度適切である、C: 遅い、の3段階で評価)

成果項目	投入規模についての評価			投入のタイミングについての評価			投入に見合った成果があがっていると思うか
	専門家とC/Pの配置	供与機材	現地コスト	専門家とC/Pの配置	供与機材	現地コスト	
成果1「女性省(中央および州レベル)の女性の経済的エンパワーメントに関するジェンダー主流化を促進するための連絡調整機能強化を図る」	A	A	D	A	A	N/A	「現地コスト」について、女性省からは事務所とカウンターパートが提供されているが、活動実施にかかる予算措置はなされていない。それを除けば適切である。
成果2「女性の経済的エンパワーメントを促進するために、中央レベルの連携省庁のジェンダー主流化のための能力と機能強化を図る」	A	N/A	D	A	N/A	N/A	「現地コスト」について、女性省からは事務所とカウンターパートが提供されているが、活動実施にかかる予算措置はなされていない。それを除けば適切である。
成果3「パイロット事業の実施を通じて、州レベルの女性の経済的エンパワーメントを促進するジェンダー視点に立った事業実施の能力と機能が強化される」	B	A	D	A	A	N/A	投入(専門家とCP)の多くはパイロットプロジェクト活動に充てられているが、農産加工に関しては、マーケットや対象者の商才による部分も大きく、投入に見合った成果はまだ出ていない。

- 2.4. 本邦研修)のうち、プロジェクト目標の達成に貢献しているものはどれだと思いますか？

1)プロジェクト目標の達成に貢献していると思う研修名とその参加者を教えてください(複数可)。

研修名	参加者	理由
CP研修「ジェンダー主流化」	女性省カウンターパート、連携省庁GMAGメンバー、コンポンチャム州副知事、コンポンチャム州関係州局	パイロットプロジェクトに関係するような内容を組んでおり、女性省だけでなく連携省庁も参加。
集団研修「行政官のためのジェンダー主流化政策」	女性省カウンターパート	女性省の役割に関係の強い研修内容になっており、能力強化に貢献。
国別研修「青年研修カ国経済行政」	女性省カウンターパート(経済開発局)、コンポンチャム州女性局職員(経済開発担当)	日本の県レベルの産業育成システムや一村一品について学ぶ内容になっており、パイロットプロジェクト活動に関係すると考える。

2)プロジェクト目標の達成に貢献していないと思う研修名とその参加者名を教えてください。

なし。

3)それぞれの研修実施のタイミングと内容は適切だと思いますか？

CP研修「ジェンダー主流化」: タイミングおよび内容とも適切。  
 集団研修「行政官のためのジェンダー主流化政策」: 内容は適切。タイミングはプロジェクトでのコントロール外。  
 国別研修「青年研修カ国経済行政」: 内容は適切。タイミングはプロジェクトでのコントロール外。

- 2.5. 日本人専門家間や、他のプロジェクト関係者とのコミュニケーションに、何か問題はありますか？

日本人専門家間については、ミーティング、メールや電話ベースでの報告・連絡・相談・情報共有を行っている、概ね問題なしと考える。報告・連絡が足りない専門家については、適宜フォローを行っている。女性省カウンターパートについては、コンポンチャム出張に出ているカウンターパートが多いためメールでの情報共有を行っているが、メールを確認しないカウンターパートもいるため、必要の際には電話で確認をしている。
当初からコミュニケーションギャップを埋めるために定期的な会議の開催などに務めてきた。
女性省内のプノンペン事務所とパイロットプロジェクトを実施しているコンポンチャム州事務所では行っている業務内容が異なるため、日本人専門家、ローカルスタッフの間に認識のずれが生じることがある。「現場であるコンポンチャムをプノンペンは理解していない」という不満がコンポンチャム側から出ることが多いが、パイロットプロジェクトのみを実施しているコンポンチャムとは違い、プノンペンではプロジェクトのその他の業務や女性省からの依頼への対応、調整を行わなければいけない実情があり、認識のずれを埋めることが難しい場合もある。女性省カウンターパートについては、ちょっとした発言や行動が原因で気分を害されたり、それに尾ひれがついた噂が広まってしまったりすることもあるので、誤解を招かない発言・行動を心がけている。
(農業プロ)大きな問題はない。難しいのは、州の連携各局の扱いである。連携各局およびそのライン省庁は女性省・女性局のようなカウンターパート機関ではなく、プロジェクト形成時の議論に参加していないようである。州各局の立場はあくまでもパートナーであり、カウンターパートではない。州各局としては、女性局を技術的にサポートしてあげているという認識なのではないか。当然のことながら、州各局のコミットメントは限定されており、意見が対立するたびにPGM2から離脱したいと言われる。また、当然のことながら、ライン省庁の業務が最優先なので、女性省プロジェクトであるPGM2活動の優先度は低い。州連携各局との連携について、事前調査でどのような配慮がなされていたのか、その妥当性を中間評価で検証していただきたい。他省や州連携局を絡めたプロジェクトにするのであれば、プロジェクト形成時から適切な配慮をしておくことが必要なのではないか。
短期のアサインのため、日本に在る間はメール中心での報告になり、実際に現場で起こっていることが認識しづらい。報告者によってはニュアンスが違って伝えられたり、報告が遅れたりすることで、適時・的確な指示出しが難しい。常駐しているのが技術専門家ではないので、活動状況における報告内容が十分でないことや、判断が私見に偏ってしまうことも課題事項として挙げられる。
常時パイロットプロジェクトの対象地域コンポンチャム州に張り付いている専門家が不在という事、またパイロットプロジェクトはプロジェクトの中の活動の一つという位置づけからパイロットプロジェクトの状況がプロジェクトを管轄してみるプノンペンや東京にまで伝わりにくい。(日本人専門家間で)
当初想定よりも英語でのコミュニケーションが取れるC/Pが限定的である。州関係局については皆無。C/Pのプノンペンの女性省事務所の出勤も不定期で、e-mailでの連絡も殆ど機能しないので、簡単な確認を取るにも時間を要する。

2.6. プロジェクト活動への支援については、下表のようなものがあると思いますが、それらはプロジェクト活動の円滑化、活性化に有効に機能したでしょうか。現場からみた意見を率直にお聞かせください。

プロジェクト活動への支援	現場から見た意見(プロジェクト活動の円滑化、活性化に有効だったか)
① 合同調整委員会	メンバーに対してプロジェクト活動の進捗を報告し、メンバーのプロジェクトに対する理解を促進するために有効。
② JICAカ国事務所の支援	年度初めの活動計画説明や総括帰国時の報告での接点が主だが、プロジェクト活動に対して理解してくださっているため、活動はしやすい。
③ 運営指導調査などのJICA本部からの支援	プロジェクトからの相談や依頼事項に対して、真摯に迅速に取り組んでくださっているため、活動しやすい。

2.7. JCC(合同調整委員会)及びPPCC(パイロットプロジェクトコーディネーション委員会)の運営は順調か？

1)JCC(合同調整委員会)の運営は順調ですか？

年一度の開催で、プロジェクトの活動計画や進捗状況などを共有し、活動計画については承認を受けている。特に問題がないので、順調だと言える。

2)PPCC(パイロットプロジェクトコーディネーション委員会)の運営は順調ですか？

毎月開催しており、パイロットプロジェクトの活動報告、進捗報告、課題の議論などを行っている。議長である副知事も協力的であり、特に問題ないので順調だと言える。

2.8. プロジェクト活動を行う上で、貢献要因と阻害要因はどのようなものがありますか？

1)どのような貢献要因がありますか？また、なぜそう思いますか？

カウンターパートの協力

JICAが長く女性省を支援しており、JICAプロジェクトの経緯をよく理解した女性省のスタッフが多くいること。特にジェンダー統計リーフレットについてはフェーズ1プロジェクトの成果であり、複数のスタッフが本邦研修に参加しているため、

活動の大きな貢献要因になっていると感じる。
パイロット予算の雑費計上:本プロジェクトではパイロット予算が雑費計上されている。そのため、州各局が突然新たな活動を提案してきて、その提案が妥当である場合に、費用をつけることがやりやすい。JICAチームが提案を受け入れてくれるということが、州各局のやる気を高めている。フレキシビリティのある事業運営にもつながっている。予算の全額を雑費計上することは必要ないかもしれないが、一定額を予備費として計上しておくことは、相手国政府のオーナーシップを高めるためには重要だと思う。
(農産加工)すでに生産販売を開始している受益者の方は、自身のビジネスにトレーニングで学んだことをしっかり活かしている。もともと魚の行商をされている方は、研修によって学んだ大根の漬物を魚と一緒に販売開始し、10月ごろから街道沿いの自宅の前に小屋を建てて、他所から仕入れたバナナチップやライスケーキと一緒にドーナツを販売する形に移行している。生産トレーニングで学んだ商品だけでなく、自発的に新商品を開発して販売するようになっており、プロジェクトの持続可能性の意味でも有意義に思う。
(農産加工)商売に精通したトレーダーが多い地域である事から、ある程度のアイデアを出すとそれを個々の持つ知識や経験、ネットワークに併せて活用していく例がみられる。

2)どのような阻害要因がありますか？またその対策としてどのような対応がとられていますか？

時間的制約(現地作業期間)
パイロットプロジェクトのモニタリング・評価について、州局によっては月例報告書をまとめられない場合もある。対策として、内容を英訳し、日本人団員間で情報を共有し始めた。
ジェンダー専門家と技術専門家の意思疎通が難しい:技術専門家の立場を見た場合、ジェンダー専門家(日本人専門家、女性省、女性局)は技術普及、コミュニティ開発、住民参加型プロジェクト運営の経験が少なく知識も乏しい。結果として意思疎通が難しく、必要な活動予算を申請しても必要性を理解してもらえない。一番困るのは、「ジェンダープロジェクトなので、農業プロジェクトと同じようなことをしなくてもよいです」と言われることである。農業プロジェクトであってもPGM2の農業パイロットであっても、経済的エンパワーメントを目指していることには変わりがない。PGM2では「女性の」が付け加えられているだけである。ジェンダー専門家の理解が進まない限り、女性の経済的エンパワーメントの達成は難しいと思う。現在とっている対策はない。ジェンダープロジェクトではジェンダー専門家が権力を握っているため技術専門家としてはあきらめるしかないが、試行錯誤を試みた結果として、技術専門家の意見どおりになることもある。なぜ最初からそうしないのか不思議である。
(農産加工プロ)忙しいという理由で自家消費用しか作らない方や既存のビジネスで満足しているという方なども多くおり、新商品を提案しているものの積極的に取り組む受益者の方がなかなか現れない。ローカルマーケットではなかなか値段を上げて販売が出来ないこともあり、利益がもう少し高くなるように商品の原価削減を検討する、また販売トレーニングなどを実施し受益者の売るスキルを高められぬかなど、CPおよび州局との対策が必要。
(農産加工プロ)農産加工をマニフェストとして持っている担当局が無く、全体像のプロセスを技術移転する場所が不明確。→PGMチームが主導して各局それぞれに役割を振っているが根本的な解決にはつながらず、将来的な持続性に疑問が残る。農村での食品加工の難しさ、特にこの高温多湿の気候下で衛生的に食品を製造できる環境・資材が入手できない事→ターゲットマーケットをローカルに設定、紹介する商品も保存性を重視した物に。
プランペンでの活動についてはC/Pの参加が積極的でない。

### 3. プロジェクトのインパクト

3.1. 本プロジェクトの実施によりこれまでにどのようなインパクトが生じていると考えられますか。(評価は、A: 大きく貢献した、B: ある程度貢献した、C: ほとんど貢献は見られない、という3段階で評価)

プロジェクトのインパクト	評価	具体的にお気づきの点
女性省のスタッフの仕事に対する意欲の高揚	B	パイロットプロジェクトを経験することで現場の状況を把握し、ニーズを理解しつつある。
	A	当初ただ参加するだけだったスタッフも会議等で積極的に発言する様子が見られる。
	A	若手のスタッフは、これまであまり重要な役割を与えられてこなかったようだったが、パイロットプロジェクトでは様々な機会を与えられている。チャンスを与えられたことに感謝の意を表しているカウンターパートもいる。カウンターパートは出張をする度に報告書を提出することになっているが、提案事項が日々改善されている。
	B	トレーニング前後に受益者に対して、はじめの挨拶やメの挨拶を強く拒否しなくなるなど、自分の役割に対して少し理解し責任感が出てきたように感じる。
	B	女性省スタッフが実際に行われている活動に入る事で女性が直面する問題を把握する機会となり、徐々に個々の活動にも意欲的に参加するようになった。
中央レベルの連携省庁のGMAGメン	B	PGMワークショップ参加をとおして、女性の経済的エンパワーメントの視点での計画立案を学んだ。また、農村開発省および商業省に関しては、GMAP改訂を経験した。

パーの能力強化	C	プロジェクトでの立場が明確ではないため、プロジェクトへの巻き込みが限られている。
中央レベルの連携 省庁のGMAGメン バーの連携強化	C	パイロットプロジェクト視察やPPCC会議出席はしているが、「連携」に関する活動までに至っていない。
州女性局の能力強化	C	プロジェクトでの立場が明確ではないため、プロジェクトへの巻き込みが限られている。
	B	パイロットプロジェクトを経験することで現場の状況を把握しニーズを理解しつつある。
	B	人材が限られている。
	C	ジェンダープロジェクトであるにもかかわらず、日本人のジェンダー専門家が州に常駐できないため、ジェンダー面の能力強化が進んでいないように見受けられる。
	B	パイロットプロジェクトは州女性局にPGM2のオフィスもあり、中心となるべきであるが、特にオフィサーレベルで他局と比べてもやる気が感じられない。一方でトレーナーレベルはプロジェクト活動に熱心に関わっている。
	B	農産加工プロジェクトの計画段階から運営までの知識はかなりついたと思いますが、調査スキルや報告書作成スキルはまだまだ改善の余地あり。
KPC州の連携局の 関係者の能力強化	C	養鶏や農産加工の技術指導を行うパイロットプロジェクトでありながらも取りまとめが州女性局という事から、州女性局自身がパイロットの全容を把握しておらず何をしているのか戸惑っており、結果として余り効果的な能力強化にはつながっていない。
	B	パイロットプロジェクトにより、現場の状況を把握し何が必要かを理解しつつある。
	A	パイロットプロジェクト活動やPPCC等で日常的に顔を合わせ、意見交換を行っている。
	A	限られた人であるが、一緒に活動している人の事業への参加度や、専門分野および農村女性への対応能力は高まっている。
	B	州連携各局はあくまでもパートナーでありカウンターパートではない。州各局は、自らを能力強化の対象と考えていないと思う。実施には、パイロット実施を通じて技術面の能力が大きく向上しているが、技術面の能力強化がPGM2の目標ではないため測定はしていない。ジェンダー面ではPGM2の中で能力強化をする必要があると思うが、ほとんど進んでいないと考える。そもそも、ジェンダー改善は州女性局の使命であり、他局がジェンダー改善に関与するとは考えられない。なお、能力強化を達成しているのは州各局のフルタイムスタッフあるいはトレーナーであり局長ではない。
	A	PDLVTおよびPDOCのトレーナーについては、トレーニング等を通じて自信に繋がったようで、自発的な行動や前向きな発言など変化が見られた。
A	(農産加工プロ)農産加工自体が州各局にとっては初めての試みだった事からパイロットプロジェクト開始当初こそそれぞれの役割が不明確だったものの、3年次より投入された日本人専門家の元でそれが整理されて以降、専門家の技術指導を積極的に吸収して目覚ましい成長を遂げた。特にPDLVTとPDOCに関してはその傾向が顕著に見える。	
KPC州の連携局の 関係者の連携強化	A	限定的だが、事業への参加度、協力体制はよくなってきている。
	A	現時点では連携が非常にうまく行えているが、最初からできたわけではない。連携がうまくいっている要因は、州副知事による動機づけとJICAチームの司令塔機能。現在はJICAチームが外国人でしかできない司令塔機能を果たしているが、将来的にカ国側などの組織が司令塔を務めるのか不明。将来的には困難か。ジェンダーが横断的課題であるため、技術局をトップとする連携よりもやりやすい面はある。ただし、省庁連携をすることがプロジェクトの目的ではなく、あくまでも手段であるはず。PGM2では、連携ありきになっている。連携することが有効であれば連携すればよいが、どのような場合でも連携すれば良いというわけではない。本当に連携が必要なのか、なぜ連携が必要なのかを再考してほしい。農業局単独でも同じようなトレーニングはでき、効率的でもある。
	B	トレーナーにおいては、共に活動を協力して実施することに抵抗感がなくなっており、チームワークが良くなって来ている。
	A	(農産加工プロ)農産加工という確固たる担当局は不在ながらもクロスカッティングなテーマという事から、活動の内容の打ち合わせを常に関係各局の担当者全員と行って来た。その結果、個々の研修ではそれぞれの研修担当局のトレーナーが指導を行い、他局の職員がそのサポートを行うという連携のとれた形が見られてきた。



パイロットプロジェクト参加者の能力強化	A (農業)	(農業プロ)問題点のフィードバックと技術改善を細やかに行っており、参加者の能力(技術力)が強化されていることは間違いない。ただし、州女性局を除く州各局はあくまでも「パートナー」であって「カウンターパート」ではないので、各局自身は自らが能力強化の対象になっているとは理解していないと思う。州女性局以外の局では、技術面の改善は進んでいるが、ジェンダー面の改善は進んでいない。これは技術移転の不足というよりは、「ジェンダーは女性局の専権事項で組織的に同列に位置する他局がジェンダー関係の活動をしてはいけない」という組織上の問題が大きい。JICA技術協力では、カウンターパート機関のみを対象に能力強化をすることが多いと思う。州各局にはジェンダー面の能力強化をするだけでよいとの想定だったのかもしれないが、州各局の技術力は十分とは言えないため、技術力向上なしに経済的エンパワーメントは達成できない。
	B (農産加工)	能力自体は上がって来ているが、多くの受益者の実質的な経済活動に繋がっていない。 ある程度の人数は商業レベルでの製造を始める事が出来たが、個々の商才や経験などに左右される部分が大きいため波及効果は限定的。
パイロットプロジェクト参加者のジェンダー平等への意識強化	B	州女性局によるジェンダー研修を行っているが、男性の参加者数は少ない。
	A	農業プロジェクト対象村での聞き取り調査では養鶏活動に女性が関わることで夫婦間の諍いが減った等の変化が生じたと聞いている。
	C	プロジェクト開始前から意識が高かった。ジェンダー専門家が見れば違うのかもしれないが、私の目から見ればジェンダーへの認識はプロジェクト開始前から高かったように見受けられる。PGM1から参加していた人が多くいるためではないか。
パイロットプロジェクト対象コミュニティの人々への裨益	C (農産加工)	説明がまだ不十分。トレーニング前に時間を設け、繰り返しレクチャーする必要がある。 対象者のほとんどが女性、主な作業も男性が立ち入る事の少ないキッチンで行われる事も踏まえ、両性を考慮に入れた「ジェンダー平等」という点への意識は薄かった。
	B	パイロットプロジェクトの研修に参加していない人々でも、研修時にラウドスピーカーから聞こえる内容や研修参加者から学び、活動を始めた人もいる。
プロジェクト活動の他の地域への波及	B	農業プロジェクト対象者は養鶏についての技術を習得してきている。加工品についても少しずつ習得してきている。
	A (農業)	全ての人が農業パイロットから裨益しているわけではないが、他の農業プロジェクトに比べれば、裨益している人の数が多いように思う。もっとも、全ての村で成功しているわけではない。成功していない村は、家屋が密集して養鶏のスペースが少ない、治安が悪い等の問題がある。男性が酒やたばこにお金を使ってしまうというこの村特有の意見もあり、ジェンダー面の改善を先行して進めなくてはならないのかもしれない。
	C	パイロットプロジェクト対象地以外へ働きかけることは行っていない
	B	コンポンチュナン州局関係者を対象としたワークショップを実施している。 研修内容を実践して、収入を向上してきている人もいる。
法律・政策・制度へのフィードバック	A (農業)	プロジェクト対象村外から、トレーニングに参加している農家や、雛を買いに来る人がいる。パイロット対象村の近隣では、プロジェクトで推奨した技術を用いて養鶏を行っている人が見られる。女性省大臣視察がテレビで放映されたり、NGOが視察に来たりすることもあったので、今後さらに波及することが期待される。
	C	パイロットプロジェクトの経験を政策レベルに提言する活動にはまだ至っていない。
	B	コンポンチュナム州農業局では計画に本パイロットプロジェクトについて記載されている。
	B	州レベルでは、PGM2パイロット活動が州開発計画に反映された。ジェンダー関連活動が計画に組み込まれたと言える。パイロット終了後もこれが継続するかは不明。予算がなければ難しいだろう。
C	農産加工をマニフェストとしてとらえている州局が無い場合、全体としてこのラーニングをどう政策などに活かしていくのかの像が見えない。	

3.2. 本プロジェクトが引き起こしている社会的・経済的なマイナスのインパクトはないでしょうか？ある場合は具体的に記述してください。(ジェンダー・人権への影響、貧富の差などの社会文化的側面への影響など)。マイナスインパクトがある場合、それを軽減するためにどのような対策がとられているか教えてください？

<p>予算規模の大きいパイロットプロジェクトが入ることで、対象州、郡、村関係者に研修等の機会、謝金等の利益が偏って投入されるため、周辺地域との格差を生んでいる可能性がある。対策として、関係者には謝金等の意味を丁寧に説明するとともに、例えば養鶏技術マニュアルを希望者に広く配布するなどを行っている。</p> <p>ジェンダーについては懸念がある。本プロジェクトのタイトルは「ジェンダー」主流化だが、実施省庁は「女性」省である。</p>
--

パイロットの目標も「女性の」経済的エンパワメントとされている。私は専門家ではないが、「ジェンダー」と「女性」は全く別の概念だと思う。もしそうであるのなら、プロジェクトがジェンダーと女性を混同して用いていることは、カ国でのジェンダー概念の浸透に悪影響を与えるのではないか。実際、パイロットプロジェクト対象地区住民の中には、プロジェクトは女性だけをターゲットにしていると誤解している人もいるようで、特にジェンダートレーニングの男性参加率が極端に低いことがデータで証明されている。男性の参加なくしてジェンダーの改善はありえないのではないか。

村長が村民から慕われておらず、村長の顔をつぶそうと受益者がトレーニング時間になっても集まらないことがあり、理由を追求することで結果として、村長と村民の間の溝が表面化した。その後、この村では村長にあまり負荷をかけないように民生委員などに間に入ってもらった。また、村長から半ば強要されてトレーニングに参加されている受益者もいた。

3.3. プロジェクトは、女性省およびそのスタッフの知識・能力向上にどの程度貢献していると思いますか？（評価の欄には、A: 大きく貢献した、B: ある程度貢献した、C: ほとんど貢献は見られない、3段階で評価）。

＜スタッフの知識・能力向上＞	評価	具体的にお気づきの点
女性省スタッフ個人の知識・能力の向上	B	PGMワークショップやパイロットプロジェクト活動を通じて。
	A	フェーズ1プロジェクトで能力向上の機会を得た若い世代がフェーズ2で活躍している印象。統計リーフレットはほぼすべてを女性省スタッフだけで作成できている。
	C	ジェンダーに関する知識が非常に低い。また、習ったことをそのマテリアルを使って講師として教えることはできると考えるが、自分の活動や生活に活用することはできない。
	B	女性省スタッフのパイロットプロジェクト参加率は非常に高く、意欲もある。経済的エンパワメントをどのように進めていくかについては知識・能力とも向上していると思われる。ただし、女性省スタッフの議論は養鶏やビジネスに終始する傾向があり、ジェンダー面で知識・能力が向上しているようには思えない。
	B	物事の捉え方や考え方が稚拙なところが見受けられ、ジェンダー視点についてもまだ深掘りが出来ていない。しかし、徐々にそれも改善して来ている。
	B	パイロットプロジェクトを通して農業・農産加工の知識などは向上したが、プロジェクトとして彼らがパイロットプロジェクトを通して何をキャパビルするべきなのかが明確に打ち出されておらず、彼ら自身が何をすべきなのか戸惑う姿も見られた。
女性省の施設・機材の整備状態の改善	A	プロジェクトではコンピューターやコピー機など、業務に必要な機材を調達し、維持管理を行っている。車輛は女性省に供与されているが、維持管理はプロジェクトで行っている。
女性省スタッフの業務調整能力の向上	B	女性省マネージメントレベルや連携省庁との連絡業務を通じて。
	C	(パイロットプロジェクト)女性省スタッフの位置づけが不明確。業務調整をする必要があるかも不明。業務調整に関する技術移転もしていない。なぜなら、JICA運営指導団の見解では、PGM2のように女性省が主導するプロジェクトは今後無いとのことだからである。技術を使う機会が無いのであれば、技術移転をする意味が無い。
	B	順を追って仕事をすることは出来るようになって来ている。
女性省の予算管理などの運営能力の向上	C	パイロットプロジェクトでは女性省職員は活動のオブザーバー+女性局への技術指導だった事もあって、彼らが主体的に業務を行うという位置付けでは無かった。
	C	プロジェクト活動の中で、予算管理にかかる業務を女性省は行っていない。 JICAによれば、女性省が独自の予算で事業を実施することは今後無いとのことであり、事業運営に関する技術移転はしていない。パイロットプロジェクトに関する限り、女性省は参加しているだけで運営には関与しておらず、運営能力の向上は見られない。

3.4. パイロットプロジェクトにおいて、本プロジェクトが採用しているジェンダー視点に立った取り組みを行うことで、より効果が出ている点や、有益だと思える点はありませんか？

1) パイロットプロジェクトを行う上で、ジェンダー視点に立った取り組みを行うことで、より効果が出ているものは、何ですか？

女性が参加しやすい時間設定、ポスター作成・活用や講義だけでなく実習中心の講義、研修場所での託児サービスの提供等を通じて、研修内容の理解が促進されている。

養鶏は、女性が家を離れることなく活動でき、世帯収入に貢献できている。女性が世帯収入へ貢献することで、高額のものを購入する際の意思決定への参加ができるようになってきた。

収入源を得る活動を行い(時間の有効活用)、経済的不安が軽減されたことで、家庭内不和が軽減している。

参加者に占める女性の割合の高さ(村で「ジェンダー＝女性だけの問題」と誤解されている部分もあるが、収入向上につながる可能性のある養鶏や農産加工の研修を多くの女性が受講できるようになった。)

養鶏プロジェクトにおける託児サービスの提供(子どもを連れてきた女性参加者が、託児サービスを提供することで研修によ

り集中できるようになった。)

村の中でトレーニングをすることで移動距離を出来るだけ短くすることで拘束時間を短くした。

2)パイロットプロジェクトを行う上で、ジェンダー視点に立った取り組みが有益だと思える点は、何ですか？

特定のセクター局ではなく、女性局が中心となりまとめ役を行うことで、各局の連携による活動がしやすい。

農業プロジェクトでは鶏(=財産)が女性の手元にあることで、重要な支出の決定を女性だけでできるようになった等、女性の変化がみられている。

ジェンダーは横断的課題なので、州女性局を除く州各局のジェンダーへの関わりは同等である。そのため、ジェンダーをキーワードにした場合には、州各局を連携させやすいかもしれない。もし農業局を中心に連携を図った場合には、農業局が上で他局が下という構図になりやすく、連携が難しいかもしれない。

村の女性は仕事の他にも育児や家事もこなしており、トレーニングに参加すること自体が負担であることをCPや関係局が理解し、その条件を踏まえた上でトレーニング等の活動を検討するようになったこと。

男女共にそれぞれの生活スタイルや労働量、モビリティなどを考慮に入れて研修内容・時間・会場を設定する事で活動に参加する事へのハードルを下がる事が期待できる。

3)パイロットプロジェクトを行う上で、ジェンダー視点に立った取り組みが有益ではないと思える点はありますか？

「ジェンダー＝女性の問題」との誤解が多くあり、特にジェンダー研修で男性の研修参加者が少ないと聞いている。一方的に「男が悪い」という論調ではなく、男性にも納得してもらえ取組みを実施していく必要を感じる。

ジェンダー視点に立った取り組みが特に有益ではないと思ったことはないが、農産加工プロジェクトへの受益者数の推移から、女性の経済的エンパワーメントには必ずしも直結しないと思う。ビジネスにおいては、収益を獲得して行くことが一番求められるため、活動の主軸がここからぶれてしまうと、いくらジェンダー視点に立った取り組みでも受益者に受け入れて貰えないというのが実情である。

ジェンダー主流化と銘打っているがパイロットプロジェクトの目標は「女性の経済的エンパワーメント」と女性に視点が置かれている事から、逆に男性参加者が疎外感を感じて行ったように感じる。個々の研修で初めと終わりにそれぞれ州職員・女性省職員らが毎回「女性の経済的エンパワーメント」の重要性について説明していたが、男性参加者の立場から見るとそれによって次回の活動参加への意欲が湧くとは思えない。

3.5. これまでプロジェクトが支援してきている女性省を中心としたジェンダー主流化の仕組みは、プロジェクト終了後も活用されると思われますか？現状と、活用へ向けた問題点、課題を、具体的に記述してください。

GMAP改訂支援、ジェンダー統計リーフレット作成、PGM手法ワークショップ開催については、政府予算がつけば継続の可能性は大きい。一方、現場の経験を踏まえた政策提言という流れについては、現在パイロットプロジェクトが局の連携を維持しながら行うようにとりまとめているのは州女性局でも州計画局でもなく日本人側であり、プロジェクト終了後この役割を担う局が存在するのか疑問。

3.6. これまでプロジェクトがパイロットプロジェクトを通じて支援してきている、コンポンチャム州でのジェンダー主流化の取り組みは、継続されると思いますか？現状と事業継続にかかる問題点、課題を、具体的に記述してください。

(パイロット全体)特に州局の連携について、現在はプロジェクト側が州局をまとめて連携する体制をとっているが、プロジェクト終了後州女性局がここまでまとめることができるかどうか。また、既述の通り、本来の省・局の役割が重複している現状を見れば、必ずしもいくつかの局が連携して何か活動をする必要性はないと思われる。また、州女性局のマンパワーや能力について改善が必要。

(農業プロ)女性が経済活動に参加することで、意思決定の機会が広がり、子どもの教育にも貢献し、家庭内の不和が軽減、などといった成果が出てきているが、例えば農業省・局が継続して行うには、農業生産性の面から具体的な数値をとり、このアプローチが本当に有効だったのかどうかを検証していく必要があるのではないかと。

(農産物加工プロ)農産加工ビジネス、女性の起業家支援に関しての州局の経験やノウハウがほとんどないので、この部分の能力強化が必要だが、ビジネス支援と言った場合に、それぞれの州局のマネジメントとしてどこまで支援できるのか、行政からの支援だけでは成功するのが難しい点が多いのではないかと。

3.7. これまでのプロジェクト活動全体を通じて、今後改善すべき点がありましたらご提案ください。

女性省局長レベルとの定期的なミーティングを開催し、プロジェクト活動について情報交換・意見交換を行う(カウンターパートミーティングは毎月開催しているが、経済開発局およびジェンダー平等局からの局長レベルの参加はあまりないため。)中央省庁に向けた活動について検討し開始する。

<p>PDMの見直し。アウトプット、プロジェクト目標をもっと現実に則したものにす。いち省庁のいちパイロットプロジェクトが、省庁の政策や方向性に大きく影響を与えるとは考えにくく、かつ地方分権を推進している現状で、省庁-州局の縦のラインでプロジェクトを組み立てるのには無理があるのではないか。</p>
<p>女性省職員の活動への位置づけの検討。現在は州女性局の力不足もあり、パイロット活動中心の関わりになっているが、パイロット活動のジェンダー視点からのモニタリング・評価等やプノンペンでの業務等、どのようにプロジェクトに関わってもらおうか考えていく必要がある。パイロットプロジェクトのジェンダー研修では、男性にも納得してもらえらる取組みを実施していく必要を感じる。</p>
<p>5省の連携を前提とするという活動は難しいと考える。それが活動の制限になっている。政策を実現するために、どのアクターが必要か、アクターのやる気などを前提として関係者を募り、一緒にプロジェクトを組み立てていくという考え方でなら、可能かもしれないが、日本でも縦割り行政で行政間の連携ができないのに、それを相手国政府に求めるのは難しいと考える。ジェンダー主流化と関係省庁、局の連携は別目的であり、本プロジェクトはジェンダー主流化を目的とするべきであるのに、関係省庁、局の連携を促す作業にかかる手間が大きく、力が分散してしまっていると考える。</p>
<p>ジェンダーと女性(の概念の明確化):「ジェンダー」と「女性」の混同問題はプロジェクトの成果に大きく影響するため、中間評価で一定の結論を示してほしい。</p> <p>PGMメソッド(の位置付けの明確化):PGMメソッドは誰を対象としたメソッドなのかが明確でないように思われる。もし農業省など他省が使用することを想定しているのであれば、プロジェクト目標やPDMの利用にまで女性省が口を出すことは越権行為なのではないか。あくまでも既存のプロジェクトにジェンダー視点をどのように取り入れるのかに徹すべきだと思う。もし女性省が自ら実施するプロジェクトで使用することを想定しているのであれば、PGMメソッドは良い手法だと思う。ただし、プロジェクト成功のカギを握る「実施」に関する記述がほとんどないことは問題だと思う。</p> <p>男性の経済活動に関する固定観念(の排除):ジェンダーのインパクト調査によれば、男性の進学率が女性より高い理由として、「女性は仕事と家庭という二つの選択肢があるが、男性は仕事しか選択肢がなく、進学する必要がある」と説明した農家があった。女性は男性よりも選択肢が少ないと言われているようだが、仕事か家庭かという問題に関する限りそうではないようである。もしこの農家の見解が正しいのであれば、就労機会が限られている場合において、男性が女性に機会を譲るといことは難しいのではないだろうか。プロジェクトの目的が「ジェンダー」なのか「女性」なのかかわからないが、もしプロジェクトのタイトルどおり「ジェンダー」なのであれば、この農家の見解にも答えを示す必要がある。</p> <p>プロジェクト運営に関する技術移転の対象者(の明確化):パイロットプロジェクトでは省庁連携が強調されているが、誰が連携を主導するのが明確でない。現時点ではJICAチームが連携を主導しているが、これは外国人だから認められるやり方である。将来的にJICAチームの機能を代替する省庁が明確でないことから、プロジェクト全体の運営や連携の手法に関し、誰に技術移転をしてよいかかわからず困っている。将来的にガイドラインのようなものを作るとしても、利用対象者が明確でないと難しい。</p> <p>州関係各局に対する技術移転(内容の明確化):パイロットプロジェクトでは、プロジェクトの実施を通して州関係各局の技術力向上に貢献しているが、州関係各局に対する技術移転には何が求められているのか明確にしてほしい。</p>
<p>(農産加工プロ)プロジェクト受益者の中で農産加工ビジネスへの意識に差が出て来ているため、それぞれのニーズに合ったものを準備する方がより効果的な研修に繋がるのではないか。</p>
<p>パイロットプロジェクトの位置付けが不明確:どのぐらいの規模で・どれだけの収入向上を目指し・それを通じて関係州局が何を学び・将来的にどのように発展していくのか。これらの点を事前に関係者の中で共通認識を持ったうえでプロジェクトの形成をするべきだった。</p>
<p>女性省及び連携省庁(中央・州)の能力を考慮すると、パイロットプロジェクト活動で成果を出すためには、プロジェクトとしての投入がかなり求められることになる(現状レベルもしくはそれ以上)。しかしながら、C/Pをはじめパイロットプロジェクト活動に余りに時間を割いている印象もあり、本来の女性省のマネートでもあり本プロジェクトでも強化すべき点にも支障が出ている(統計冊子の取り纏め等)。また、パイロットプロジェクト活動の成果が出ているかどうかという視点も必要であるものの、その位置付け及び後半どうあるべきかにつき確認をする必要がある。</p>

以上

## 5. 面談記録

### カンボジア国 ジェンダー主流化プロジェクトフェーズ2中間レビュー/面談票

日時	2013年 1月 28日(月) 10:30~11:30
場所	女性省内PGM2 プロジェクト事務所の会議室
訪問機関名	プロジェクトカウンターパート、女性省 (MOWA) ジェンダー平等局長
面談者	Nhean Sochetra (Director, Gender Equality Department, MOWA)
出席者	調査団：本間 (記録)

- 面談者について
  - ジェンダー平等局長として、UNDPによるPGEに、長い間関わってきている。PGEのコンポーネントは、①政策面でのジェンダー主流化、②女性の経済的エンパワーメント、GBV (Gender Based Violence)。
  - PGMには、フェーズ2から直接かかわり始めた。ミーティングや (パイロットプロジェクトの) コミュニティの訪問などの活動の多くは、部下が参加している。
- プロジェクトの進捗について
  - パイロットプロジェクトとして、マーケットリサーチや、状況分析、現地のニーズに沿った計画策定など。その後、クレジットを提供して活動が開始されている。参加農民は、自信や知識、技術などを獲得している。
  - (ジェンダー平等局として得たものは?) 自身はあまり参加出来ていないが、部下たちの話を聞くと、知識や技術を多く習得している。特に英語能力、調査能力 (質問票の作成や実施) など。プロジェクトチームに入ることが出来たことを喜んでいる。
- プロジェクトの特徴や長所など
  - (他のプロジェクトと比較した長所は?) 他のプロジェクトの多くは、政策レベルだが、PGMは実際に草の根レベルを対象として、政策レベルの課題をコミュニティレベルまで届けている点。(弱点は?) プロジェクトごとにフォーカスや手法が異なるため、単純に比較は難しい。ただ、JICAでは日本の会社を雇用して実施が行われているため、MOWAのスタッフが直接に雇用され実施されるよりも、非常に多くのコストがかかっているという印象を持っている。
  - (パイロットプロジェクトにおける複数の連携省庁によるマネジメント手法についてどう思うか?) それぞれの役割を持って、協力して働くことで、対象者の状況を理解し、強力で効果的な活動を実施出来ている。
  - (MOWAの3局の協力体制はうまくいっているか?) 当初は、役割がよくわからなかったが、今はプロジェクトについてよく理解しており、他のプロジェクトの経験などを共有しながら実施が出来ている。問題は無い。カンボジアの公務員は給与が低いいため、給与補填が無い活動にはコミットメントが下がるのだが、現在は、それが無いにもかかわらず、スタッフは、積極的に活動に参加していることが、それを証明している。
- プロジェクト目標の達成の見込みについて
  - (プロ目がわからないということで文言を確認した)
  - (他の地域での事業実施の可能性は、どう思うか?) 関連省庁に、直接可能性を聞いてみるといい。それによって、指標を検討するとよい。
  - (女性省として、何が出来るか?) ワークショップを開催し、プロジェクトの経験や手法を、連携省庁から、非参加省庁の関係者に説明してもらうのはどうか? 女性省としては、日本への研修を通じて日本の経験を共有してもらい、それを活かしたい。
- 今後の中央レベルの巻き込み方について
  - 現在、連携省庁の関係者はテクニカルレベルが中心だが、意思決定レベルをもっと巻き込んでいくとよい。

- GMAPの改定を、PGMメソッドを用いながら、行っていくとよい。(GMAPを実施する予算が無い省が多いようだが?) それでも、能力が強化されコミットメントも高まると、出来るかもしれない。女性省は、そうした取り組みの調整や技術支援が可能である。連携省庁の関係者に対して、予算獲得に向けて、交渉能力や調整能力に関する研修を実施するとよい。それを通じて、連携省庁のGMAGにより、類似の活動を他の地域で、自分達で実施するように促進する。
- TWGGを活用するのはどうか? TWGGではJICAが共同ファシリテーターであり、もうすぐ経済的エンパワーメントサブグループが立ち上がる。これを活用して、連携省庁の人たちともっと情報共有をしていき、アクションプランを作成する中で、PGM2の活動を反映させていくといいのではないか? サブグループの活動の中に、PGM手法の修正も入れて、コメントなどを受けるのもいいかもしれない。GBVのサブグループでは、GIZが主導してNational Action Planを作成した。経済的エンパワーメントサブグループでは、PGM2の経験を活かして、Joint Action Planを作成したらいいかもしれない。
- PGM手法について
  - カウンターパートにも多くの活動に従事させているのがよい。専門家とカウンターパートと一緒に活動を行うことで、学びがある。コミュニティの人たちとも、自信を持って接することが出来ている。調査能力も向上している。

以上

日時	2013年 1月 28日(月) 9:30~10:30
場所	女性省内PGM2プロジェクト事務所の会議室
訪問機関名	PGM2カウンターパート、女性省(MOWA) 計画統計局長
面談者	Te Vouchlim (Director, Planning and Statistics Department, MOWA)
出席者	調査団: 本間(記録)

- 面談者について
  - フェーズ1から、中心的に関わっている。昇進して現計画局長だが、プロジェクトマネージャーのタイトルは、前計画局長(現アドバイザー)にある。しかし、実質的なプロジェクトのマネジメント業務を、担当している。
- プロジェクトの進捗について
  - 活動はうまくいっているが、問題はある。パイロットプロジェクトの農業部分はうまくいっているが、農産加工は販売が難しくうまくいっていない
  - 基本的に、養鶏活動は持続可能性が高いと思う。
  - 現在MDG3に関して、経済的エンパワーメントについて、達成促進のアクションプランがUNDPの支援で作成されており、プロジェクトはそこに関わるため、妥当性が高いと思う。
  - (フェーズ1と2との違いは?) フェーズ1は中央の関係者のキャパビルが中心だった。計画からモニタリングといった段階毎に関係者へ知識が与えられる形だった。第二フェーズは、州レベルにフォーカス。中央の自分達はベースライン調査やマーケットサーベイなどにコンサルタントとともに関わった。調査は容易ではなかったが、自分達が自ら関わらないといけなかった。
- プロジェクト目標の達成の見込みについて
  - (プロジェクトの目的は何か?) 地方の女性の経済的エンパワーメント、収入向上。
  - (プロ目の内容を確認。あらためて、パイロットプロジェクトの経験を通じた、中央レベルを巻き込んだ形での今後の方向性は何か質問。) 中央レベルのGMAPの改定など。プロジェクト活動に対して、前半はあまり中央レベルが関わってきていなかった。そのため、今

年は、地方レベルから政策提言を行う予定。提出された提言に基づいて、中央の関連省庁の関係者は、GMAPの修正に入る。

- (中央の関係者のこれまでの関わりは?) 省によっては、二か月に一回くらい。各省3人程度が、プロジェクトにアサインされている。
- (パイロットプロジェクトの経験はどのように活用されていくと思うか? プロ目の指標にあるように、事業実施に結び付いていくと思うか?) 活用していく省もあると思う。WSなどでPGMメソッドを取り入れているところもある。MRDは実際に政府予算を活用して、コンポットなど3カ所くらいでPGMメソッドに基づいた活動をしていると聞いている。コンポンチュナンでプロジェクトが行ったWSでも、興味を示していた。活用する省も出てくるのではないかと思う。実際、パイロットプロジェクトに参加した農民たちは喜んでい
- (ジェンダー主流化のメカニズムというプロ目に関連して、何が必要か?) PGMメソッドの修正。連携省庁が使いやすいように。修正作業に連携省庁に関わってもらおうとよい。中央レベルの人たちは特にパイロットの内容を十分に理解しているわけではないので、後半は巻き込んで、ジョイントWSや研修を実施して、中央と地方の連携を図っていくとよいと思う。
- パイロットプロジェクトの連携実施マネジメント手法について
  - コンポンチャムの連携局の人たちにとっては2回目の事業実施となるが、フェーズ1では局ごとに別々に行っていたのに比べると、フェーズ2では複数の局が協力して実施がなされている。
  - 最初、調整がとても難しかったが、今は軌道に乗っておりうまくいっている。各局がそれぞれに役割を担って、一つの事業を実施している(州女性局が調整、商業局がマーケット、労働職業訓練局が簿記などの研修、等)。さらに女性省の調整能力高め、チームワークを強めた。PPCCの議長が、前女性局長であり現副市長であるため、非常に協力的であり、活動を促進している。
  - (連携した実施により、受益者の利益は増えているか?) 参加者は、以前より収入を得ていると思う。収入を得たことで、DVが減ったといった側面の変化も聞かれている。
  - (連携の長所は?) 最初大変だったが、理解して実施してみると、局が連携して協力して実施することで問題などに対処したり、問題を議論したりできるようになるなど、良いことがわかった。さらに、ジェンダーが女性省だけの問題(課題)ではなく、自分達の問題であることを、連携局の関係者が理解して、具体的な考えを持つようになった。実際、コンポンチャムの連携局にとっては2回目のパイロット事業ではあるが、多くの関係者が新しくプロジェクトに関わってきている。そうした人たちも、上記のような変化がみられた。
- プロジェクトのマネジメントについて
  - うまくいっている
  - しかし、プロジェクト雇用のスタッフが多すぎると感じる。活動に支障はないが、時に意思疎通が難しくなるときがある。日本人専門家の投入については、常に滞在している人がいなくなり、出入りをするのが残念。長く同じ人が関わる方が、別々の人が短期間で交代するよりもよい。特に、山口リーダーに長くいてほしい。専門家の能力は問題ない。
  - (女性省内の3つの局が協力して関わることについては?) 何の問題もない。もともとフェーズ1の時から、他局との協力体制はあったし、良いことだと思う。確かに、当初は、3局が自身の担当や役割などが何か理解するのに混乱があったが、今は大丈夫。
  - 関連省庁の選定にも問題はない。第一フェーズから引き続きのため、関係性がすでにあった。

- プロジェクトのインパクトについて
  - 女性省も関係省庁も、第一フェーズは研修中心だったため、能力強化などは多かった。第二フェーズでは、国内や日本での研修を含めて、研修は少ない。PGM メソッドについても、第一フェーズでは最初からすべて実施したが、本フェーズではカットして部分的に行っている。混乱を避けるため。
  - その分、女性の経済的エンパワーメントに関する能力や知識は増えていると思う。具体的な収入増加の方法について理解できた。また経済活動におけるジェンダー視点や、ジェンダー主流化を理解することができた。フェーズ2の方が、結果重視の活動を行っている。
  - 受益者への利益については、養鶏と農産加工について異なる。養鶏はインパクトが出ているが、農産加工は、ベースライン調査の結果が適切ではない（不十分）などのため、活動を始めてから問題が。

以上



日 時	2013年 1月 28日(月) 9:00~9:30
場 所	女性省副大臣室
訪問機関名	PGM2 プロジェクトディレクター、女性省 (MOWA) 副大臣
面談者	Chan Sarey (Secretary of State, MOWA, Member of Cambodian National Council for Women)
出席者	調査団：本間 (記録)、プロジェクト：山口リーダー、JICA 事務所：灘本

表敬および、簡単な質問

- プロジェクトの進捗について
  - プロジェクトはうまくいっており、活動の進捗に問題は無い。唯一うまくいっていないのが、農産加工のプロジェクト。養鶏はうまくいっている。
  - PGM メソッドを活用して活動は行われており、手法はうまく機能している。
  - フェーズ 1 と 2 では、基本的に同じことをしていると考えている。異なる点は、PGM2 のパイロットプロジェクトは、2つにわけて行われている点。
- 他のプロジェクトと比較した PGM2 の特徴や長所について
  - UNDP や UNWOMEN によるプロジェクトが実施中だが、予算が異なるだけで活動は同じ。
  - PGM2 の長所は、直接的に農家の収入を向上させており、DV が減ったという報告もある点。弱点は、どのプロジェクトも同じようなものだから特にならない。他のプロジェクトもだが、マーケットが限られている点が問題。
  - プロジェクトの問題は、農産加工のパイロットがうまくいっていない点のみ。
- プロジェクトへのコメント
  - (プロジェクトが関わることで、視察などで) 小さい村での小さな活動に対して、大きな調査団が多く車を連ねて訪問するような事態が見られている。
  - 投入が非常に大きいわりに、パイロットプロジェクトを通じて受益者が得る収入が少ない。
  - (それをメカニズムとして機能させ、他の地域での普及を目指すというのがプロジェクトのコンセプトだが、それは可能だと思うか?) 将来的には、他の地域に広がっていくと思う。(その際の女性省の役割はなんだと思うか?) 普及のための教育などを担当出来ると思う。

以上

日 時	2013年 1月 28日(月) 11:30~12:30
場 所	女性省内PGM2 プロジェクト事務所の会議室
訪問機関名	プロジェクトマネージャー (PM)、女性省 (MOWA) アドバイザー
面談者	Chhoy Kimsor (Advisor, MOWA)
出席者	調査団：本間 (記録)、通訳：ピラ (JICA 事務所スタッフ)

- 面談者について
  - フェーズ1 から、計画局長として関わってきている。退職したため、現在はアドバイザー。
- プロジェクトのこれまでの進捗や達成内容について
  - うまく実施されており、良い結果が出ている。
  - 実施レベルでのメカニズムを設立している。たとえば、中央レベルの JCC を開始し連携省庁も参加。州レベルでの PPCC の設立。州の副州知事が議長となっており、メンバーは連携局の局長たち。こうしたクリアなメカニズムが、プロジェクト活動をスムーズにしている。
- プロジェクトの方向性について
  - フェーズ1 は、各局が別々に事業を実施してきたが、フェーズ2 は、連携局が連携して2種類の事業を実施している。これは、簡単なことではなかったが、大臣→副大臣 (PD) → 自分 (PM) → 州副知事 (PPCC 議長) という連携メカニズムのために、調整していくことが出来た。
  - (今後、どのように中央の人たちを巻き込んでいくか?) そのために、JCC を設立している。
- パイロットプロジェクトの連携実施マネジメント手法について
  - (連携の長所?) 友情、関係性、といったものが、連携省庁/局の人々の間に生まれた。また、連携6局が一つのスケジュールを共有しながら、協働出来ている。(女性の経済的エンパワーメントの視点からの利点は?) 各局が、それぞれの役割を担っている(農業局が養鶏技術、農村開発局がクレジットとその活用技術、商業局がマーケティング、女性局がジェンダー等)。
  - (連携の弱点は?) スケジュール変更が頻繁であり、全関係者がそれをフォローしきれない。
  - (対象者の選定について) 対象者は、ベースライン調査に基づいて、さらに何度も訪問して決定したため、問題ない。
- プロジェクトのインパクトについて
  - 女性省カウンターパートたちは、フェーズ2 では、ミーティング実施などにおいて、特に責任感が強化されている。二種類の事業へ、担当分担をしてうまく関わっている。自身のフィールドレポートが義務付けられているだけでなく、他の報告書の英訳なども担当しており、能力強化がみられる。
  - (州女性局は?) 能力は強化されている。中央の女性省側が、サポートしたり研修したりしているが、州女性局が女性省の作業を助けてくれる時もある。
- プロ目達成の見込みについて
  - (プロ目は何だと理解しているか?) 女性の経済的エンパワーメント。
  - (プロ目の確認後、どのように中央レベルを巻き込んだ形でのメカニズムの強化が出来るか?) 2013年の活動の中に、パイロットプロジェクトの活動に基づいた、政策提言の準備が含まれている。中央レベルの関係者は、それに基づいて、新しい政策の策定を検討するとともに、現地視察などを通じて、フィールド活動への理解を促進していくことがい。

- (プロジェクト目標の指標となっている、連携省庁の事業実施は、可能だと思うか?) 能力強化はしていくと思う。しかし、実際に事業実施に結び付くかは、連携省庁に直接質問してみるとよい。女性省の役割は、ファシリテート、コーディネート、モーティベイトの3つ。すでに連携省庁のGMAGメンバーとの関係性やネットワークは構築されているので、それを活用することができる。
- (プロジェクトを実施することのMOWAの利点は何だと思うか?) スタッフの能力強化。
- プロジェクトのマネージメントについて
  - 問題は特にない。以前は、カウンターパートへの給与補填が無いことが問題だったが、現在は、それを気にしないで活動に従事するようになってきている。カウンターパートたちの考え方が変化してきている。
  - 日本人専門家との関係性も良い。しかし、常駐していないのは問題だ。時に問題が生じた際に、直接相談が出来ずに時間がかかる。プロジェクト開始前は、フェーズ1のように、同じ人が長期間関わってくれると思っていたが、実際は違った。しかし、今は、他のプロジェクトもそうなので、慣れてきた。
  - 活動内容と比較して、プロジェクト雇用のスタッフ(特にコンポンチャム)が、多すぎる印象を受けている。現在は中央に2名、地方に10名もいる。
  - PPCCの議長が副州知事であり、パイロットプロジェクトの対象地域で問題があると、相談するというメカニズムがある。(貢献要因)

以上

日 時	2013年 1月 29日(火) 10:30~12:00
場 所	農林水産省次官のオフィス
訪問機関名	連携省庁（農林水産省、MAFF）の関係者
面談者	Ms. Ourng Heng (Deputy Secretary General, MAFF)
出席者	調査団：本間（記録）、通訳：Thyda（JICA 事務所職員）

- 面談者について
  - 省内で長い間ジェンダー主流化に関わってきている。フェーズ1も参加。
  - 本プロジェクトで、10月に本邦研修に参加。10日間で農家や農産物加工の視察を実施。（結果は、GMAGメンバーにはシェアした由。州レベルにはしていない。）
  - 次官に昇進した。様々なプロジェクトで、ジェンダー視点に立って計画されているかを確認するのが、業務。
- 農林水産省のGMAGについて
  - 現在は10名がメンバー。定期会議は無い。
  - ADBに、長い間支援されてきていたが、現在は政府予算でGMAGを実施中。主に、州レベルの関係者への研修を実施している。保健や農業、家畜飼育などの研修において、ジェンダー視点を入れる方法を研修。
  - 現行のGMAGは、2006年～2010年のもの。それ以降は、改訂の必要性は無いと判断しているため、改訂の予定は無い。現行の計画はほぼ達成しており、現在は、残っている計画4の部分(州レベルのフォーカルポイントへの研修)を実施している。
  - 今後は、省の計画自体にジェンダー視点を取り入れる形を採用するため、GMAGは作成しない予定。
- プロジェクトの経験の活用
  - PGMのシステムは非常に実施しやすいので、(GMAGによる)研修で紹介している。(具体的にどの部分?) 計画策定において、男女別のニーズ分析などに有効。
  - 上記の州レベルの関係者への研修においても、PGM2の経験を紹介している。
- パイロットプロジェクトについて
  - 現在養鶏プロジェクトを実施中。技術面、対象者の選定、フィールドでの実施状況など、すべて良い。
  - (具体的にパイロットプロジェクトの長所は何か?) 夫も研修に参加し、妻が実施する養鶏のケージの作成などに協力している。
  - 視察時にインタビューしたら、以下のような農家女性のケースが聞かれた。
    - ◇ 以前は10羽中、2、3羽以外は死んでしまっていたが、今ではすべて販売できる。
    - ◇ 売上げが上がった。手法としては、販売用と卵用に分別して、育成したことが効果的だった。
    - ◇ 寡婦の女性で、ケージの中でいくつもの分類をするという手法が成功し、生計が改善し、子供の教育費も捻出でき、心配がなくなったと答えた人がいた。
  - (農林水産省が実施してきた従来の手法と何が異なるのか?) 対象農家の選定が良い、スタッフの能力も高い、定期的な研修の実施もより、タイムリーな予算の支出もよい。
  - (ジェンダー視点からの利点は?) 男女が相互に理解しあい、協力しあいながら養鶏に関わっている。研修後、夫が妻の養鶏活動開始を促進した事例もあった。こうしたアプローチを通じて、収入向上がみられ、それによりDVなどが減っている。
  - (パイロットプロジェクトのマネジメントの面はどうか?) PDAとディストリクトレベルのオフィサーたちが協力しあって、実施を行っている。農家とも密に連絡を取り合い、

関係性が強化されていることが、成果に繋がっている。

- (連携実施マネジメント手法はどうか?) うまくいっている。この手法がうまくいっているのは、局レベルの関係者とプロジェクトスタッフと農家という3者が、熱心に関わっているためだと思う。局によっては、関与が弱い局も見られる(商業局)。メリットとしては、多くの関係者が、多くの考えや意見を共有することで、それぞれの局が担当セクターに関してフィードバックし、それにより一局で実施するよりも、活動がより良くなっている。

- プロジェクト目標の達成の見込みについて

- (PGM2 のプロジェクト目標を知っているか?) すべてのセクターにおけるジェンダー主流化。あと、PGM2 では特に、女性の経済的エンパワーメント。これらは、MAFF の計画にも沿っているし、CEDAW や、大臣の声明などにも沿っているため妥当である。
- (プロ目の確認後、農林水産省での事業実施の可能性を質問。) ジェンダー主流化のメカニズムの強化は、農林水産省には必要ない(すでにできているため)。他の州での事業実施の可能性としては、州レベルの関係者の理解は促進されてきていると思う。例えば、州局長のうち8名が、現在は女性になっている。(実際のフィールド活動では?) 省レベルにいる自分は、州レベルの活動の責任が無い。上記のように、関係者の理解は促進されてきていると思うが、実施に結び付くかどうかはわからないので、少なくとも自分は研修を続けていく。政府サービスには限界があるかもしれないが、農民間の模倣という形で、コンポンチャムでは普及は進んでいる。
- (PGM2 に参加した、MAFF のメリットは何か?) PGM2 から知識を得ることが出来た。それを共有することで、省内でのジェンダー主流化(女性人材の活用)が進んでいる。それにより、省内での理解が広まっていることがわかる。州レベルも、実際に対象農家に裨益(生計向上、教育促進、出稼ぎやDVの軽減など)することが出来ている。

以上

日時	2013年 1月 29日(火) 14:30~16:00
場所	鉱工業エネルギー省の会議室
訪問機関名	連携省庁(鉱工業エネルギー省、MIME)の関係者
面談者	① Ms. Mak Boly (Advisor、MIME) ② Ms. Him Somarong (Chief of Cooperation Office of Energy Development Department、MIME)
出席者	調査団：本間(記録)、通訳：Thyda(JICA事務所職員)
収集資料	GMAPの改訂版(クメール語)

- 面談者について
  - ②はフェーズ1からPGMに関わっている。
- 鉱工業エネルギー省のGMAGについて
  - 現在22名。別々の局から選ばれている。人数が多いものの、コミットメントの低い人も多いため、実際のGMAGとしての活動に従事する人は少なく、自分達はとても忙しい。
  - GMAPが先月改訂されたばかり。2012年~2017年版。UNDP(PGEプロジェクト)の支援による。PGMによる支援は無いが、ワークショップには、女性省の経済局長(PGMのC/P)が参加していた。2012年12月に開始ワークショップを実施したばかり。現在UNDPが翻訳(英語版)中。
  - 前のバージョンは殆ど実施が出来なかったため、多くの活動が、改訂版にも引き継がれている。
  - 改訂版GMAPの6つの戦略のうち、戦略4の「SMEに従事している女性への能力強化やサポートサービスの提供と、ビジネスオーナー女性の人数の増加の促進」が、女性の経済的エンパワーメント関連。フェーズ1での経験に基づいて、戦略を作成した。PGM2にも関連している。その中でも、特に活動1は、ビジネスを行う女性への研修の提供なので、PGM2の活動が直接関連している。
  - 改訂プロセスは、GMAGメンバーによるドラフト作成→MOWAのジェンダー平等局へ提出→PGEへ提出→UNDPコンサルを中心にワークショップを実施し関連省庁などからコメント→コメントを反映した版を完成→大臣の承認→開始ワークショップをUNDPが実施。(改訂作業に、PGMメソッドは活用したか?) PGMメソッドをあまり覚えていない。
- プロジェクトでの役割や関わり方
  - 鉱工業エネルギー省では、パイロットプロジェクトで農産加工サブプロジェクトを実施。干し大根の漬物の作成
  - 中央レベル自分達の、パイロットプロジェクトでの役割は、研修時の技術支援と、活動の観察。これまでに、10回以上、コンポンチャムのフィールドにも訪問している。
  - 自分達は、女性省から招待が来ると、ワークショップや活動に参加。これまでに州レベルのサーベイやミーティングに参加してきている。特に中央レベルの関係者としては、パイロットプロジェクトの対象者の選定と、5Sの研修(Productivity Centerのトレーナーが実施)を担当した。
- パイロットプロジェクトについて
  - パイロットプロジェクトでは、農産加工品は、一種類(漬物)のみを対象としているが、実際に材料は時期により変化するため、難しい。さらに、調査時には対象者が大根を育てていたため商品を決めたが、実施段階になって、材料として量が不足しているため、他から購入する必要性が出たため、コストがかかる。現在は難しい状況だが、将来的には良くなるかもしれない。

- (ジェンダー視点から見るとどうか?)男女が協力して、分担しながら活動を行っている。また、農民グループを作成したが、メンバー間で価格を決定することで、個々に仲買人と交渉するリスクを回避し、買ったたきに対抗出来ている。以前は、作業場所などが分別されていなかったが、ゴミや養鶏、加工作業といった目的ごとに、場所を決めて整理することで、清潔になってきている。
- (連携実施マネージメント手法についてどう思うか?)良い。一緒に活動しながら、個々に役割があり、それぞれのセクターごとに担当している。一局だけだと、生産をしてから販売段階になって、販売先を探すために商業局とコンタクトを取るなど、時間がかかるが、連携して実施しているために、生産→販売などのフローに無駄が無く、時間とコストを節約できている。
- (連携の弱点は?)局の関係者の話では、養鶏活動のように、短期間で成果が出たり多くの対象者がいる活動に従事している局には、どんどんプロジェクト予算が配分されているが、農産加工のように、時間と手間がかかる活動に従事していると、局としての予算の配分が少ないため、不公平が生じている。
- 中央と地方の関係者の連携にもメリットがみられている。しかし、州レベルの関係者は交代が激しいため、新しい人が慣れるのに時間がかかっている。
- プロジェクトの経験の活用
  - (経験から何か学んだか?)自分で研修を実施する際に、PGMの資料を見直している。ビジネス計画などの作成の仕方も参照している。
  - (GMAGの活動への活用の可能性は?)自分達GMAGの役割は、研修実施が中心。そのため、そこに反映させていく。現在は、フェーズ1でのコンポンチャムでの事例を、スライドなどで紹介している。さらに、フェーズ2で採用した5Sを紹介している。
- PGM2のプロジェクト目標の達成の見込みについて
  - (プロ目は何か?)農村地域の女性の貧困削減のための状況の改善。
  - (プロ目の確認後、他の州での事業実施の可能性について質問。)現在GMAGでは、GMAPの達成が主な仕事である。メンバーの中には活動に参加していない人も多く、難しい。
  - (上記の、改訂版GMAPのストラテジー4に関連した活動としては難しいか?)もちろん、PGM2の手法や経験は、非常に良いから活用しないといけない。しかし、実際に事業実施が出来るかは、予算次第。現在GMAP実施のために国の予算を申請しているが、とても時間がかかる。
  - 研修の実施は、GMAPにおいて、毎年3回(1回中央、2回が州対象)実施することが決まっているため、そこで共有することは可能である。現在すでに2州での実施が決まっており、予算待ち。PGM2からのケースを紹介したり、フィールドレベルでの研修に関する情報を女性にも共有して、女性の参加を促進したりする。(研修後に、事業実施につながる可能性は?)今のところは、予算の制約のため、無いだろう(国家予算を獲得できる可能性も、殆ど無い)。
  - しかし、メカニズムの存在は非常に重要であると思う。メカニズムが出来ていれば、実施はそのあとについてくる。ステップごとに沿って行うことが出来るので。
  - 出来れば、(パイロット)プロジェクトの活動を、他の州へ広げてほしい。そうでないと、時間や予算の制約で、事業実施につなげるのは難しい。

以上

日時	2013年 1月 29日(火) 8:30~10:00
場所	農村開発省 (MRD) の会議室
訪問機関名	関連省庁 (農村開発省、MRD) の関係者
面談者	① Ms. Lach Saman (Deputy Director of Administration Department、MRD) ② Ms. Lay Viraboth (Deputy Director of Rural Economic Development Department、MRD)
出席者	調査団：本間 (記録)、通訳：Thyda (JICA 事務所職員)
収集資料	改訂された GMAG (2012-2016)

- 面談者について
  - ①はフェーズ1からプロジェクトに関わっている。
- 農村開発省の GMAG について
  - 農村開発省の GMAG メンバーは、現在 10 名。うち 3 名がプロジェクトにアサインされている。
  - GMAG の主な活動は、ジェンダー認識向上のためのワークショップの実施と、ジェンダー主流化の進捗状況に関するモニタリング評価。GMAG のミーティングは、必要に応じて実施するのみ。
  - PGM メソッドに関する知識は、プロジェクトワークショップで学んだが、それほど覚えていない。①はフェーズ1に参加していたが、最後がモニタリング評価だった記憶があると言っている程度。
  - (GMAP について) GMAP は、JICA と UNDP の支援により、昨年改訂。
- プロジェクトでの役割や関わり方について
  - コンボンチャムでのパイロットプロジェクトについてのミーティングにいろいろ関わった。活動のプライオリティ付けを通じた選択や、対象村の選択、全体計画の作成、個々の省/局の活動計画の作成など。
  - 参加したミーティングなどは、多くて数えられないほど。出られる時は全メンバー (3 人) で出席している。
  - 農村開発省/局が参加しているのは、養鶏プロジェクト。農村開発省/局の役割は、マイクロクレジットの実施と、家計などの計画作成についての技術的支援。
  - コンボンチャムのサイトへも頻繁に訪問している。視察だけで 5 回以上。養鶏のための箱の準備から見えてきている。ミーティングなどを合わせるともっと訪問している。
  - 最近も、2012 年 12 月に一度、今年の 1 月に一度訪問した。12 月の訪問では、職業訓練・商業・農村開発・女性のそれぞれの省と局の関係者および、PPCC の議長、60 名ほどの参加農家が出席し、連携省庁からの、家計や経理、ビジネスなどの計画に関する研修が実施された。
- パイロットプロジェクトについて
  - (ジェンダー視点からの利点は?) 女性農家にとっても良いプロジェクトだ。プロジェクトでは、農家に技術研修を実施しているが、参加者たちは、養鶏の手法などを変化させてきている。それにより、女性たちが自信を持つようになってきている。妻と夫と一緒にジェンダーについての研修を受けることで、夫婦が態度を変化させている。妻はより責任を持って従事するようになりオーナーシップを確立している。
  - (他のプロジェクトとの違いは何か?) 参加女性たちの、理解度が高い。PGM プロジェクトでは、積極的に農家と接していることや、活動計画が良くできているために、それに沿って連携局は実施をすればよい。



- (連携実施マネージメント手法をどう思うか?) 多くの連携省庁/局が、関係者間で情報や問題を共有し、議論しフィードバックすることで、より多くの利益を上げることができている。
- フェーズ1のパイロットプロジェクトでは、農村開発局は、あまりよくモニタリングを実施していなかったが、フェーズ2では、きちんと対象者と密に接して、モニタリングを行っている。
- プロジェクトの経験の活用方法
  - 農村開発省では GMAG が (ジェンダーの認識、CEDAW の説明、クレジット分野に関して) ワークショップを担当している。年5回、様々な州の関係者を対象に実施。(2013年もすでに5カ所での計画がある)
  - このワークショップにおいて、特にクレジットに関して行う際に、PGM2 での経験を共有している。
  - 州レベルの事業の計画時において、指標の設定や、計画自体の作成において活用できる。
  - (他の州で実際に、PGM の経験を模倣した例などはないか?) 他州は、コンポンチャムとはレベルも異なるため、関係者が重要性を理解してきてはいるものの、実施はされていない。
- プロジェクト目標達成の見込みについて
  - (PGM2 の目的は何か?) 女性の経済的エンパワーメント。連携6省庁が、プロジェクトを成功させ、実施経験を獲得するとともにモデルを確立すること。
  - (プロ目の内容の確認後、PGM2 の手法や実施経験を活かして、他の州で事業実施をする可能性について質問。) PGM2 はとても良いと思う。しかし、予算と時間の制約により、実施していることをすべて、自分達でも実施できるわけではない。そのために、自分達は、PGM の事例をミーティングなどで紹介し、議論を促進することしかできない。
  - (予算以外どのような活動や支援があれば、実施は可能か?) たとえば、PGM2 のアプローチをまとめたテキストを受益者に直接配布することとかは可能だ。しかし、テキストを読むだけでは十分に理解出来ないため、直接に技術支援をするためには、交通手段などが必要になり、結局予算の制約に直面する。
  - 現在 ADB の支援により、Clean Water プロジェクトが実施されている。衛生や健康に関連した取り組みが行われており、健康と経済的エンパワーメントは関連するので、そこでワークショップなどで紹介をさせてもらうことが出来たら、実施に結び付くかもしれない。現在のフェーズはもうすぐ終了するが、次があるようなのでその際に出来れば、ちょうど良いターゲットになりうる。
- コメントなど
  - 中央レベルの関係者としては、財政的な問題があるため、JICA に支援をしてもらう必要がある。省と地方局と双方に対して、省では課題の抽出など、州局は具体的な活動実施のための予算に適用したい。
  - さらに、他の地域(国内外)へのスタディツアーを実施してほしい。それにより、他のプロジェクトや地域の経験をもっと学びたい。
  - 物質的支援(コンピューターの購入など)もしてもらえると助かる。

以上

日 時	2013年 1月 29日(水) 8:30~10:00
場 所	コンボンチャム州農業局 (PDA) 局長室
訪問機関名	コンボンチャム州連携局 (農業局、PDA) のPPCCメンバー
面談者	Mr. Chheng Nareth (Deputy Director, PDA)
出席者	調査団：本間 (記録)、プロジェクト：Soriya、通訳：Thyda (JICA 事務所職員)

- 面談者について
  - フェーズ1から関わっている
  - 農業局は、養鶏パイロットプロジェクトに従事。
- プロジェクトでの役割や関わり方について
  - 農業局は、6局の連携局の中で、農業プロジェクトのチーフファシリテーターとしての役割を担っている。パイロットプロジェクトの手法は、政府の政策にも沿っており、女性たちは農業を通じて収入を向上しており、良い。
  - (ダイレクター自身) PPCCにはほぼ休まず参加している。PPCCでは、毎月の活動報告を行い、活動内容のレビューをしたり、参加者間で意見交換など行っている。時にはスライドを使ったプレゼンも行う。大きなことでは、自分がPPCCで要請したこともあって、農業分野の日本人専門家が配属された。PPCCの参加以外には、PDAが実施する研修の前に、研修トレーナーやファシリテーターとの打ち合わせを行っている。また、自分はモニタリングを担当している。
  - 農業局からは、州レベルが3名、ディストリクトレベルから3名が、研修やフィールド活動に従事している。
- 連携実施マネジメント手法について
  - フェーズ1では、複数種類の農業 (稲作、野菜栽培、養鶏、養豚など) について、Farmer Field Schoolを開催する形で研修を実施していた。フェーズ2では、他の連携局と連携して、一つの農業技術 (養鶏) に関する活動を実施。それぞれの政策と目的が関連しており、フェーズ1より良い手法だと思っている。
  - (長所)
    - ◇ 活動がスムーズ。MOWAとPDWAがマネジメントの中心となっており、コミュニケーションも良い。
    - ◇ 各州連携局が、それぞれの技術を教える点が良い。農業局が養鶏技術、商業局がマーケット情報や仲買人との関係性の構築支援、労働職業訓練局が帳簿研修、農村開発局がマイクロクレジット組織の探し方やクレジットの活用方法など。女性局は役割が大きく、ファシリテーターとして、連携局間や、局とフィールドの橋渡しの役割。ジェンダーの意識向上や、家族の中での経営の方法なども担当。計画局は、ファシリテーターとレポートのとりまとめなどを担当。
    - ◇ 明確な計画と、スムーズな予算配分。
    - ◇ 研修に他の局や省の関係者も参加し、フィードバックをし合うことで、内容が改善されてきている。研修前に、ディストリクトやコミュニンの関係者、村のローカルオーソリティなどと話し合いをし、さらに対象村の状況分析も実施を通じて、それぞれの状況に沿った活動を、実施できている。
    - ◇ (対象者) 簡単で適切な技術が紹介されているため、受け入れやすい。物は提供せず、技術の紹介のみをしているため、自分で理解して習得した技術を実際に実践することで、収入に繋がっている。さらに、技術だけなので、良かったら他の人も模倣を通じて普及するというインパクトもみられている。

- (短所)
  - ◇ (運営) 各局が責任を持って行うことになっているが、局によっては、忙しい関係者もいるため、責任感が弱い。PDA では、ダイレクターである自分もフィールド活動に関わっているが、そうではない局もある。
  - ◇ (参加農家) 活動や研修が多い分、農民は多くの時間をとられている。彼らは非常に忙しいため、様々な局からの研修は重要ではあるけども、その点は、再考して研修数などは減らすべき。
  - ◇ (ジェンダー視点から) 前は男女半々の参加だったが、今は女性の方がずっと多い。この点は議論される必要があるのではないかな。
- プロジェクトのインパクトについて
  - (ダイレクター自身の能力向上) 大きい。仲買人と農家とのコミュニケーションの方法、マーケティングにおける4P、帳簿つけなどの技術を習得。それにより、農家のビジネスの側面にも目を向けた支援が可能になった。
  - (局のスタッフの能力向上) 多くを得ている。農民とのコミュニケーション方法、活動への参加の促進方法などを習得。通常の業務においても、計画→実施→モニタリングといったプロセスを、実践を通じて学んだことで、効果的に行えるようになっている。
  - (参加農家) 多くの研修を受講。実際に参加農家の収入が向上している。
  - (他の地域への波及) 非参加農家への、農民間の自主的な普及がみられる。自分も、他のプロジェクトやNGOなどの組織に、プロジェクトの内容を紹介しており、多くの視察を受け入れている。
  - (ジェンダー視点から) 予想以上に、女性たちは養鶏に関するすべての技術を理解するとともに、経営の能力も獲得している。夫婦で協力し、分担しながら(ケージを夫が作る等)経営を行っている。それにより、夫婦間のDVや、夫が勝手に収入をアルコールの購入に使うといったケースが減っている。夫の態度の変化には、ジェンダー研修の影響がみられる。
- 中央レベルの関係者との関わり
  - 密接な関係性である。対象者の選定から、多くのミーティングや活動に招待している。
  - 活動の内容は報告され、大臣まで読まれている。大臣も PGM2 の活動に満足していると聞いている。
- 今後の事業実施の可能性について
  - PGM2 で紹介された新しい技術(農民の参加促進方法、ワクチンの活用、ケージの活用、エサの作成方法など)については、すでに適用を開始している。
  - 連携マネジメント手法を取り入れることは、簡単ではないだろう。真ん中でファシリテーションをする人が必要であり、現在プロジェクトが行っているような調整の役割をする人はない。
  - 重要なことは、PGM2 を通じて、関係者が協力して業務を行う経験を得たことである。今後は必要に応じて、州連携局の間で、お互いを研修に招待しあうなどして、協力し合うことが出来る。
- コメントなど
  - PGM メソッドは非常に重要である。今でも、計画策定などの日常業務に活用している。また、大学での講師もしているため、そこで学生に紹介している。もっと多くの人が、PGM メソッドを理解したらすごく良いと思う。
  - プロジェクトに、手法や経験を与えてもらい、感謝している。

以上

日時	2013年 1月 29日(水) 14:00~15:10
場所	コンボンチャム州商業局 (PDOC) 局長室
訪問機関名	コンボンチャム州連携局 (商業局、PDOC) PPCC メンバー
面談者	Mr. Seang Peng Sreang (Director, PDOC)
出席者	調査団：本間 (記録)、プロジェクト：Soriya、通訳：Thyda (JICA 事務所職員)

- 面談者について
  - 第一フェーズから関わっている。
  - 商業局は、養鶏と農産加工の両方のプロジェクトに従事。
- プロジェクトでの役割や関わり方について
  - 活動計画の策定。PGM2 の目的は、女性の経済的エンパワーメントだと共通理解し、女性が力を付けるためには、お金が必要であるとして、「女性が収入を向上させる」ことに関する活動を、活動内容とした。主な活動は、養鶏と農産加工の二つ。
  - 商業局は、二つのパイロットプロジェクトの実施に関わっている。非常に多くの活動があったが、主なものは、マーケット情報の収集、品質および衛生改善・パッケージに関する研修、仲買人と農家との関係性の構築 (ビジネスパートナーシップ) の促進、マーケットテスト (マーケットで販売テストをし、品質やディスプレイを試す)、一村一品のトレードフェアへの参加、活動全てのモニタリングなど。
  - 商業局では、一人のフルタイムスタッフと3名のトレーナーが関わっている。これは他の局よりも多いと思う。
- 連携実施マネージメント手法について
  - 商業局は、主にマーケット情報などに関する分野を担当。女性局と JICA (プロジェクト) が、コーディネーションを担当。一つの活動に、複数の局が関わる形態で、それぞれの担当分野を行う。
  - (長所)
    - ◇ (参加農家) 一つのグループに、複数の種類のサービスが与えられる。利益は大きいだろう。
    - ◇ (運営側) 各局が責任を持って、うまく運営を行う。
  - (短所)
    - ◇ (運営側) 自局の担当ではない活動に関しても、参加をしなければならない。これは、個人的には短所だと思う。関係ない局の人は、アシスタントのようだし、必要ないと思う。自局にも、業務が多く忙しいため、自分は参加したくない。減らせるならば、減らしてほしい。時間とお金の無駄。
    - ◇ (自局のスタッフ) 商業局から参加しているスタッフも、遅くまで活動に参加しなくてはならず、特に商業局は、二つの活動に関わっているため、分かれて参加したりして忙しい。
    - ◇ (参加農家) 同じターゲットに対して、多くのサービスが与えられることは、(受けられない人に) 不公平になる。また、参加農家数が減少してきていることからあまり有効でないことが示されている。研修に参加しても、実施のための資金 (養鶏のケージや、農産加工の材料) 提供をプロジェクトが行っていないため。また、研修が多すぎて、農民たちは、忙しくて時間が無いから迷惑になっている。
- プロジェクトのインパクト
  - (スタッフの能力強化) 商業局のスタッフは、学歴も高く、すでに研修を受けてきており、十分能力があるため、能力強化の必要はない。そのために、局の活動計画にも、能力強化

は含んでいない。PGM2 で実施している研修は、すでに自分達が有している研修レベルよりも下であるため、何のキャパビルにもならない。(事業実施の参加を通じては、能力強化はされていないか?) その点は、確かに能力強化につながっている。

- (局にとって) 実際のサービスを実施する機会を、PGM2 は与えてくれている。
- (参加農家) 多くの参加者が、家族の支援を受けながら、ビジネスを始めることが出来ている
- 中央レベルの関係者との関わり
  - 研修には常に参加をしてきている。JCC などもあるため、活動をフォローしていく必要があるから。
  - 研修時などに、参加者にはアドバイスなどをしたりしているようだが、局の自分達には特にアドバイスや支援は無い。もともと、自分でやってみないと (やってない省の人たちは) 意見は言えないだろう。
- コメントなど
  - これまでの活動を通じた教訓は、適切な対象者の選定を行うこと。資金の無い農民を研修対象にしても、実施に繋がらない。
  - (PPCC で課題は検討したか?) 無駄な活動が行われていることについて、プロジェクトのコストについては、自分が言及することではない。他局の研修への参加を減らすという問題については、議論はした。

以上

日 時	2013年 1月 29日(水) 15:30~17:00
場 所	コンボンチャム州計画局 (PDOP) の会議室
訪問機関名	コンボンチャム州連携局 (計画局、PDOP) のPPCCメンバー、フルタイムスタッフ
面談者	① Mr. Cheam Ran (Director, PDOP) ② Mr. Ek Van Phann Nara (Chief Office of Monitoring and Evaluation, PDOP)
出席者	調査団：本間 (記録)、プロジェクト：Soriya、通訳：Thyda (JICA 事務所職員)

- 面談者について
  - ①は、フェーズ1から関わっている。フェーズ2でもPPCCメンバーになっているが、他の業務が忙しく、殆どPGM2には関わっておらず、フルタイムスタッフである②に任せている。
- プロジェクトにおける役割や関わり方
  - すべての活動をファシリテートする役割。
  - 活動のモニタリングを担当。各研修の終了時には、参加者数や理解度などの分析。
  - PPCCでの各局からのレポートのとりまとめも行っている。
- プロジェクトのインパクト
  - スタッフの能力強化
    - ◇ もちろん強化されている。具体的には、評価を行ったことが無かったが、PGM2を通じて手法を学んだ。養鶏などの手法も学んだ。
    - ◇ (ジェンダーは?) 理解している。しかし、PGMメソッドに関する研修は受講したことが無い。ジェンダーは、女性局による二日間の研修に参加して、夫婦で協力して活動や問題を解決することが重要だと知った。
  - 参加農家
    - ◇ マーケット調査を行い、鶏の適切な価格を知ったことで、仲買人に買いたたかれることなく、販売が可能になっている。また、利益の多い販売時期を選んで、販売が可能になっている。
    - ◇ 帳簿の重要性を認識するようになった。それにより、養鶏のコストや利益を計算して経営出来ている。
  - ジェンダー視点から
    - ◇ 夫が妻の収入獲得のための活動を理解し、支援するようになってきている。
    - ◇ 養鶏では、参加者の収入が上がっている。さらに、子供の病気などの緊急時に、以前は夫の許可を得たりしないといけなかったが、今では養鶏の収入を充てられる。家族のニーズにも対応できている。
- 連携実施マネージメント手法について
  - 連携各局が相互に協力して実施を行っており、他の局の活動にも参加して、実施している。
  - (長所) 上記のようなアプローチになっている点。
  - (弱点) 特に大きな問題はない。
- 今後、州連携局が活動を実施するために、予算を獲得する可能性について (予算源の可能性を①に聞く)
  - 中央レベル。基本的にはこれしかないだろう。
    - ◇ 政府の研修予算を、各省庁が獲得する
    - ◇ 女性省が中心となって、予算を獲得する
  - その他の可能性は

- ◇ 現在、UNICEFの資金により Three Year Rolling Plan がコンボンチャムで実施されている。CWCC 経由で、ミーティングなどのために、ディストリクトレベルのフォーカルポイントに予算が配分されている。この費用にどうにかアクセスする。PILACプロジェクトに聞いてみるとよい。
  - ◇ 州レベルでは、ジェンダー関連の予算を申請しても、それを取り上げる人がいない状態である。自身もコミュニケーションレベルの計画策定のための活動資金を申請しているが、それすら採用されていないので、ジェンダーはもっと難しいだろう。
  - ◇ UNDP によるセイラプロジェクトがあったころは、州レベルへの予算が配分されていたが、現在はない。
- コメントなど (①が回答)
    - 現在でも、自分はPGMプロジェクトをAdmireしている。女性農家が役割を理解し、収入を得る可能性を直接与えている。そうした女性たちの役割は、以前は理解されていなかったものだ。世帯収入が上がることで、実際に、DVの減少や子供の教育の促進といったインパクトが、みられている。
    - プロジェクトは、ジェンダー主流化について、「経済分野」と「社会分野」にわけて、セミナーを行うとよいのではないか。経済分野については、連携局の関係者に発表などを行ってもらおうとよい。社会分野は、ディストリクトレベルのフォーカルポイントや参加者を招待して、発表をしてもらおうとよいのではないか。自分も必要があれば、開始と終了の挨拶はする。

以上

日時	2013年 1月 29日(水) 10:40~12:15
場所	コンボンチャム州女性局 (PDWA) 局長室
訪問機関名	プロジェクトカウンターパート (コンボンチャム州女性局、PDWA)
面談者	Ms. Leng Sokha (Director, PDWA)
出席者	調査団：本間 (記録)、通訳：Thyda (JICA 事務所職員)

- 面談者について
  - フェーズ1の頃は副局長として、関わっていた。
  - フェーズ2は、最初から関わっているが、2011年8月から2012年9月までの1年間は、研修で不在。
  - 2012年に本邦研修に参加。研修内容は、農産加工の製品の生産状況や、加工品の販売において観光分野への参入している視察。印象に残っている研修内容は、5S。現在の活動でも活用している。
  - コンボンチャム州の女性局は、PGM2の他に、UNICEFによる3年のThree Year Rolling Planの活動や、DVに関するNGOなどの活動も、実施している。
- プロジェクトでの役割や関わり方について
  - PPCCのメンバーとして、連携5局の活動の、モニタリングやファシリテーションに関わっている。また、ジェンダー分野に関しては、すべての活動に関わっている。
  - すべての活動が上手くいくように、日本人専門家と協力している。また、プロジェクトの結果が、きちんと女性の経済的エンパワーメントにつながるように、毎月のミーティングを通じてモニターしている。
  - 具体的には、パイロットプロジェクトサイトを訪問し、活動の参加者の男女の数の確認や、研修後の評価に基づいて、連携局の関係者やローカルオーソリティに対して改善に向けたアドバイスをを行う。ジェンダー主流化に関しては、対象者がジェンダーの概念を理解するよう、定義や男女の関係性などについて理解を促進する。
  - これらの活動は、女性省との協力により実施。
  - PWDAのスタッフ数は63名(17名が州レベル、それ以外がディストリクトレベル)。うち10人くらいが、PGM2の業務に関わっている。フルタイムは1名で、それ以外はトレーナーなど。
- プロジェクトのインパクト
  - (ダイレクター自身) フェーズ1から2にかけて、能力が強化されたと思う。PGM2では、セミナーやミーティングのファシリテーションや、モニタリングのデザインや質問票の作成、指標の設定方法について、学んだ。
  - (スタッフ)
    - ◇ 実際に(パイロットプロジェクト)活動に参加することで、プロジェクト活動を実施する経験や、問題が生じた際に議論をして解決に結び付けるという方法を学んでいる。
    - ◇ 良いファシリテーターになってきている。ミーティングやセミナー、ジェンダー研修の実施方法や、他局の研修を通じた技術的な知識を得ている。
    - ◇ 調査の計画、インタビューの実施、結果を分析する方法を習得している。
    - ◇ これらの能力は、プロジェクト以外の業務にも適用している。
- 連携実施マネジメント手法について
  - 連携局が、それぞれのセクターの役割において関わっている。そして、すべての活動がジェンダー視点から行われている。



- (長所)
  - ◇ (運営側) 中央レベルからディストリクトレベルまでの、クリアなマネージメント構造が出来上がっている。さらに、PPCC を通じて、連携局が、州副知事のリーダーシップのもとに集まって、活動が上手くいくように協力している。PPCC の月例会議を通じて、問題や課題を解決できる。また、中央レベルからのアドバイスやコメントを受けたり、相談をすることが出来る。実際に、(パイロットプロジェクトの) 活動に従事する際にも、明確な月間計画が作成されているため、何をすればよいのか、はっきりしている。
  - ◇ (参加農家) ジェンダーだけでなく、特定の技術を理解し、その中での男女の役割や、協調して経営する方法を学んでいる。そのために、村長などの地域の関係者も、活動的に関わっている。
- (短所)
  - ◇ (運営側) 州のスタッフは給料が少ないため、副業をしている人も多い。業務が忙しくなる中で、副業時間が無いのに、副業に見合うほどの収入が無い。関わる人によって、収入が異なる。マネージメントレベルは、忙しいため、あまりミーティングや活動に参加出来ない局長がいる。
  - ◇ (参加農家) 研修参加者の中には、研修で習得した技術を適用しない人がある。研修の中には、参加者の期待が低いものがある。そのためか、研修参加者が少ない研修もある。参加者たちは実際に忙しく、出稼ぎなどで家を離れる必要がある人もいる。(プロジェクトは研修のみで、各農家の事業資金を提供していないが) プロジェクトから資金を貰えることを期待し、待っている農家もあるようだ。
- プロジェクト目標の達成の見込みについて
  - (プロ目は何か?) 連携省庁の能力強化の促進。参加農家の知識の強化を通じた、世帯内の協調の促進や女性の状況の改善。
  - (プロ目の文言の確認後。目標達成の見込みについて質問)
    - ◇ 予算が確保できて、さらにPPCC の議長がリードしてくれれば、活動の実施は可能だと思う。しかし、予算の確保は難しいと思う。ドナーによる予算は、中央レベルで配分されている。ジェンダーについても、中央のGMAG が予算を持っている。各連携省庁や、それぞれ活動計画を策定しており、それに沿って活動予算が配分されている。女性局の予算は、通常業務予算のみで、事業予算は無い。意思決定レベル(上層部) が支援してくれたら、予算の申請は可能かもしれないが。
    - ◇ 女性省が、女性の経済的エンパワーメントの事業予算を配分してくれたら、可能になる。直接州局に予算をつけてくれるとよい。
    - ◇ 連携省庁には、ジェンダーモニタリングのための予算が配分されているため、それを活用すればよい。
- コメントなど
  - PGM2 は、女性の経済的エンパワーメントの分野において、直接的に女性たちに支援を行っているため、非常に良いと思う。
  - しかし、フェーズ 1 に関わっておらず、PGM2 から新しく関わっている関係者も多い。また、フェーズ 1 の時に学んだことを、忘れてしまっている人もいる。そのため、JICA と女性省に、①PGM 手法の 9 ステップについてのマネージメントレベルの関係者へのリフレッシュメント研修の実施と、②スタディツアー(日本か国内の他の地域)を実施してほしい。
  - 州女性局には、車などの設備に問題があるため、資金援助をしてほしい。

以上

日時	2013年 1月 31日(木) 12:30~13:45
場所	コンボンチャム州女性局内 PGM2 パイロットプロジェクト事務所
訪問機関名	女性省 (MOWA) プロジェクトカウンターパート
面談者	Ms. Neth Sreya (Chief Office of Planning and Statistics Dept, MOWA)
出席者	調査団：本間 (記録)、通訳：Thyda (JICA 事務所職員)

- 面談者について
  - 1994年から女性省で勤務。計画統計局の計画課の方に配属。フェーズ1では関わりがなかった。補助として一か月ほど、DV関連のプロジェクトに関わった以外は、ドナー関連のプロジェクトは経験が無く、今回が初めて。
  - ルーティンは、Three Year Investment Plan 関連の業務、局の活動計画の策定、総務関連の報告書の作成などを担当。
  - 2012年の本邦研修に参加。DVに関連した内容を習得。PCM手法が、自分の業務と関連していて一番印象に残っている。
  - PGMメソッドについては、他の地域を対象にした研修に関わったのみで、自身は研修を受けたことはない。
- プロジェクトでの役割や関わり方について
  - 主に農産加工のプロジェクトと、対象者のファシリテーションを担当している。
  - これまでに関わった活動は、JCCやカウンターパートミーティングなどへの参加、対象者(農家)へのプロジェクト活動に関する理解の促進、(他局の)研修を視察し、ミーティングでコメント、省への活動報告の作成、大根の漬物の作成技術について、トレーナーを雇用、調査業務(マーケット調査、ベースライン調査など)等。
- パイロットプロジェクトについて
  - 農産加工プロジェクトを担当しているが、対象者の選定を誤ったのだと思う。最初は多くの人が興味を持って参加したが、今は参加者も減りモチベーションも下がっている。
  - 研修受講者は、研修で習得した技術を、実際に適用しないという問題がある。
- プロジェクトを通じた能力強化
  - プロジェクトへの参加を通じて、自分は能力強化していると思う。たとえば、他のセクターへのジェンダー視点の主流化の方法を学んだ。これまでは、具体的なジェンダー視点に立った活動の方法をよくわかっていなかった。他には、他のセクターの技術や活動内容の理解や、調査などを通じた農村地域の人たちとの業務方法(接し方)の習得や、活動を通じた関係性の構築など。
  - コンボンチャムに多くのプロジェクトスタッフが集まっており、プノンペンに人がいない。そのため、自分の業務が忙しいと、コンボンチャムに活動に来ることが出来ない。しかし、お金が重要なため、給料が足りなくてお金が必要になるとコンボンチャムに活動に来る。
  - (経験を、MOWAの業務にどのように活用できると思うか?) 知識が増えたことで、部署の業務をより効果的に行うことが出来る。統計に関連した業務は、統計のブックレットの作成など、特に効果的である。
- 連携実施マネジメント手法について
  - (利点) すごく良い。女性局だけでなく、複数の連携局が関わることで、業務がスムーズになっている。関係者間のコミュニケーションもスムーズである。
  - (弱点) 難しいのは、農産可能プロジェクトの実施のみ。(マネジメント方法に問題は無い。)
- プロジェクト目標の達成の見込み

- (プロ目は何だと理解しているか?) 女性の経済的エンパワーメント
- (プロ目を確認後、パイロットプロジェクトの経験を、どのように活用できるか質問) ワークショップを準備し、ジェンダーフォーカルポイントや、村のローカルオーソリティに研修を行うとよい。
- コメントなど
  - 農産加工プロジェクトは、それほど成功していないので、ターゲット地域を変えて、開始したい。
  - フェーズ1では、カウンターパートの給与補填が行われていた。フェーズ2でも行うよう、考え直してほしい。

以上

日時	2013年 1月 31日(木) 14:00~15:10
場所	コンボンチャム州鉱工業エネルギー局 (PDIME) 局長室
訪問機関名	コンボンチャム州連携局 (鉱工業エネルギー局、PDIME) のPPCCメンバー
面談者	Mr. Suon Dy (Director、PDIME)
出席者	調査団：本間 (記録)、プロジェクト：Soriya、通訳：Thyda (JICA 事務所職員)

- 面談者について
  - フェーズ1から関わっている
  - PDIMEは、農産加工プロジェクトに従事
  - 局のジェンダーフォーカルポイント。最近フォーカルポイントとして最近行ったことは、新規の契約職員に女性をリクエストした。しかし女性のリソースが少ないので結果はわからない。前に、企業に女性の業務環境を改善したり、女性の雇用を促進するように促したことがある。
- プロジェクトでの役割と関わり方
  - 5Sと衛生に関する研修を担当。
  - フェーズ1と2の、鉱工業エネルギー局の活動の違いは、(パイロットプロジェクトの研修内容の違いのみ。フェーズ2の方が、対象者の状況を分析して、すでに親の世代から学んだ伝統的な技術を有する人を、対象者として選定して、新しい技術や知識を与えるという形態になっている。自分はすごく良いと思っている。
  - 農産加工プロジェクトは、養鶏とは事業の特徴が異なる。マーケットのデマンドが多い食品などと異なり、競争も激しく、外国や他州から入ってくる商品も多い。そのため、参加農家の中には、販売先を見つけるのに苦労している人もいる。研修の質は高くても、こうした研修のために利益に結び付くのが難しい状況もみられるが、今後の努力で、状況は改善していくと思っている。
- 連携実施マネジメント手法について
  - 個人的にはそれほど難しいと思っていない。連携局の局長が参加し、州副知事がリーダーとしてPPCCをファシリテートしてくれているし、各局がそれぞれの専門分野において役割があるから。相互理解出来ている。
  - (長所) 個々の局では、対象社会(コミュニティ)との関係性を持つことは難しい。しかし、この手法を通じて、ローカルオーソリティと関係を持ち、そこを通じて対象地域の人たちとの接点を持つことが出来るため、局側はそれぞれの技術を提供すればよいだけになっている。各局が責任と義務を全うすれば実施可能。
  - (短所) どんなマネジメントにも短所はあるが、実施にはそれほど影響はない。フルタイムスタッフもいるため、それぞれの責務の中で、問題は解決していくものだ。(連携局長の中には、時間がとられる点を短所と考えている人もいるが?) 月に一度のミーティングの参加は、それほど負担ではない。
  - (参加農家) 研修参加者たちは、研修で習得した技術を、実際の作業にすべて適用しようとしないう問題がある。そんなに難しいものではなくても、そうした傾向はみられる。
- プロジェクトのインパクト
  - (スタッフの能力強化) スタッフは、絶対に能力は強化している。フェーズ1では、研修は中央のスタッフに依頼していたが、フェーズ2では、フルタイムスタッフが自分で研修を実施できるようになっている。新しいスタッフも多いため、活動に関わることで、良い実務経験になっている。
  - (ダイレクター自身の能力強化) フェーズ1では、間接的だったが、フェーズ2では直接

対象農家と関わることで、フィールドワークを通じて、活動の進捗や、対象者たちのニーズを知ることが出来ている。実際に、局として、対象村の状況を改善することが出来ていること（そうしたサービスを提供できていること）は大きい。

- （参加農家）実際に研修後に、5Sや衛生の研修のために、生産場所が整理整頓された事例を視察した。さらに、経営についての知識が増えたことで、材料などをうまく購入したり、製品を清潔にストックしておいて価格の高い時期に販売する事例がみられている。商業局の帳簿の研修により、コストや利益の管理もうまくなっている。
  - （ジェンダー視点から）参加者の多くが女性であり、研修参加を通じて、積極的に意見を言うようになっている。
  - （鉱工業エネルギー局にとってのメリットは？）実際に事業を実施する機会を得ている。自分達の担当分野である「企業、工業、手工芸」という3分野において、マーケットに質の高い商品を生産するための技術提供をすることを、実際のフィールド活動を通じて実施出来ていることは、局の責務を全うすることであり、局の業務の達成に繋がっている。これまで局は、実施を怠ってきたわけではないが、予算が無いために実施することが出来ていなかったが、PGM2が、自分達のセクターを発展させてくれた。
- 今後の事業実施の可能性について
    - 連携マネジメントの方法で実施したいと思う。リソースを集約し、知恵を出し合うことで、より良い事業を実施可能になるため。
    - （予算の準備は可能か？）難しいだろう。そのために、PGM2に継続してほしいと思っている。2015年にASEANに加盟するため、それまでに生産する製品の品質を高めることは、政府政策にもなっている。そのためにも、必要な技術の提供を行っていきたい。

以上

日時	2013年 1月 31日(木) 8:10~9:40
場所	コンボンチャム州女性局内 PGM2 パイロットプロジェクト事務所
訪問機関名	コンボンチャム州連携局（農村開発局、PDRD）のフルタイムスタッフ
面談者	Ms. Pan Phallin (Chief Office of Administrative and General Affairs, PDRD)
出席者	調査団：本間（記録）、プロジェクト：Soriya、通訳：Thyda（JICA 事務所職員）

- 面談者について
  - ディレクターが時間をとれないということで、フルタイムスタッフと面談。
  - フェーズ1から関わっている。
  - 農村開発局からは、PPCC メンバーでもあるディレクターが本邦研修に参加している。PPCC ミーティングで研修内容について発表があったようだが、局内では、特に研修内容の共有は無い由。
  - 農村開発局は、養鶏と農産加工の両方のプロジェクトに従事。
- PPCC ミーティングについて
  - 各局のディレクターとフルタイムスタッフが、参加することになっている。自分は、可能な限りすべて参加している。主に、毎月の活動報告と、課題が生じた際の解決方法に関する議論を行っている。
  - (利点) 毎月活動内容を報告するので、問題が生じた際には、すぐに相談して解決方法を探ることができる。また、他局の活動を知らなかったが、ミーティングを通じて知ることが出来た。
  - (課題) 特にないが、関係局が多いため、日時の調整には時間がかかっている。
- プロジェクトでの役割や関わり方
  - それぞれの局が、自分の担当セクターについて関わっている。農村開発局は、クレジット分野。
  - 研修では、クレジットの有効な活用方法および、複数のクレジット組織の中から適切な組織を選定して借りる方法について、情報提供している。
  - 韓国の組織 (KREI) からの資金を得て、対象村の中から2村のみ、クレジットの供与も行っている。
  - 各組織の利率や条件などについての情報収集が計画されているが、未実施。
  - これらの活動は、農業（養鶏）と農産加工の両方のプロジェクトで実施することになっているが、農産加工プロジェクトは、参加者たちがトレードフェアの準備で忙しかったために、全く未実施。
- プロジェクトのインパクト
  - スタッフの能力強化
    - ◇ (最初無言だった。) 測るのは難しい。養鶏の手法について学んだ。
    - ◇ 業務に関することでは、計画やレポート、コミュニケーションの方法を習得。
  - 参加農家（養鶏）
    - ◇ インパクトは、毎月の、PDOP と一緒に実施するモニタリング調査で抽出。
    - ◇ クレジットを受け取った二村のうち、一つでは養鶏が拡大し成功しているが、もう一つではあまり根付かず村民が出稼ぎに行ってしまう。
    - ◇ クレジットを受けとっていない村では、親戚など無利子で資金を借りる可能性を探して、小規模から養鶏を始め、拡大するケースが増えている。
    - ◇ もともとセービンググループがあった村では、そこから資金を借りて、養鶏を始められている。

- ジェンダー視点から
  - ◇ 対象者の中で、以前は女性がローンを受けて男性が使用し女性が返済することが多かったが、研修後は、ローンを夫婦一緒に活用し、両者が返済に責任を持つようになってきている。ローンの活用先も、以前は夫が飲み代に使ってしまったりしていたが、今では適切な活用がなされるようになってきている。
  - ◇ 以前DVがあった夫婦が、ジェンダーを理解して、肉体的な暴力が減り、言葉の暴力（口論）のみになったという話を、自分は直接対象者から聞いた。
  - ◇ 養鶏の経営においても、夫婦が協力しあっており、販売時にも、夫婦で相談して決定がされているというケースがあった。
- その他のインパクト
  - ◇ フルタイムスタッフとしては、日当などを通じて収入が増えている。しかし、拘束時間に見合うほどではなく、いつも忙しい思いをしている。
- 連携実施マネージメント手法について
  - フェーズ1と2の違いは、マネージメント方法。フェーズ1は、別々に各局が実施していた。
  - (利点)
    - ◇ (参加農家) 連携での実施の方が良い。たとえば、一つの対象村の村民たちが、PDRDによるクレジットの研修の他に、PDOCからのマーケティングに関するサービスや、LVTのビジネスに関する研修を受けている。連携で実施した方が、対象者が受ける利益は多い。
  - (弱点)
    - ◇ (参加農家) 毎月毎週研修があるため、参加をするのが非常に大変。特に稲作の田植えや収穫時期には、参加が難しい。
    - ◇ (運営側) 各局が別々に実施をする方が、簡単で結果も見えやすかった。実際に、活動を実施する自分達にとっては、連携は難しい。さらに、自局の研修だけでなく、関連する局の研修にもすべて参加しないといけないため、時間をとるのが大変。(他局の研修への参加は必要だと思うか?) 自分も参加しないと、何が行われているかわからなくなるため、自分が担当している以上は必要である。
  - 定期的にディスカッションをしており、時間の調整以外に、コミュニケーションとしては難しいことはない。
- 中央の関係者との関わり
  - 研修実施の際などに、中央の関係者が参加している。
  - 活動内容なども報告しているため、コミュニケーションは良いが、活動についてアドバイスなどはない。
- 今後事業を実施する可能性について
  - もし中央レベルから予算が下りてくるとなれば、州には研修予算は無い。そのために、PGM2をもっと継続してほしい。(忙しいと言っていたが?) それでも活動を行う。手が足りなくなったら、他の人に頼む。
- コメントなど
  - 出来れば、クレジット分野だけでなく、それ以外の保健やコミュニティ開発、クリーンウォーターといった活動や、実際のクレジット資金の供与といった活動も行いたい。

以上

日 時	2013年 1月 31日(木) 9:50~11:20
場 所	コンボンチャム州労働職業訓練局 局長室
訪問機関名	コンボンチャム州連携局 (労働職業訓練局、PDLVT) のPPCCメンバー
面談者	Mr. Cheng Henng (Director, PDLVT)
出席者	調査団：本間 (記録)、プロジェクト：Soriya、通訳：Thyda (JICA 事務所職員)

- 面談者について
  - フェーズ1の最後の部分から関わっている。PGM2は最初から
  - 2011年に1週間の本邦研修 (本人はスタディツアーと言っている) に参加。
    - ◇ 学んだことは、女性支援の手法について参加者間でシェア、マーケットで女性起業家を訪問、日本政府の女性起業家支援方法 (クレジットサポートなど) など。日本人女性の方がカンボジア人女性よりも、勇気があると感じた。
    - ◇ 研修内容は、農家対象の研修時に共有。局内のスタッフには、ミーティングや普段の会話などで共有。PPCCでも共有。PPCCメンバーはフェーズ1から合わせると何度かの本邦研修に参加しているので、それぞれの経験をシェアした。
  - コンボンチャム州のPDVLTでは、少し前までILOによる児童労働に関するプロジェクトを実施していたが、終了しており、今はPGM2のみ。
  - 養鶏と農産加工の両方のプロジェクトに従事。
- プロジェクトでの役割や関わり方
  - PGM2では、女性の経済的エンパワーメントのための活動を行っている。
  - 労働職業訓練局は、帳簿のつけ方と、農産加工の技術の研修を担当。他局はそれぞれの技術研修を担当している。農業プロジェクトと農産加工プロジェクトの両方に関わっているが、帳簿のつけ方は共通している。
- プロジェクトのそれ以外での研修のアプローチの違い
  - 通常の研修では、LVTは省から直接予算を受け取り、本部が指示した研修内容を実施する。
  - PGM2では、他の局やローカルオーソリティとジョイントで実施。JICAの支援があり対象者たちと密に関わっている。日々スタッフはローカルオーソリティなどと、ターゲット村で、アクティブに働いている。自分はモニタリング結果などにコメント。
  - (通常の) 省の業務がアクティブではないわけではないが、予算の関係で、PGM2ほどは詳細な段階を踏んだ実施は、できていない。たとえば、TOTを実施→マーケット調査→研修内容を決定→研修実施というアプローチや、研修時間は女性の都合に合わせてフレキシブルにする等、女性の参加促進に重点を置く等。
- 連携実施マネージメント手法について
  - (利点)
    - ◇ (運営側) 作業が詳細で、とても忙しいためか、PPCCメンバーは100%の参加率ではない。しかし、実施レベルのスタッフは、それまで知らなかった技術を学ぶことが出来ている。連携して一緒に業務を行うことで、十分なリソースを共有し、共に業務を行っていると感じることが出来る。グループで業務を行うことで、相互に学びがある。
    - ◇ (参加農家) 多くの人がケアしてくれることを、喜んでいる。
  - (弱点)
    - ◇ (運営側) フェーズ1の時は、スタッフへの給与補填があったのに、PGM2では限られた分しか払われていない。そのため、活動の大変さに見合っていないと、自局のスタッフたちが文句を言っている。自分は、通常の給与があるのだからと説明して



はいるが。

- プロジェクトのインパクト
  - (スタッフの能力強化)
    - ◇ トレーニング、研修、スタディツアー、チームワークなどを通じて強化されている。
    - ◇ プロジェクト開始当初は、どのように活動を始めたらいいいのかわからなかったが、今では、サービス内容を効果的にするために活動内容を吟味して選定するなどのアプローチを、他のプロジェクト活動にも活用している。たとえば、マーケットニーズを調査や、活動前に対象者とコミュニケーションを通じて、対象者のニーズや、女性たちがどのような問題に直面しているかを知ってから研修内容を選定すること。マーケットニーズに沿った活動を行わないと意味が無いため、とても重要である。
  - (局としてのプロジェクト参加のメリット) スタッフの能力強化。地域の女性の経済状況の向上や貧困削減のためのキャパビリティに、直接貢献できていること。これは、政府の政策の達成にも貢献している。2015年までにカンボジア女性が、必要なスキルを身に付けるというのが、政策の一つにあるため。
- 今後事業を実施する可能性について
  - (農産加工は新しい) コンボンチャム州だけでなく、近隣の州に対しても、興味のある女性たちに自局の研修に参加してもらうことで、サービスを広げていきたいと考えている。
  - 技術的に、農産加工については、可能な製品が限られている(大根の漬物、生姜、ドーナツなど)ため、もっと増やすために、JICAの支援がまだ必要である
  - 連携マネジメント手法について
    - ◇ 実際のニーズによる。必要な技術の内容に応じて、関係局に依頼する可能性はある。研修実施において、他の一つの局と連携するという形をとる。実施まで連携するという、PGM2で行っているような連携は、難しいだろう。技術的に難しいわけではなく、コミュニケーションとしては可能だが、予算が別々になっており、それぞれの省/局が、活動計画を作成しており、それに沿った活動が行われるため、偶然みんなが一緒に活動することになる(計画内容が合致して)ということでもない限り、PGM2のような形態での実施の可能性は、無いだろう。
    - ◇ 他ドナーのプロジェクトにおいて、そういった手法を採用することがあるかもしれないが、通常他のプロジェクトでは、一つの課題に対して、個々の局がそれぞれの技術に基づいて活動することが多い。
    - ◇ 日本では、PGM2のように、複数局が連携するといったことはあるのか? 皆一緒にというアプローチは、カンボジアでも一時期あったポルポトのコミュニズムレジームを、ちょっと思い出させる。
- 中央の関係者との関わり
  - ワークショップはミーティングなどに参加しており、求められれば意見を言ったりしているが、活動などに関して、アドバイスなどを貰ったりしたことは無い。
- コメントなど
  - リクエストがある。現在パイロットプロジェクトで、農業と農産加工を行っているが、85%が農業プロジェクトの参加で、農産加工は参加者が少ない。2015年までに、女性たちが仕事を得るための技術を身に付けるという上記の目標の達成のためにも、活動を継続してほしい。女性たちの行動変容には時間がかかるが、マーケットも、改善の余地はあると思うので。
  - JICA や日本国民の皆さんの、カンボジアの発展への支援を感謝し、調査の成功を祈ります。

以上

日 時	2013年 2月 5日(木) 9:00~10:00
場 所	女性省
訪問機関名	女性省 (MOWA) 大臣
面談者	H. E. Dr. ING Kantha Phavi Minister (表敬という位置づけ)
出席者	調査団：田中団長、吉田 (記録)、カンボジア事務所：井崎所長、灘本企画調査員、Thyda (ナショナルスタッフ)、プロジェクト：山口リーダー

- パイロットプロジェクトへの印象について
  - 昨年のコンポンチャム州へ行き、パイロットプロジェクトの視察を行った。良い結果がでているという印象を抱いている。参加者のDV、経済、栄養といった環境が改善している。女性が経済力を持つことで家庭内の女性の状況も変わっているといえる。
  - パイロットプロジェクトはとても有益であり、貧困削減といった社会問題にも対応している。
  - この成果を見えるようにし、女性省以外にも広めてほしい。
  - 鶏の価格は下落傾向にある。参加者はパイロットプロジェクトを通じて技術を学んだが、今後はマーケットとの付き合い方 (価格設定がどのように行われているか等) を学ぶ必要がある。また、生製品の保管方法を学ぶことや養鶏以外の業務に着手するなど、鶏の価格下落のリスクをヘッジする必要があると考えている。
  - 農産加工品についてはよりスケールメリットの追求が必要だと考える。個人レベルでの活動では周辺に動物もいるケースもあり衛生状態も悪い。村の近くに加工のための施設を設け、そこに人を集め、スケールアップや衛生状態の改善を目指すことが望まれる。
- 女性省による連携について
  - 女性の経済的エンパワーメントのため、たとえばMRDがマイクロクレジットを、MAFF農業技術を指導するのを女性省がコーディネートしている (大臣はこのように他省と協力することを integrate package と呼んでいた)。これは良いコンセプトであり、本プロジェクトで行っている取り組みを、持続させること、あるいはスケールアップさせることが重要である。
  - パイロットプロジェクトも含め、インパクトの「見える化」をお願いしたい。そしてパイロットプロジェクトのインパクトをより広げたい。
- 地方分権について
  - 地方分権は早くはないものの少しずつ進んでいる。進捗を注視したい。
- TWGG 女性の経済的エンパワーメントのためのサブグループについて
  - 当初は女性の暴力に対処するためのサブグループよりも先に設置される予定だったが遅れている。
  - PBAのワーキンググループの動きがあるが、フレームワークが定まっていない印象がある。PBA ワーキンググループを気にせず早期にTWGG サブグループを作してほしい。
  - サブグループはパイロットプロジェクトの教訓を生かし政策を策定する観点でも重要。大きなグループだと女性の経済的エンパワーメントといった特定分野に焦点を当てた議論ができない。
- その他

- IFAD が MAFF への支援を通じて、女性の小規模事業の立ち上げやハンディクラフトによる収入創出の支援を行っている。

以上

日時	2013年 2月 5日(火) 14:40～15:40
場所	商業省執務室
訪問機関名	連携省庁（商業省、MOC）の関係者
面談者	Ms. Lim Vicheth (Deputy Director of Bilateral Trade Deptment、MOC)
出席者	調査団：本間（記録）、プロジェクト：Dara、通訳：Channa
収集資料	改訂版 GMAP（2012－2016）クメール語版

- 面談者について
  - フェーズ2 から参加
  - 商業省のGMAGからは、フェーズ1から3名が関わっているが、1名がリタイアしたため、フェーズ2からは、自分が関わるようになった。中心的に関わっているのは、Ms. Bun Naratなのだが、今日、親戚の不幸があったため、急遽自分が面談者に選ばれた。自分も、出来るかぎり活動に参加はしている。
- 商業省のGMAGについて
  - メンバーは15名。ミーティングは、必要に応じて行う。GMAP改訂中は頻繁に行っていたが、最近はあまりしていない。PGM2での活動内容を共有するための小規模なミーティングを、たまに行うくらい。
  - 商業省では、GMAPの改定を、UNDP（PGEプロジェクト）の支援により2012年に行った。すでにドラフトが出来ていたの、PGM2の経験が含まれているかどうかは、わからない。
  - GMAPを策定後、予算の獲得が行われる。ジェンダー研修も、GMAPに含まれている。予算獲得は難しいが、州レベルの関係者に、少なくとも年に二回、省内の女性の地位の向上や、企業内の女性の地位の向上などについて、ジェンダー研修を行うことになっている。これは、Ms. Bun Naratが担当している。ここに、PGM2の経験が、共有されている。
  - 少し前にMs. Bun Naratが、全州事務所を訪問して、ジェンダーフォーカルポイントを任命した。
- プロジェクトでの役割や関わり方
  - ワークショップやミーティングに参加。5回中、プノンペンでの2回、コンポンチャムでの2回に、それぞれ参加。PGMメソッドや、プロポーザルの書き方などを学んだ。
  - コンポンチャムでの活動は、ベースラインサーベイ調査など。
  - プロジェクトは、中央からの参加者数を限定する場合があります、その時は、自分は参加出来なかった。
  - 州商業局が、マーケティング情報や、交渉スキルの改善、マーケティングに関する知識などの提供を担当。
- プロジェクト目標
  - 女性の経済的エンパワーメントの促進
- プロジェクトを通じた能力強化
  - 能力は強化した。特に、公務員として、行動をしたり、活動を提案する方法を学んだ。
  - 具体的には、ワークライフバランスに関するワークショップに参加して、日本の経験を学んだ。あとは、パイロットプロジェクト活動を通じて、コミュニティの人たちの生活や問題などについての知識を得た。
  - こうした経験は、通常業務に適用する機会は、自分は無いが、Ms. Bun Naratが、上記のジェンダー研修で、必ず活用していると思う。
  - この他には、貿易推進局（Trade Promotion Department）の人たちは、州レベルの受益者と密接に関与した業務を行っているため、PGM2の内容を反映できるのではないかと思う。

- 連携実施マネジメント手法について
  - 州女性局が主導で、他の連携局が協力して活動。自分達中央レベルの関係者は、ワークショップなどを通じて、一緒にプロジェクトに参加している。こうした手法は、良いと思う。
  - しかし、州レベルの活動には、深くかかわっていないので、よくわからない。
  - (他州への適用は?) 出来ると思うが、自分の担当ではない。
- コメントなど
  - 今後、中央レベルの自分達も、州レベルでの活動に、もっと呼んでほしい。そしたら、もっと、ビジネスに関する情報提供や、間違いを修正したりといった、貢献をすることができると思う。
  - 中央レベルへの参加招致のレターは、人の名前ではなく、「GMAG メンバー宛」にしてほしい。人名だと、その人がいけない時に、代理を立てるのが難しいため。

以上

日時	2013年 2月 5日(火) 9:20~10:30
場所	計画省執務室
訪問機関名	連携省庁（計画省、MOP）の関係者
面談者	Mr. They Kheam (Director of Census and Demographic Survey Department, MOP)
出席者	調査団：本間（記録）、プロジェクト：Dara、通訳：Channa

- 面談者について
  - フェーズ1から関わっている。フェーズ1では、本邦研修にも参加。積極的な参加者だった。
  - 省の仕事の他に、個人コンサルタントとして、ADBなどの仕事を請け負って、給料の10倍以上の収入を得ている。
- 計画省のGMAGについて
  - 最近の活動は知らない。活動はしているようだが、あまりアクティブではない。たまに会って議論などしているが、ともかく予算が無いので、皆やる気がない。
  - GMAGは、一度大臣に対して、予算配分するようにリクエストをしたことがあるが、財務省が、女性省と活動が重複するとして、結局予算を認可しなかったという経緯がある。そのため、今はドナーへのリクエストとして予算を獲得しようとしている。カンボジアでは、プライオリティの高い省がいくつかあって（農林水産省、教育省、保健省、農村開発省、女性省など）、そこが優先して予算を獲得できる。計画省は含まれていない。
- プロジェクトでの役割や関わり方
  - PGM2のワークショップなどに参加したのは、一度くらい。
  - MOPからは、3名のGMAGメンバーが関係者として登録されている。プノンペンのワークショップなどに自分が参加出来ない時は、他の2名を参加させている。
  - コンポンチャムの活動には、自分の局の部下のどちらかを、参加させている。どちらも、GMAGのメンバーではないが、自分の代理として。参加後、特に報告や情報の共有は受けていないので、活動の内容は知らない。
  - （どうして自身が参加しないのか？）PGM2でリサーチ（ベースライン調査）が実施され、外部コンサルタントを雇用した際に、自分も個人コンサルタントとして応募した。しかし、選ばれなかった。関係者が応募しているのに、無関係な会社が受注し、関係者である自分たちに利益が来ないのはおかしいし、がっかりして気を悪くしてから、PGM2へ参加する意欲が無くなった。もともと、専門性への需要が多い中で、何のインセンティブも無い状態で、自分達を雇用せずに、（関係者として）リサーチなどで、少額の日当などだけで働かせるのは、おかしい。いまどき、インセンティブ無しでは、誰もプロジェクトに参加などしたがる。PGM2も考え直すべきだ。
  - （フェーズ1では、熱心に関わっていたようだが？）フェーズ1当時は、女性省のC/Pたちは、給与補填を受けていたと聞いている。自分は、インセンティブは、受け取っていなかったが、多くの研修があったり、本邦研修にも参加したり、フィールドトリップの日当を受け取るなどの利益があった。今は、そういった研修などもなく、実入りも少ない。利益を受けているのは女性省だけだ。だから関わりも少ない。
  - （ジェンダー統計のリーフレットの更新は、誰が関わったのか？）多分、GMAGの議長だと思う。彼女は、自分のチームを持っているので、計画統計局長などと、直接やりとりをして作業をしたのだと思う。最初、自分も手伝わないかと誘われたのだが、インセンティブが無いので、参加しなかった。
  - （今後、活動にはどのように参加できるか？）プノンペンでのワークショップなどには参

加出来るだろうが、フィールドでの調査は難しい。インセンティブ無しに、仕事は出来ないから、参加する気になれない。出来れば、他の人をアサインしてほしい。UNなどは、すでに給与補填を止めるという決定をしているが、JICAは、計画省にあるプロジェクトでは給与補填を継続しており（PGM2はしないと言っているけれども）、実際はフレキシブルな状態で、交渉すれば可能だと認識している。だからインセンティブが支払われなければ、参加したくない。

以上

日時	2013年 2月 5日(火) 11:00~12:15
場所	女性省内PGM2 プロジェクト事務所の会議室
訪問機関名	プロジェクトカウンターパート
面談者	Mr. Tim Phy Iary (Deputy Director of Planning and Statistics Department, MOWA)
出席者	調査団：本間（記録）、通訳：Channa

- 面談者について
  - 女性省には、2005年から勤務。国際関係局に配属。2011年から2012年まで1年間、Royal School of Administration in PPで、アドミの勉強をした。その後女性省に復帰した2012年10月から、計画統計局に配属され、プロジェクトに関わるようになった。
  - 統計が専門で、1993年から2005年は、計画省のNISで勤務していた。
- プロジェクトでの役割や関わり方
  - 主な役割は、プノンペンにおけるJICA（日本人専門家）と女性省の間、コンポンチャムにおける女性局や地元政府や有力者との間の調整。調整はPPCCを中心に行われている。
  - あとは、他局の活動への関与。他局の活動のコーディネートをしたり、活動内容を女性省およびJICAに報告したり、PGM手法の中でジェンダー指標の作成などにインプットをしたりしている。
  - モニタリングやベースライン調査のための質問票や指標作成にも関わった。
- PGM手法について
  - プロジェクトのすべての活動全体が、PGMメソッドに基づいている。
  - 研修は受講していないが、コンポンチュナンで実施した研修を手伝ったので、9ステップの内容は知っている。
- プロジェクト目標の達成の見込み
  - （プロ目は何か？）女性の経済的エンパワーメント。
  - （正しいプロ目を確認後、パイロットプロジェクトの経験を、どのように活かせると思うか質問。）女性の経済的エンパワーメントのためのジェンダー指標を作成している。
- プロジェクトを通じた能力強化
  - PGM2に関わって、まだ短期間だが、特にフィールドでの活動を通じて、多くを学んでいる。理論や文献で学んだことを、実践する経験を得ている。例えば、養鶏研修を受講した参加者たちが、実際養鶏を始めるまでもにも困難があることや、テキストなどにあることをそのまま実践することは難しい。帳簿のつけ方の研修をして、帳簿を配布しても、非識字者などは、家族に助けをもらって実践するわけではない。
  - ジェンダーにおいては、すべての活動をジェンダー視点から取り組んでおり、もちろん能力強化になっている。
- プロジェクトの問題など
  - 州連携局との活動の中で、必ずしもすべての局が同じ熱意で、関わっているわけではない点。
  - カウンターパートが若年の場合、（年齢が上である）州連携局の関係者が、耳を貸してくれない場合がある。これは、少しずつ解決してきている。
  - コンポンチャムにいるプロジェクト雇用のスタッフ（JICAスタッフと呼んでいる）が、協力的ではない。自分達カウンターパートへの尊重が無く、日本人専門家のいうことしか聞かない。日程調整なども、州連携局との調整の上決定するようにお願いしても、自分達の都合で日程を決めたりする。



- フィールドでの活動に参加するにあたり、自分達カウンターパートの参加人数が多すぎると、参加を断られることがある。その割には、ショートノーティスで行かされたりすることがある。
- コメントなど
  - プロジェクトを延長してほしい。変化はすぐに出るものではないため。

以上

日 時	2013年 2月 5日(木) 12:30～13:45
場 所	女性省
訪問機関名	女性省 (MOWA) 大臣
面談者	H. E. Dr. ING Kantha Phavi Minister (表敬という位置づけ)
出席者	調査団：田中団長、吉田 (記録)、カンボジア事務所：井崎所長、灘本企画調査員、Thyda (ナショナルスタッフ)、プロジェクト：山口リーダー

- パイロットプロジェクトへの印象について
  - 昨年コンポンチャム州へ行き、パイロットプロジェクトの視察を行った。良い結果がでていたという印象を抱いている。参加者の DV、経済、栄養といった環境が改善している。女性が経済力を持つことで家庭内の女性の状況も変わってきているといえる。
  - パイロットプロジェクトはとても有益であり、貧困削減といった社会問題にも対応している。
  - この成果を見えるようにし、女性省以外にも広めてほしい。
  - 鶏の価格は下落傾向にある。参加者はパイロットプロジェクトを通じて技術を学んだが、今後はマーケットとの付き合い方 (価格設定がどのように行われているか等) を学ぶ必要がある。また、生製品の保管方法を学ぶことや養鶏以外の業務に着手するなど、鶏の価格下落のリスクをヘッジする必要があると考えている。
  - 農産加工品についてはよりスケールメリットの追求が必要だと考える。個人レベルでの活動では周辺に動物もいるケースもあり衛生状態も悪い。村の近くに加工のための施設を設け、そこに人を集め、スケールアップや衛生状態の改善を目指すことが望まれる。
- 女性省による連携について
  - 女性の経済的エンパワーメントのため、たとえば、農村開発省がマイクロクレジットを、農林水産省が農業技術を指導するのを女性省がコーディネートしている (大臣はこのように他省と協力することを integrate package と呼んでいた)。これは良いコンセプトであり、本プロジェクトで行っている取り組みを、持続させること、あるいはスケールアップさせることが重要である。
  - パイロットプロジェクトも含め、インパクトの「見える化」をお願いしたい。そしてパイロットプロジェクトのインパクトをより広げたい。
- 地方分権について
  - 地方分権は、早くはないものの少しずつ進んでいる。進捗を注視したい。
- TWGG 女性の経済的エンパワーメントのためのサブグループについて
  - 当初は女性の暴力に対処するためのサブグループよりも先に設置される予定だったが遅れている。
  - PBA のワーキンググループの動きがあるが、フレームワークが定まっていない印象がある。PBA ワーキンググループを気にせず早期に TWGG サブグループを作ってほしい。
  - サブグループはパイロットプロジェクトの教訓を生かし政策を策定する観点でも重要。大きなグループだと女性の経済的エンパワーメントといった特定分野に焦点を当てた議論ができない。
- その他
  - IFAD が農林水産省への詩篇を通じて、女性の小規模事業の立ち上げやハンディクラフトによる収入創出の支援を行っている。

以上

日 時	2013年 2月 5日(木) 15:30～17:30
場 所	UNDP
訪問機関名	UNDP
面談者	Pen Bory(Gender & Governance officer (PGE)), Kasumi Nishigaya(Consultant of Capacity-Building for Gender, and Aid effectiveness), Sok Chan Chhorly(Assistant Deputy Director) ,Napoleon Navarro(Deputy Country Director-Programme)
出席者	調査団：田中団長、吉田（記録）、カンボジア事務所：灘本企画調査員

- (当方からのパイロットプロジェクトの説明を受けて) 女性起業家支援について
  - カンボジアでは ILO が起業支援と女性の経済エンパワーメント支援を行っている。
  - IFAD が土地を保有していない女性に焦点を当て、加工食品とハンディクラフトに携わる起業家の支援を行っている。
- PGM2 について
  - 政策レベルだけでなく、現場での活動も行っている点を評価している。サブナショナルレベルで政策が実際に行われるようにする必要がある。また、女性が経済的に自立することは重要であり、D&D は今後進んでいくと思われるので、州のキャパシティを上げることは良い。
- D&D について
  - 中央省庁の権能委譲については、MORD と MOA がマッピングを完了したところ。今後、2つのパイロットプロジェクトが実施の予定。その後、法令を見直し将来的には地方公務員制度の設置を目指す。
  - D&D にあたっては MORD や MAFF が地方のニーズを把握する必要がある。その上で中央はコーディネートの役割を担う必要があるのではないかと。
  - ドナーの支援は必要。
- PBA について
  - 現在進捗としてはキーエレメントにかかるロードマップを見直しているところである。女性省の能力評価は既に終わり、それを基に能力強化戦略を作成中である。
  - 女性省内に大臣を議長とする PBA 委員会と同委員会の事務局が設置された。
  - PBA Committee にて 2013 年よりスタートする Neary Rattnak4 (NR4) 策定の支援も行っており、国家戦略をいかに Neary Rattnak4 に反映させるか検討している。NR4 には、気候変動、女性の経済エンパワーメント、ジェンダー・ベースド・バイオレンスも含まれる予定。
  - UNDP の PGE プロジェクトで連携省庁の PBA 推進を支援している。
  - 先回の TWGG 会合で PBS のパートナーシップ・プリンシプルを作ることが合意された。これは、NR4 のパートナーシップ・プリンシプルでもある。想定される内容としては、調達方法の協調、共通の報告システム、共通のモニタリングシステムなどが挙げられる。少なくとも、女性省内のアドバイザーは業務を重複せず、協力する体制が必要である。
  - また、UNDP は MAF (Millennium Acceleration Framework) の作成支援を行っている。大臣も MAF は優先度が高いものと捉えている。
  - UNWOMEN のコンサルタントが PBA のポリシーに着手している。女性の経済的エンパワーメントに係るポリシーも対象の一つとなっている。
  - Neary Rattnak の下、PBA と TWGG は共存するものと認識している。TWGG は連携省庁と良いパートナーシップを構築するうえで重要である一方、それ以上のことを TWGG に求める

のは難しい。PBA と TWGG の両者を有効に活用すべきである。

- UNDP が TWGG 女性の経済的エンパワーメントのサブグループの共同ファシリテーターになるかはわからない。一方、MAF を全く無視して PBA を作られても困るので、設立までは支援をしてもよい。
- EU は人権、PBA、D&D に関心を持っている。EU は人権についての無償支援プログラム行っている。
- PBA におけるドナーとの協調について
  - JICA とは引き続き良きパートナーとして、双方の活動内容や教訓を参照しつつ、課題を解決していきたい。課題は山積しているが一步一步クリアしていきたい。
  - ファンディングについてはまだ話題に上がってきていないが、GIZ、スウェーデン、AusAID が関心を持っている模様。ただ、バスケットファンドを導入する用意はできない。ファンドよりもパートナーシップを構築することが重要と考えている。
  - 大臣はドナーには共通のレポート作成とコーディネーションを期待している。
- GMAP 支援（特に実際に GMAP が活用されるか）について
  - PGE3 では宗教省など 4 つの GMAP を支援した。MAFF に対して 2004～2012 年にかけて支援している。
  - GMAP を実施する予算が十分にはないので、財務省への予算獲得のためのプロポーザルや財務省とのコーディネートの支援を行っている。ジェンダー予算を実現するために、ガイドラインを作成し研修講師を養成した。
  - MOF はジェンダーそのものの予算手当を行うというスタンスではない。連携省庁のすべての計画にコンポーネントとしてジェンダーの視点が入るようにすることが重要である。労働省、教育省、農業省では既に実現されている。
  - GMAG にはそれぞれの省の役割と責任を明確にすることと、予算獲得のための能力強化を期待する。
  - 全てのドナーのプロジェクトが GMAP とリンクしていなければならない。
  - ジェンダー主流化のための活動はストラクチャーが十分に構築されていないと有効にならない。各省の戦略にジェンダーの視点が入るとよい。また、Nearay Rattanak に基づき、女性省自身が事業をするのではなく、女性省が連携省庁の活動をモニタリング・評価することが有効ではないだろうか。
- PPP について
  - （当方より）インドのユニチャームや中国の資生堂などのグッド・プラクティスを紹介。

以上

日 時	2013年 2月 6日(水) 8:30~10:00
場 所	女性省内PGM2 プロジェクト事務所の会議室
訪問機関名	プロジェクトカウンターパート
面談者	Te Vouchlim (Director, Planning and Statistics Department, MOWA)
出席者	調査団：田中団長、吉田(記録)

- PDWA のキャパシティについて
  - パイロットプロジェクトにおいて PDWA はファシリテーター及びジェンダーの視点活動を活動に入れる役割を負っている。現在各局のコラボレーションは非常に円滑に行われている。
  - また、PDWA は PDOP とジェンダーモニタリングについて協力をしている。
  - 女性省は女性局に対してジェンダーに関するトレーニングを行っており、教材も監修している。
- ジェンダートレーニングについて
  - ジェンダートレーニングは各村にて一回当たり 2 時間で行っている。内容は女性の経済的エンパワーメントの意味、コミュニティや家庭内での女性の苦勞といったことを説明している。なお、非識字でも理解できるように工夫している。
  - 農業パイロットプロジェクトでは鶏の販売に忙しく、男性の家事を分担するよう促すことが重要となる。また、貧困率の高い村では、男性が、女性が自ら獲得した収入を奪ってしまうことや、娘に教育を受けさせないケースがあるため、これらを是正することが重要となる。
- パイロットプロジェクトによる効果について
  - 収入が向上した結果、子どもの教育を受ける機会が拡大した。
  - 女性の意思決定や仕事の範囲にも変容が見られ、過去鳥籠の設置に関わっていなかったが、女性がこれに携わるようになった。
  - 寡婦の意識についても前向きになるケースが見受けられている。
  - 鶏はマーケットで販売するのではなく、村での結婚式等の際に近隣住民へ販売するケースが多い。価格によっては仲買人に売ることもある。
  - カンボジアでは比較的女性も意思決定ができることから、女性が鶏の販売で得た収入は女性自ら、用途を決めることができる。
  - DV も減ったという報告もある。DV は主に男性が酔った際に起きる。PDWA が DV に対するキャンペーンを実施している。
  - パイロットプロジェクトでは特に住民グループを形成、もしくは既存の住民組織を活用し、例えばグループ共同でのワクチンを購入するなどのグループでの活動は行っていない。
- パイロットプロジェクトの教訓の中央への反映について
  - Neary Rattanak 4 やミレニアム開発目標加速化枠組み (Millennium Development Goal Acceleration Framework: MAF) に反映させたい。
  - 連携省についても、農村開発省はマイクロクレジットを、商業省は市場情報を、労働職業訓練省は帳簿付けなどの職業訓練を行っており、これらの政策に反映させる予定である。
- TWGG 女性の経済的エンパワーメントのためのサブグループについて
  - TWGG サブグループには、女性の経済的エンパワーメントのための政策を策定・推進すること期待している。そのためには、ジェンダーに関する共同モニタリング指標 (Joint Monitoring Indicators) の検討や TWGG サブグループがアイデアを集約し情報共有を行う機能を果たすことが重要となる。
  - ミレニアム開発目標の達成には女性の経済的エンパワーメントがキーとなる。TWGG サブ

グループが大いに貢献するだろう。

以上

日 時	2013年 2月 6日(水) 10:30~11:00
場 所	女性省内PGM2 プロジェクト事務所の会議室
訪問機関名	プロジェクトカウンターパート、女性省 (MOWA) ジェンダー平等局長
面談者	Nhean Sochetra (Director, Gender Equality Department, MOWA)
出席者	調査団：田中団長、吉田 (記録)

- PDWA のキャパシティについて
  - パイロットプロジェクトを通じてコーディネーション能力やジェンダートレーニングの質、プレゼンテーション能力が向上したと認識している。
- パイロットプロジェクトによる効果について
  - 連携局の、パイロットプロジェクトの過程で問題が生じた場合の対処能力が大きく向上している。参加者の生活に対する理解も高まった。
  - 参加者も以前と比べてワクチン等を駆使して積極的に収入向上に取り組むようになった。またマイクロクレジットについても以前はただ金銭を借りるだけであったが、金銭をどのようにやりくりするかを学ぶようになった。
  - パイロットプロジェクトでは原材料等の原資を参加者に提供していないのが特徴。農産加工のための原資は価格が高騰している。他方、参加者は十分な資力がなく、さらにマーケットも遠いため、収益に結び付けることが難しい。そのため、農産加工パイロットプロジェクトでは女性を取り巻く状況も大きな変化は現時点では生じていない。(この点、農業パイロットプロジェクトは収入向上に結び付きやすく、教育の機会が増えたり、DV が減ったりと変化が見られている。)
  - 農産加工パイロットプロジェクト裨益効果を向上させるためには、対象製品の検討、マーケティングスキルをはじめとするビジネススキルの向上が必要。また、連携局のキャパシティの向上も必要である。
- UNDP のプロジェクトの教訓
  - 自身は UNDP の PGE (Partnerships for Gender Equity) プロジェクトにて、プロジェクトマネージャーを担っている。PGM2 と PGE は TWGG を通じて連携をしている。
  - PGE は 3 つのコンポーネントから成る。すなわち、①国家政策におけるジェンダー主流化、② Kampong Thom 州における女性の経済的エンパワーメント、③女性への暴力の防止、である。①では PBA に関する取り組みの他、計画統計局とも協力し Neary Rattanak 4 の策定支援が行われている。②は手工芸品を軸に女性開発センターの支援を行い、マーケットサーベイや Self Help Group の形成支援を行っている。③は Department of Legal Protection がフォーカルポイントとなり、パイロットプロジェクトも実施し、地方のボランティアや Gender Focal Point と協力し TOT 等を行っている。バングラデシュへのスタディツアーも行っている。

以上

日 時	2013年 2月 6日(水) 11:00~12:00
場 所	女性省内PGM2 プロジェクト事務所の会議室
訪問機関名	プロジェクトカウンターパート、女性省 (MOWA) 計画統計局
面談者	① Mr. Tim Phy Iary, (Planning and Statistics Department, MOWA) ② Ms. Khim Sovanny (Planning and Statistics Department, MOWA) ③ Ms. Chea Socheata (Planning and Statistics Department, MOWA)
出席者	調査団：田中団長、吉田 (記録)

- PDWA について
  - PDWA は各局をコーディネートする重要な役割を果たしている。パイロットプロジェクトの進捗を把握し、良い面、悪い面ともにPDWA からMOWA へ報告を行っている。また、ジェンダーモニタリングのためのクエスチョネアを作成している。
  - パイロットプロジェクトの活動にジェンダーの視点を入れるという点でPDWA の能力の向上が見られる。
  - PDWA は当初は各局のコーディネーションのみを行い、各活動にどのようにジェンダーの視点を入れたらよいか当初は分かっていなかった。最近では養鶏の研修の際にどのようにジェンダー視点を入れたらよいかを学習し、内容の改善も見られる。
- パイロットプロジェクトの裨益効果について
  - 養鶏にジェンダーの視点を入れることで、以前は男性のみが担っていた鳥かごの作成に女性が携わるようになった。また、鶏をどのように販売手法にも女性が関わるようになった。家庭内でも女性がより意思決定できるようになり、例えば鶏の販売により得た収入の用途について意見を言えるようになった。
  - 以前女性は鶏にワクチンを打つことに関わるのを避けていたが、女性がワクチンを打てるようになった。また、鶏の販売価格も女性が鶏の販売価格も決定できるようになった。
- 農業パイロットプロジェクト
  - ワクチンの方法、鳥かごの作り方、清掃の方法等を研修の内容としている。
  - 研修は毎週開催しており、1回あたり2時間としている。
- 農産加工パイロットプロジェクト
  - ジンジャーの加工品やドーナッツを対象としており、販売目的の参加者（自家消費目的の参加者もいる）に対しては販促支援を行っている。また、PDOC の責任のもと民間企業に委託し、マーケットサーベイを行い対象品目の選定を行ったが、ジンジャーの加工品とドーナッツは都市部では需要があるものの、農村地域では人気が高くない。ドーナッツは作るのも容易ではない。
  - ①製品の品質は良いが、プロモーションにて課題がある。
- パイロットプロジェクトの成果をどのように生かすか
  - 女性省の政策や計画に反映したい。
  - Neary Rattanak 4 の女性の経済的エンパワーメントの分野にてパイロットプロジェクトの教訓を反映したい。
  - 他省やNGO が研修を行う際に、活用するようノウハウをシェアしていきたい。

以上



日 時	2013年 2月 6日(水) 11:00~12:00
場 所	UNFPA
訪問機関名	UNFPA
面談者	Ms. Sarah Knibbs( Deputy Representative) MS. Aing Sokroeu( Gender Analyst)
出席者	調査団：田中団長、吉田（記録）

- UNFPA の活動について
  - 現在、UNFPA は、①女性省ジェンダー平等局とともに Program Based Approach(PBA)の支援、②地方でCWCCと協力し、リプロダクティブヘルスの支援、③NGOと連携して Gender Based Violence の主に法的支援、を行っている。
  - (①に関連して) PBA の支援では年間計画の策定や、予算獲得の側面支援、ワークショップの開催支援を行っている。PBA は他ドナーも関与しており、他のドナーとの責任の区分けが明確でなく、重複している面もあるものの、ドナー間の協調関係は改善してきている。スウェーデン、AusAID、スペインが強い関心を抱いている。
  - (②に関連して) CWCC のキャパシティは予算・人員ともに十分でない。地域に密着した女性のニーズを如何にくみ取るかが不十分でこれを強化したい。なお、リプロダクティブヘルスについては Ministry of Health が安産等の支援を行っている。
  - (③に関連して) カンボジアは肉体的暴力よりも性的暴力が多く、メンタルヘルスケアが重要となり、UNFPA が現在望ましいアプローチを検証している。DV の要因は貧困だけではない。教育も重要な要因となっている。また、人身取引については、除外しているわけではないものの、別のイシューと捉えている。
- TWGG 女性の経済的エンパワーメントのためのサブグループについて
  - UNFPA は TWGG のメンバーとなっており、TWGG の Gender Based Violence のためのサブグループではデータモニタリングを行っている。
  - TWGG 女性の経済的エンパワーメントのためのサブグループを形成することで、特定の論点に焦点を当てることが可能となるため、より実践的な活動を期待したい。TWGG 本体は大きすぎて、実践的な協議が難しくなっている。
- TWGG 女性の経済的エンパワーメントのためのサブグループについて
  - 国勢調査の支援を過去行った。国勢調査は10年ごとに行われ、前回は2008年に行われた。次回は2018年に行われる予定である。
  - Neary Rattanak 4 はドラフトもまだ完成していない。

以上

日時	2013年 2月 6日(水) 9:30~11:00
場所	女性省内PGM2 プロジェクト事務所アドバイザー室
訪問機関名	プロジェクトカウンターパート
面談者	① Mr. Ham Siphath (Officer of Economic Development Department, MOWA) ② Mr. Meas Chiwut (Officer of Gender Equality Department, MOWA) ③ Mr. Sok Chheng (Vice-Chief Office of Economic Development Department, MOWA)
出席者	調査団：本間（記録）、通訳：Channa

フェーズ1に不参加で、プロジェクトに関わった期間が短い3名のカウンターパートを、グループで面談。

● 面談者について

- ① 2007年に女性省に入省。最初は副大臣のアシスタント。2008年から経済開発局に配属。PGM2には、2011年6月から参加。ドナー支援によるプロジェクトに関わるのは、PGM2が初めて。長い間女性省に勤務しており、ジェンダーに関する知識が十分にあるので、自分がカウンターパートに選ばれたのだと思う。
- ② 2007年に女性省に入省。専門はITなのだが、妻が女性省職員だったので、自分も入った。最初からジェンダー平等局の、サブナショナルレベルの業務を担当する、ローカルガバナンス課に配属。サブナショナルレベルでの業務が関連する、UNICEFやUNFPA、NCDDなどのプロジェクトに、これまで関わってきた。研修実施が活動の中心だった。PGM2には、2012年11月から関わり始めた。草の根レベルのコミュニティや地方政府などとの業務経験が豊富だったために、自分がカウンターパートに選ばれたのだと思う。実際、類似点が多い。
- ③ 2006年に女性省に入省。ビジネスマネジメントが専門で、最初から経済開発局の製品加工課に配属されている。現在農産加工プロジェクトで行っているような業務に、以前から関わっていた。2009年までADBの手工艺品生産などをおこなうプロジェクトに関わっていた。PGM2には、2011年10月から。

● プロジェクトにおける役割や関わり方

- ① パイロットプロジェクトでの、PDWAの業務のアシスタントや、他の連携局が実施する研修への参加し、トピックや内容や、農村部の対象者に適しているかなどを確認。農業プロジェクト担当として、養鶏のためのベースライン調査や評価などに参加。パイロットプロジェクトサイトには、月に4回ほど訪問している。自分の業務時間の9割を、プロジェクト活動に割いている。
- ② 農業プロジェクトを担当。ジェンダーモニタリングのための指標の作成や、研修参加農家へのモニタリングへの参加、農産加工プロジェクトのためのベースラインなどにも参加。業務時間の8~9割がプロジェクト業務。
- ③ 農産加工プロジェクトを担当。パイロットプロジェクトにおける研修のファシリテーションや、他局による技術研修へのジェンダー視点からのアドバイス、研修参加者へのモニタリングやフォローアップ、研修前のベースライン調査や研修後のフォローアップ調査、実際に研修の実施（ジェンダー分野）等を担当。

● プロジェクトを通じた能力強化

- ① 能力が強化されていると思う。農業プロジェクトを通じて、養鶏技術などを学んだ。英語力も改善した。
- ② プロジェクトプロポーザルや、評価の方法に関する知識や経験を得ている。たとえば、

質問票や指標の作成方法など。ケーススタディの作成の仕方も学んだ。レポートの書き方も学んでいる。プロジェクト以外の業務があまりないので、他の業務にまだ適用はしていない。

- ③ まだプロジェクトに関わった期間が浅いので、特にない。自分の業務では、年度末になると予算が回ってくるので、評価やニーズアセスメントなどを行う必要性が出てきた際に、プロジェクトでの経験が活用できると思う。プロジェクトの経験は、自分にとって良いものだと思っている。
- PGM メソッドについて。
  - ☆ ① プロジェクトに関わって期間が浅いので、まだ知らない。
  - ☆ ② 研修などは受講したことはない。しかしマニュアルは持っている。モニタリングや評価のためのツールだと認識している。

● プロジェクトに関わる上での問題点

- ① 当初、報告書作成のためのコンピューターの不足などの問題があったが、日本人専門家に相談して解決された。基本的に、問題が生じて、すぐに話し合いをして解決している。プロジェクトのスタッフミーティングは毎月行われている。別途 PCC も開催されている。ただ、もっとスタディツアーなどを通じて、自分たちの能力強化の取り組みをしてほしい。英語力も弱いので、英語学校に行かせてほしい。日本人専門家などの関係者間のコミュニケーションに、問題は無い。
- ② 個人的なことだが、自分の英語力には問題がある。他には特に無い。プロジェクトでは、毎回フィールドでの活動前にミーティングを行っている。他のプロジェクトでは、そこまではしていなかった。日本人専門家は、オープンで、自分達をやる気にさせてくれている。その分、業務量が多いけど、自分達は多くを学びたいと思っているのでかまわない。関係者間のコミュニケーションも良い。
- ③ 特に問題はない。関係者間のコミュニケーションも良い。

● プロジェクトの長所と短所

- ① PGM2 は、自分の業務時間の 9 割を費やしているため、非常に忙しいが、経済開発局としての業務内容と合致している。能力も強化されている。プロジェクトの受益者に対して、多くの便益を与えることが出来ていることが良い。実際に、最近実施した評価で、多くのインパクトが報告されている。また、話したり情報共有などを通じて、日本人専門家から多くのやる気を受けている。
- ② 長所は、多くを学べる点。実際の活動に従事することで、草の根レベルの生活など、多くを学ぶ機会や経験を得ている。この経験によって、PGM2 終了後も、他のプロジェクトや NGO など働くことが出来る。短所は、休みが少ないので、疲れる点。また、ミーティングを実施してフィールドで活動して、またミーティングで復習をするといったプロセスを行っているため、急いでそれぞれを行わなくてはいけない時があってせわしない。現在は、時間制限なく、対象者（農家）のニーズに合わせて働いている感じ。
- ③ 長所は、対象となった人々が実際に収入向上するためのお手伝いを出来ていること。所得をどのように獲得するかと学ぶことが出来ている。プロジェクトのアレンジは、素晴らしいと思う。知識も増加させてくれている。短所は、活動のタイミングがたまにすごくせわしくなること。

● 連携実施マネジメント手法についてどう思うか？

- ② 各局の役割が、はっきりしているのととても良い。各局がそれぞれの分野の仕事にフォーカスしている。
- ① 女性局が各セクターの研修をジェンダー視点からのアドバイスなどをおこなっているので、ジェンダー主流化という点からもいい。州女性局は、モニタリング評価がジェン

ダー視点から行われるようにしたり、パイロットプロジェクトの活動が、女性省の政策と合致しているかの確認も担当している。

- プロジェクト目標は何か？
  - ② 女性の経済的エンパワーメントの推進
  - ③ ジェンダー主流化の促進が最終目的

以上

日時	2013年 2月 6日(水) 15:30~16:40
場所	女性省内PGM2 プロジェクト事務所の会議室
訪問機関名	プロジェクトカウンターパート
面談者	Ms. Khim Sovanny (Vice-Chief Office of Planning and Statistics Department, MOWA)
出席者	調査団：本間（記録）、通訳：Channa

- 面談者について
  - フェーズ1の2004年から、プロジェクトに関わっている。
  - ジェンダー平等局長の妹
- プロジェクトでの役割や関わり方
  - カウンターパートとして、州女性局のサポートなどを行っている。たとえば、州女性局や他の連携局による活動に、きちんとプロジェクト目標に沿っているか、ジェンダーの概念が組み込まれているかを確認し、アドバイスなどを行う。モニタリング評価も担当。
  - パイロットプロジェクトでは、自分は農産加工プロジェクトを担当。州女性局や州連携局が実施する活動に、すべて関わっている。
- プロジェクトのアプローチや方向性など
  - フェーズ1では、各関連省庁の政策分析を行い、政策に沿った活動を実施した。また、活動は、中央や州の関係省庁の関係者の能力強化が中心だった。フェーズ2は、ベースライン調査やマーケット調査など、通常業務とは異なるところで、特別な知識を獲得する機会になっている。
  - フェーズ2の方が、多くのプロジェクトスタッフを雇用して、活動を行っている。
  - フェーズ2は、連携でパイロットプロジェクトをマネージしている。しかし、各局が別々のことを考えて事業を実施しており困難も多い。特に、そのため、自分は、フェーズ1での実施方法の方が良かったと思っている。
  - また、フェーズ2では、中央レベルの関係者の巻き込みが弱いので、今後行う政策提言の作成は、難しいのではないかとと思っている。プロジェクトマネージャーや局長など、自分達女性省カウンターパートが、中央レベルの関係者への参加を働きかけているが、きちんと参加しているのは、労働職業訓練省と、商業省だけだ。中央レベルの関係者を、パイロットプロジェクトサイトに招致する場合も、予算の関係で人数が限られる場合があり、日本人専門家にかけあったことがある。
- パイロットプロジェクトの連携実施マネージメント手法について
  - 手法は複雑である。特に、農産加工プロジェクトでは、あまり関わっていない局もある（農村開発局）。
  - 正直、活動はそれぞれの局が別々に行っているため、真の連携になっていないと思う。
  - 長所は、女性局と計画局の調整により、各局がそれぞれの役割をはっきり認識している。各局が、それぞれの活動を適切なタイミングで行うことが出来ている。そのために、農業プロジェクトは成功している。農産加工は、カンボジアでは馴染みがないため、今は苦勞しているが、将来は定着して成功するかもしれない。どんな問題があっても、日本人専門家に相談している。対象者は、多くの利益を得て、収入を獲得している。
  - 短所は、農産加工プロジェクト。農産加工に関する知識を得ている関係者が少ないため、プロジェクトスタッフも、日本人専門家も、その他のカンボジア人関係者も、対象者に対して、適切なアドバイスを出来ていない。たとえば、製品の品質維持の方法など。
  - また、外部の人をプロジェクトスタッフとして多く雇用しており、お金の無駄である。日

本人専門家の滞在期間が限られていて、多くの人が入出りを繰り返しており、効率性が低い。州連携局の関係者のジェンダーに関する知識が十分ではない。この点は、プロジェクトを通じて改善してきているが、州女性局は、もっとプッシュしないといけない。州女性局の能力は、特にトレーナー3人が、すごく向上している。

- ジェンダー主流化のために、連携手法は、より効果的である。すべての局がジェンダー視点に立った活動を行うことができおり、女性の経済的エンパワーメントという同じ目的に向かっている。連携局だけでなく、地域の政府や有力者などとも関わって、同じ経験を共有することが出来ている。
- プロジェクトを通じた能力強化
  - 能力は、比較的強化されていると思う。特に、州女性局へのアドバイスを行う能力や、統計局としての統計に関する能力は強化された。英語力も改善した。
- プロジェクト目標は何か？
  - ジェンダー主流化のメカニズムの強化
  - (パイロットプロジェクトの経験の活用方法は?) ジェンダー主流化のメカニズムを効果的に機能させるために適用する。しかし、現在プロジェクトに深く関わっている州連携局の関係者の能力や役割は、限られている。彼らの能力を、プロジェクトを通じて出来る限り強化することも大切だが、意思決定を行うのは、中央省庁のため、今後中央省庁の関係者の巻き込みが重要である。女性省においても、同じ。
- コメントなど
  - プロジェクトは、多くのプロジェクトスタッフを雇用している。一部を除いてジェンダーに関する知識が非常に低いため、そうした人を雇用しているのはおかしい。プロジェクトスタッフの雇用のプロセスや選定条件を聞いても明らかにしてくれない。
  - カウンターパートへの給与補填がなされておらず、フィールド活動へ参加の日当のみだ。一方で、コンポンチャムプロジェクトオフィスには、多くのプロジェクトスタッフが雇用されている。時には、プロジェクトスタッフが業務をやっていて、自分達カウンターパートに仕事をさせてもらえないことがあった。そうしたことが続くと、自分達カウンターパートのやる気がそがれる。

以上

日 時	2013年 2月 6日(水) 16:45~18:00
場 所	女性省内PGM2 プロジェクト事務所の会議室
訪問機関名	プロジェクトカウンターパート
面談者	Ms. Chea Socheata (Officer of Planning and Statistics Department, MOWA)
出席者	調査団：本間（記録）、通訳：Channa

- 面談者について
  - PGM1からパートタイムスタッフとして関わっている。
  - PGM2も、最初から側割っていたが、2011年10月から11月は、産休だった。2012年11月に、試験に合格して、女性省の正規の職員になった。
- プロジェクトでの関わり方、役割
  - パイロットプロジェクトにおいて、各局の活動の視察やモニタリング。担当は農産物加工
  - ワークショップなどでは、ファシリテーションなども行う。州女性局がコーディネートする研修の一部（グループディスカッションなど）を手伝う形。PDWAにはトレーナーが4名しかいないので。
  - フェーズ1に関わった経験を活かしている。
  - 業務時間の半分ぐらいをプロジェクト業務に充てている状態。現在はコンポンチャムでのパイロットプロジェクトの業務が中心だが、それには日当などが出るので、部署のみんなが参加したがる。さらに、最近は意思決定が出来るプロジェクトマネージャーが行くことが多いので、自分が参加出来る機会は多くない。
- プロジェクトの方向性など
  - フェーズ1は、中央レベルの人たちの能力強化が中心だった。フェーズ2は、そこで強化された人材を活用して、活動を行っている形。そのため、自分のようにフェーズ1から関わっている人は仕事をしやすいが、新しい人たちはそうではないので、プロジェクトの仕事にシンパシーも無く、あまりやりたがらない。日当のために地方（パイロットプロジェクト）の仕事をしたがるが、経験が少ないので仕事のクオリティが低い。
  - （連携実施マネジメント手法について）自分の理解では、現在のパイロットプロジェクトのマネジメント方法は、真の連携ではないと思う。それぞれの省が個々の担当のことを行っているだけ。フェーズ1では、PATFの人たちは、声をかけるとすぐ来てくれたが、現在は別々の事情があるので、あまり参加したがらない。代理の部下を活動に参加させて、後で報告させているので、時間の無駄だと思う。ジェンダーに関して、州女性局の役割だとする傾向が強くなっている。女性局のダイレクターが研修で1年間不在だったのもあると思うが。不在中は、元ダイレクターの副知事が、他局の参加を促進してくれていた。
  - 現在のアプローチは、実施する方は大変だが、研修参加者にとっては良いと思う。
- PGM2を通じた能力強化
  - フェーズ1とは違う形で、パイロットプロジェクトの実施を通じて、能力強化されていると思う。フェーズ1ではただ学んだだけだったが、現在は、そこで得た知識を他の人に共有できている。特に州のダイレクターとコミュニケーションをしたり、フィールドで人々と一緒に働くことがいい。
  - パイロットプロジェクトで得た能力は、これまでは統計関係を活用したのみ。
- プロジェクトマネジメント
  - 日々のコミュニケーションに問題は無い。あってもすぐ解決できる。
  - しかし、プロジェクト開始当初、日本人側が、自分達をフィールド活動にあまり参加させ

てくれなかった。自分達を見下している様子がみられた。その後、自分達の能力が改善してきているのを見て、自分達を尊重し、活動にも参加させてくれるようになった。さらに、わざと日本語だけで話をするので、自分達は理解できないから英語で話すように言っても、止めてもらえなかったり、移動の車両が空いているのに、自分達を乗せてくれなかったりということがあった。この傾向や、プロジェクト雇用のスタッフ（カンボジア人）にもみられた。こうした状況の改善は、阿部専門家の働きかけによる。そのため彼にはすごく感謝をしている。

- プロジェクト目標は何か
  - 覚えていない。
  - 自分達にとっては、女性の経済的エンパワーメントの推進が、馴染みがあるのだけど、これは、パイロットプロジェクトで行っている。
- コメントなど
  - 自分は、給与補填などはないが、一生懸命プロジェクト活動に取り組んでいる。これは、PGM2 が、フェーズ1の成果だと思っているので、それを維持したいと思っているから。でもフェーズ3もこの状態だと、難しいだろう。
  - （フェーズ1に関わっていなかった）他局のひとたちは、（特にプノンペンでの）プロジェクト活動に参加したがる。しかし、できれば、給料が少ないので補填をしてほしい。

以上



日時	2013年 2月 6日(水) 13:30~15:00
場所	労働職業訓練省の会議室
訪問機関名	連携省庁(労働職業訓練省、MLVT)の関係者
面談者	① Mr. Ngy Simaneth (Director of Planning, Statistics and Legislation Department, MLVT) ② Ms. Nong Kanika (Deputy Director of TVET Department, MLVT)
出席者	調査団:本間(記録)、プロジェクト:Dara、通訳:Channa

殆どの活動に、①が中心的に関わっているため、特に明記が無いものは、①が回答した。

- 面談者について
  - ① フェーズ2から。PGM2では、殆どの活動に参加している。
  - ②フェーズ1から関わっている。フェーズ2では、忙しくなったため、主にプノンペンでの活動のみに参加。
- 農林水産省のGMAGについて
  - 年間ミーティングでPGM2の活動内容を、紹介している。ミーティングは必要に応じておこなわれるため、最近では、それほど頻繁にミーティングは開かれていない。GMAGはすでに期間が終了しているが、内容は、省の年間計画に統合させている。2014年にGMAGが改訂される予定である。
  - GMAGの役割は、すべての活動がジェンダー視点から行われているか確認すること。さらに、2012年は、ILOからの予算により、ワークショップを二回開催した。計画担当者への研修もあり、そこで、PGMの経験を共有。
- プロジェクトでの役割や関わりかた
  - まず、最初のワークショップで、(パイロットプロジェクトの)計画策定を行った。対象者選定のための質問票を策定し、対象者の抽出および選定を行った。労働職業訓練省では、Migration(出稼ぎ)を問題として選定し、女性省の5年計画内容に沿って、女性の経済的エンパワーメントへ着目することに決定。労働職業訓練省の政策を考慮して、特に周縁化されている女性たちを対象とした職業機会の創出を試みることに決定。
  - コンボンチャム州で対象候補の村が、出稼ぎが多いことを確認し、ベースライン調査を実施して、対象村の人びとの仕事の状況などを確認。その後、各連携省庁の役割を抽出。自分達は、州の職業訓練トレーニングセンターとの協力で行うこととした。州労働訓練局長は、日本への研修に参加し、日本での経験を習得し、それに基づいて、研修マニュアルを作成するとともに、研修のトピックを特定した。
  - このように、中央レベルのメンバーである自分にも、プロジェクト活動の中で、役割が沢山あった。これまでに6回くらいのワークショップに参加し、2回の評価調査やベースライン調査のプレテストにも参加している。
- プロジェクトの方向性など
  - (他のプロジェクトとPGM2の違いは?) PGM2の他に、ILOの支援により、職場の安全環境の改善(OSH)や、児童労働撲滅のためのプロジェクトにかかわったことがある。
  - 対象としている 이슈は異なるが、研修という意味では、労働職業訓練省が対象とする内容に、包括されている。ただ、通常の研修では、研修所での研修の提供という間接的な関与により、より多くの対象者や 이슈をカバーするようにしているが、PGM2では、特定の人たちに直接的に関わっている。
  - (フェーズ1とフェーズ2のアプローチの違いは?) 同じ5つの州連携局が関わっているが、フェーズ1は、今のように連携で事業を行っていなかった。評価結果を見ると、5局

が別々に事業をおこなっていたときと、今とあまりかわらない。連携局の関係者間が、お互いに知り合うことが出来たことや、ジェンダー主流化の概念がわかりやすくなったことなどがよかった。

- 連携実施マネージメント手法について

- すべての活動が、ジェンダー視点から取り組まれている点や、5つのそれぞれの専門分野を持った省庁が集まって、一つのプロジェクトに取り組んでいる。そうすることで、技術的な側面だけでなく、対象者の生計や、人材育成、ジェンダーなどの点も、考慮することが出来る。
- 長所は、対象となった人たちによって、別々にサービスされるよりも良いサービスを提供できる。重複を避けることが出来て、時間の削減にもなる。対象者の側で、問題が見つかったとしても、すぐに解決方法を見つけることが出来る。たとえば、職業訓練を受けても資本金やマネージメント経験が無くて事業を始められない場合、すぐに、農村開発局によりマイクロクレジットを紹介したり、帳簿などの方法を学ぶことで解決できる。販売先が見つからない時には、商業局により仲買人を紹介したり、販売のタイミングなどを教えることができる。
- 弱点は、クレジットを獲得の難しさや、市場価格の変動の影響。手法自体の弱点は、他局が自分達の業務（研修）へ、他の局の関係者が参加することを嫌がる場合があること。
- 予算があれば、今後他州でも適用できると思う。

- プロジェクトを通じた能力強化

- ① 多くの経験を得ている。特に計画策定などを、自分の通常業務にも適用できる。
- ② 自分も、フェーズ1から習得した内容を、計画策定などに適用している。
- （プロジェクトに参加した省としてのメリット）経験や教訓を得ており、それを今後、省の計画などに反映することが出来ると思う。

- プロジェクト目標

- 女性の経済的エンパワーメントの促進。

- コメントなど

- 職業訓練センターは、大きくて対象者は多い。そのため、プロジェクトの対象も拡大して、より多くの人たちにサービスが提供できるようにしてほしい。
- プロジェクト参加者に、マイクロクレジットを提供したいので、プロジェクトでなんとかしてほしい。

以上

日 時	2013年 2月 8日(木) 9:30-11:30
場 所	PDWA
訪問機関名	PPCC メンバー
面談者	Ms. Hor Leng Hong (PDOG)、Mr. Ekvann Phannnara (PDOP)、Mr. Mao Vanthan (PDA) Mr. Cheng Heang (PDLVT) Ms. Leng Sokha (PDWA)、Ms. Pan Phallin (PDRD)
出席者	調査団：田中団長、吉田（記録）、カンボジア事務所：Thyda

パイロットプロジェクトについて、評価、担当業務、地方分権との関わり、JICA への要望を尋ねた。各局の回答は以下の通り。

● PDLVT

- パイロットプロジェクトは順調であり、JICA に感謝している。チームワークを通じて経験を高め、能力が上がった。この経験を他の地域に広げたい。
- 女性が抱える問題、解決策、女性のニーズを如何に反映するかについて学ぶことができた。
- PDLVT は参加者へブックキーピングをはじめとする職業技術を提供した。ブックキーピングは今まで受益者は意識していなかったものであり、必要性を認識するよう促した。また、ドーナッツ、大根、ジンジャージュースといった食品加工のトレーニングも提供した。ただしトレーニングは容易ではない。非識字の参加者もいる。
- トレーニングの際には女性の参加を強く促しているわけではなく、男女双方を呼んでいる。ローカルオーソリティ等を通じて情報を広めている。ローカルオーソリティは男女双方の参加ありきでアナウンスはしてないが、女性の経済的エンパワーメントを目指すというパイロットプロジェクトの趣旨を丁寧に説明している。
- トレードフェアにも同行した。いくつかの製品が市場のニーズとマッチしていなかったことが判明した。パッケージ等でクオリティを改善した。
- プロジェクト終了後もサービス提供を継続したいが、実現するかはわからない。カンボジアの地方は農業が主体。農産加工品のセクターを発展させる必要がある。できれば継続して女性も男性も支援したい。
- D&D が進んだ場合、ナショナルレベル、サブナショナル、ローカルガバメントがコントロールできるようになればナショナルレベルの支援は不要になり、州政府は開発政策を強く推進できるようになる。5~10 年前と比べても既に変化がある。中央よりもサブナショナルレベルが市民の生活へ責任を負っているため地方への権限移譲は重要である。
- コンボンチャム州の 80%以上が農業従事者で、そのうち 50%以上が女性である。継続的な農業技術支援は女性に必須。まだ駆け出し段階なのでさらなる支援をお願いしたい。
- パイロットプロジェクトへの参加に対する局員の日当、交通費等の手当てが少額でありモチベーションに悪い影響を与えかねない。

● PDIME

- PGM2 はカンボジアの人々にとって非常に重要。
- 女性の置かれる環境など、ターゲット地域に変化が生じている。
- PDIME は農産加工パイロットプロジェクトにて 5S 活動を行っている。伝統的な生産手法から変化が生じている。
- 各局のコラボレーションはよく機能している。PPCC の議長である副知事のリーダーシップが大きく貢献している。各局がそれぞれの役割を果たしている。これが重要である。

● PDWA

- ナレッジの共有や能力強化がなされている。パイロットプロジェクトを通じて連携局のみならず、中央でも女性省と関連省の連携が強くなっていると見受けられる。

- 本プロジェクトはジェンダー主流化のために重要。州局員がジェンダーについて概念を学んだ意義は大きい。
- 女性のエンパワーメントのためには収入の向上が不可欠である。PDWA にはジェンダー視点に立った活動を行うノウハウ、責任がある。これまで PDWA はコーディネーターやファシリテーターをしてきた。今後も率先していきたい。
- それぞれの家庭での女性の置かれる状況は改善の余地がまだある。女性の家事労働も含めた労働負荷が大きい。慣習が女性の足かせとなることがある。ローカルネットワークを駆使し、ジェンダーの問題を解決してきたい。
- PGM2 では他の複数局が関与していることが他のプロジェクトにない特徴である。PPCC を軸に連携がうまく機能している。副知事の助言も効果的である。
- 農産加工パイロットプロジェクトと農業パイロットプロジェクトとで手当てが異なる点を改善して欲しい。(移動距離が違うため異なっている)

● PDA

- 農村部の女性の状況が改善してきた。女性が貧困に起因して移動することを防ぐことに貢献している。農村部の女性はジェンダーに関する意識(不平等が存在していることへの認識等)を持つようになってきた。
- 当初は女性の数が少ない印象であったが、女性が男性よりもトレーニングに参加するようになった。他のプロジェクトはジェンダーの視点を入れていない。
- PDWA とのコラボレーションもよく機能している。
- PGM2 のアプローチは PGM1 よりも優れている。PGM1 は縦割りで、連携するという形ではなかった。また、PGM2 ではモニタリングも行っている。
- 1か月に一度モニタリングし、フォローアップしている。問題(鶏が病気等)があれば対処方法を教えている。モニタリングには他局も同行しており、2,3 チームに分かれ、各チームが3~5 家庭を訪問する。他局もいることから互いに学ぶことができる。皆で共通のクエスショナアを持っており、相互にチェックし、リバイズしている。
- D&D はサブナショナルレベルに権限を委譲するため好ましい。

● PDOP

- PDOP は各局のコーディネーションをするとともにレポートも取りまとめている。
- トレーニング終了時のモニタリング・評価を行っている。ただし初めてなので日本人専門家の支援を受けている。
- D&D 及び州5 年計画については PDOP が担当している。D&D ための3 年実施計画も行っている。D&D の進捗は早くもなく遅くもないと認識している。
- パイロットプロジェクトの統合アプローチは D&D がより進んだ場合に有効であろう。
- パイロットプロジェクトの経験は州計画を立てる際に生かしたい。具体的には優先度の高いものからコミュニケーションレベルの問題、予算の問題を洗い出す際に PGM2 の経験を生かすことができるだろう。
- パイロットプロジェクト用のオフィスにプリンターがないため、不都合が生じている。

● PDRD

- PDRD はマイクロクレジットの支援を行っている。セービングについては支援していない。
- 個人貸付もグループ貸付もある。
- ローンは2 村でのみ提供しているが用途は様々。マイクロクレジットの需要は高くはない。参加者は小規模ビジネスにおいて借金を負うことは望まない。既存の資本で十分だと考える傾向がある。ただ、パイロットプロジェクトの目的からすると収入をよりあげたい。そのためにクレジットが必要。将来的には、参加者がクレジットを駆使して鶏の数をより増やすことを望む。

- 通常業務もある中、パイロットプロジェクトのためにレポートを作成する負担が大きい。
- PDOC
  - PDOC は様々なトレーニングの支援を行っている。農業パイロットプロジェクトでは、トレーダーを招いて参加者に紹介し、電話番号の交換を促すなど、参加者と市場と繋ぐ支援やどのような時期に鶏を販売すべきかの支援をしている。その際、女性がいかにマーケットの情報を得るかも配慮している。
  - 農産加工ではパッケージングのトレーニングを提供している。また、レストランやマーケットにつなぐことを行っている。
  - PDWA や PDLVT が加工品の製造を支援し、PDOC がケーキをブンペンのトレードフェアに持っていく。多くの知識を得たので、予算のプロポーザルの作成方法を学んだ。
  - コンピューターがよく壊れてしまい、パイロットプロジェクトのレポートを書くのに苦労している。

以上

日 時	2013年 2月 8日(木) 14:00-14:30
場 所	コンポンチャム州庁舎
訪問機関名	コンポンチャム州副知事 (PPCC のチェアを務めている)
面談者	H. E. Khong Sun Eng (表敬という位置づけ)
出席者	調査団：田中団長、吉田 (記録)、カンボジア事務所：Thyda

- JICA からの支援について
  - PGM1 から JICA のコンポンチャム州への支援に感謝している。PGM2 ではよりコンポンチャム州での活動に重点が置かれ、今後コミュニンの追加も予定されている。また、自身も日本での研修に参加し多くを学ぶ機会を得ることができた。
  - JICA が引き続きカンボジアの女性を支援することを望む。
- プロジェクトの妥当性
  - パイロットプロジェクトを含めた PGM2 は Neary Rattanak を実践するもので、PGM2 の活動は女性省の戦略にも合致した妥当性の高いものである。州レベルでも Neary Rattanak に基づいた計画があり、パイロットプロジェクトが果たす役割は大きい。
- パイロットプロジェクトについて
  - MOWA が中央からジェンダーの視点を入れるべく活動しており、ジェンダー主流化のために主要な役割を果たしている。
  - 各局は月次で活動内容を報告し、PPCC にてフォローアップを行っている。
  - パイロットプロジェクトの成功要因は、①Commune レベル及び Ditricit レベルの Local Authority の協力を得ていること、②PPCC が各局をコーディネートするため有効に機能していること、③コンポンチャム州知事が理解・支援していること、④JICA からの資金・人材の提供があること、による。
  - パイロットプロジェクトの課題は、①参加者の知識や教育が十分でないこと、②子どもの世話に参加者の多くの時間が割かれてしまうこと、③参加者が貧しいため継続的な参加が難しいこと、が挙げられる。
  - 上記の課題があるものの総じてパイロットプロジェクトは成功していると言える。女性が新しいビジネスに着手し、収入を増やした意義が大きい。また、パイロットプロジェクトの成果として、これまで金銭的な問題で学校に通うことのできなかつた子供が学校に通えるようになった。さらに DV も減った。以前は一つの家族で収入源は一つであったが、パイロットプロジェクトの収入源が2つ以上になり生計が向上した。
  - パイロットプロジェクトは成功しているものの、まだ満足してはならず、さらなる努力をし、コンポンチャム州の人々に貢献する必要がある。
  - パイロットプロジェクトの取組みを他機関に紹介する動きもあり、PDA が PGM2 のパイロットプロジェクトを ADB に紹介した。
- 副知事の交代
  - 自身は 2013 年の 5 月に副知事を辞職し選挙に出馬する予定である。後任の副知事がパイロットプロジェクトにコミットするよう十分に引き継ぎを行いたい。

以上

日時	2013年 2月 8(金) 15:00～15:30
場所	PDWA
訪問機関名	PDWA
面談者	Ms. Leng Sokha ( Director, PDWA)
出席者	調査団：田中団長、吉田（記録）、カンボジア事務所：Thyda

- ジェンダートレーニングの内容について
  - 4人のトレーナーがいる。3人が女性で1人が男性で。Local Authority や Commune Council にジェンダーアウェアネストレーニングを実施している。
  - トレーニングは3時間で、まず、ジェンダーとは何か性とは何か、男女の役割について教えている。その際はチャートや男女の絵を使うことで理解を促している。参加者には、演習として例えば男女の違いを発表するといったことを促し、その次のトレーニングでは夫婦の役割や養鶏にあたりどのように夫婦が助け合えるか説明した。社会や家族内での夫婦の役割の絵を描き、男性が何をするか、女性が何をするか説明し、参加者同士の意見交換を行った。
  - その後、男女がそれぞれ直面する問題についてグループに分かれて話し合い、それをいかに解決するかについて演習・発表をしている。
  - いずれの研修も最後にはトレーナーがサマライズし、コメントをしている。
  - トレーニング後はモニタリングとフォローアップを行っている。
- トレーニングによる効果について
  - 強い変化はないが、少しずつ変化が見られる。プロジェクト実施前よりは改善している。DVも減ったという報告もある。
  - ただ参加者は養鶏技術のことは覚えても、ジェンダーのことは忘れ、養鶏技術のことに注意が集中する傾向がある。
  - （“ジェンダーロール”はどうか変わったかという質問に対して）女性は家から離れたところでビジネスはできないという固定観念が変わってきた。男女双方が家庭に対する責任を負うようになった。力なく籠りがちだった女性の家庭内での発言力も上がり、女性自ら意思決定を行うようにもなった。結果として男女双方が幸せを感じるようになった。
- (パイロットプロジェクトに限らず) PDWA 局長としてどのようなインプットを行っているか
  - PDWA がミーティングを開き、連携局や村人にどのようにパイロットプロジェクトを行うか説明し、男女双方が参加・相談するよう促している。家族の収入をいかに増やすか等説明する。成功した家族を紹介し、男女双方が意思決定に関わるよう促している。
  - 衛生や健康やリプロダクティブヘルスについても提言を行っている。
  - 本邦研修で学んだ日本の女性の起業家精神や観光業での女性の取り組みを紹介している。

以上

日 時	2013 年 2 月 8(金) 15:30～16:00
場 所	PDWA
訪問機関名	WCCC
面談者	MS. H. E. KHEAV SAMOUN (Chair of WCCC)
出席者	調査団：田中団長、吉田（記録）、カンボジア事務所：Thyda

- WCCC の役割について（参考：地域の大きさは大きい順に州(Province)、District、Commune）
  - 各州の WCCC は 2009 に州法が制定されてから設立され、コンポンチャム州では 2011 年 2 月に設立され、2012 年より本格的に活動が開始された。
  - 2012 年以降はレギュラーミーティングを行うとともに、毎月約 3 つ・計 17 の District へ訪問し、District レベルの WCCC にオブザーバーとして参加している。District レベルの WCCC は 2011 年に結成され、District の評議会のメンバーが名を連ねている。また District からの報告書も精査している。これらを通じて女性や子どもの状況にどのような課題があるかを把握している。
  - Commune レベルの委員会(CCWC)もある。コミュニケーションカウンセラーがメンバーであり、人数は Commune のサイズによるが、5～11 人程度で構成されている。
  - Commune の女性はヘルスケアへのアクセスがない。そのため、WCCC が病院に行くよう促している。女性に対して良質な医療を提供するメディカルワーカーの情報を州レベルの WCCC にて蓄積・共有するようにしている。
  - DV については、警察のチーフに対して、DV のケースに対処するよう促している。
  - 2013 年も 2012 年に続き同様の活動を行う予定である。未解決の課題はミーティングで話し合い、進捗も把握している。
  - WCCC のサブグループを作るか、また、その TOR について、現在協議中である。女性の経済的エンパワーメントのためのサブグループを作るかは州関連局の意向次第。2013 年 2 月に協議する予定。
  - (Commune からの報告体制について) Commune からの報告体制 (Commune→District→州) は、①各 Commune のジェンダーフォーカルポイントが Commune チーフに報告、②その後重要なものは District に報告され、③最後に州レベル (州内の窓口は PDWA 局長) に報告される。難しい課題に対しては州レベルでも共に対処している。
  - 現在のところ州 5 年計画に対してのインプットは行っていない。活動予算は内務省から手当てされるが年間 1,550 ドルのみで制約が大きい。(これでも全ての州でコンポンチャム州の予算が最も大きい)。予算は月次打ち合わせ分程度しかカバーできない。
- ユニセフとの関係
  - ユニセフが WCCC の活動に関心を持っているが忙しい様子。ユニセフがコンポンチャム州の WCCC に訪問したのはこれまで一度のみである。
  - ユニセフが州レベルの WCCC に対して 3 日間のトレーニングプログラムも提供している。内容は州・District レベルの WCCC の役割・責任を主なものとしている。また、過去 NGO の Plan international が同様のトレーニングを提供していた。
  - 州レベルの WCCC が Commune レベルのフォーカルポイントに対しても研修を行っている。
- PGM2 について
  - PGM2 のことは副知事が PGM2 についてのレポートを共有してくれるため認知している。ただし、訪れたことはない。命令があれば視察可能。

以上



